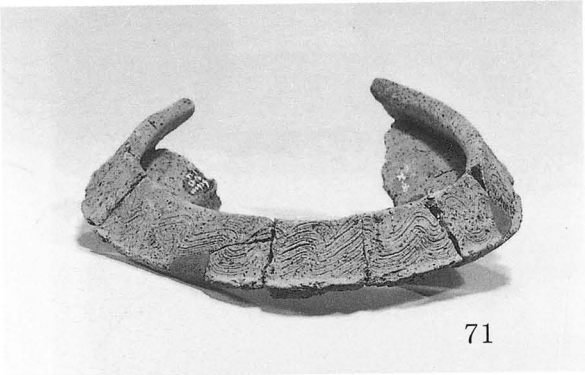
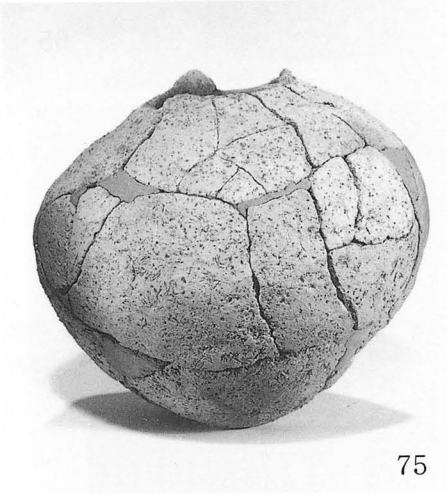
図版28

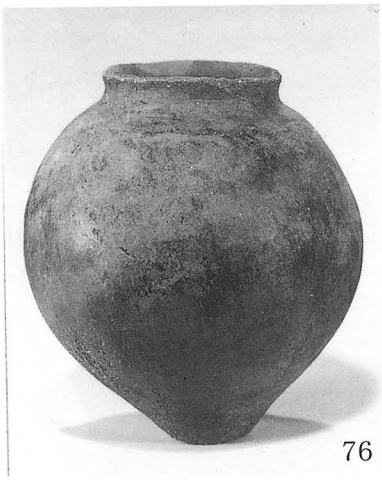
72

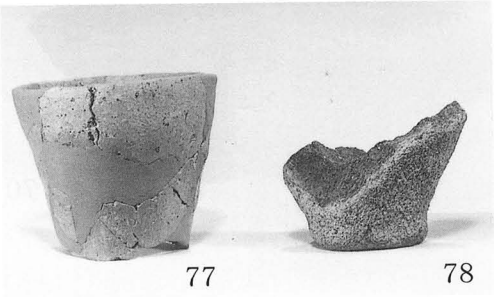
73


71


75

74


76


77 78

弥生時代の出土遺物

図版29

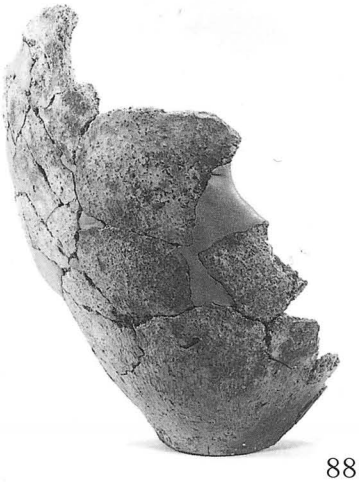
79

81

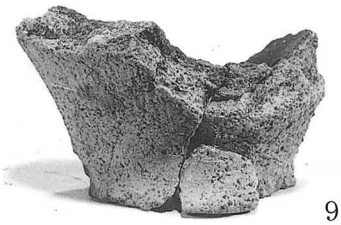
82

80

89　90


88

93


91

92

94

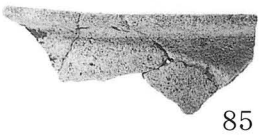
87

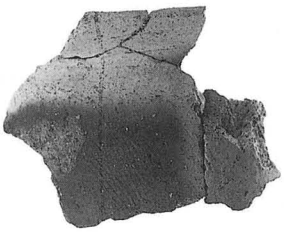
弥生時代の出土遺物

図版30

84

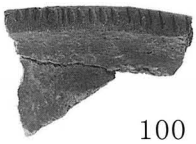
97

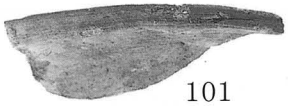

85


96

95

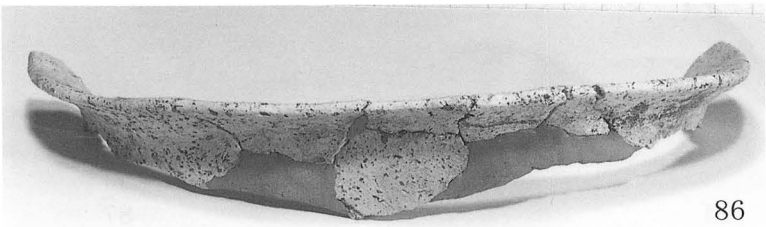
98


100

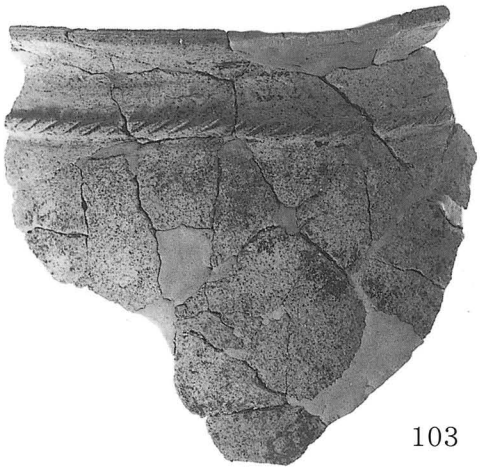

101

83

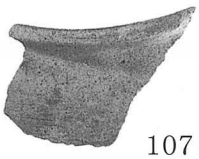
99


86

弥生時代の出土遺物


102

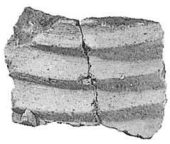
104

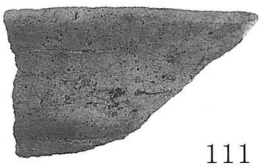

107

103

105

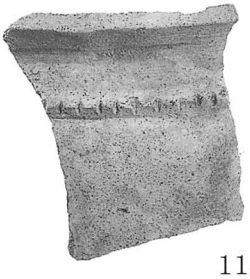
108


114


111

106

113

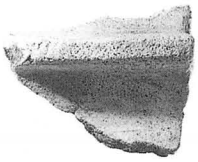

112

109

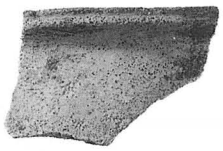
110

115

弥生時代の出土遺物



116



117

120

118

119

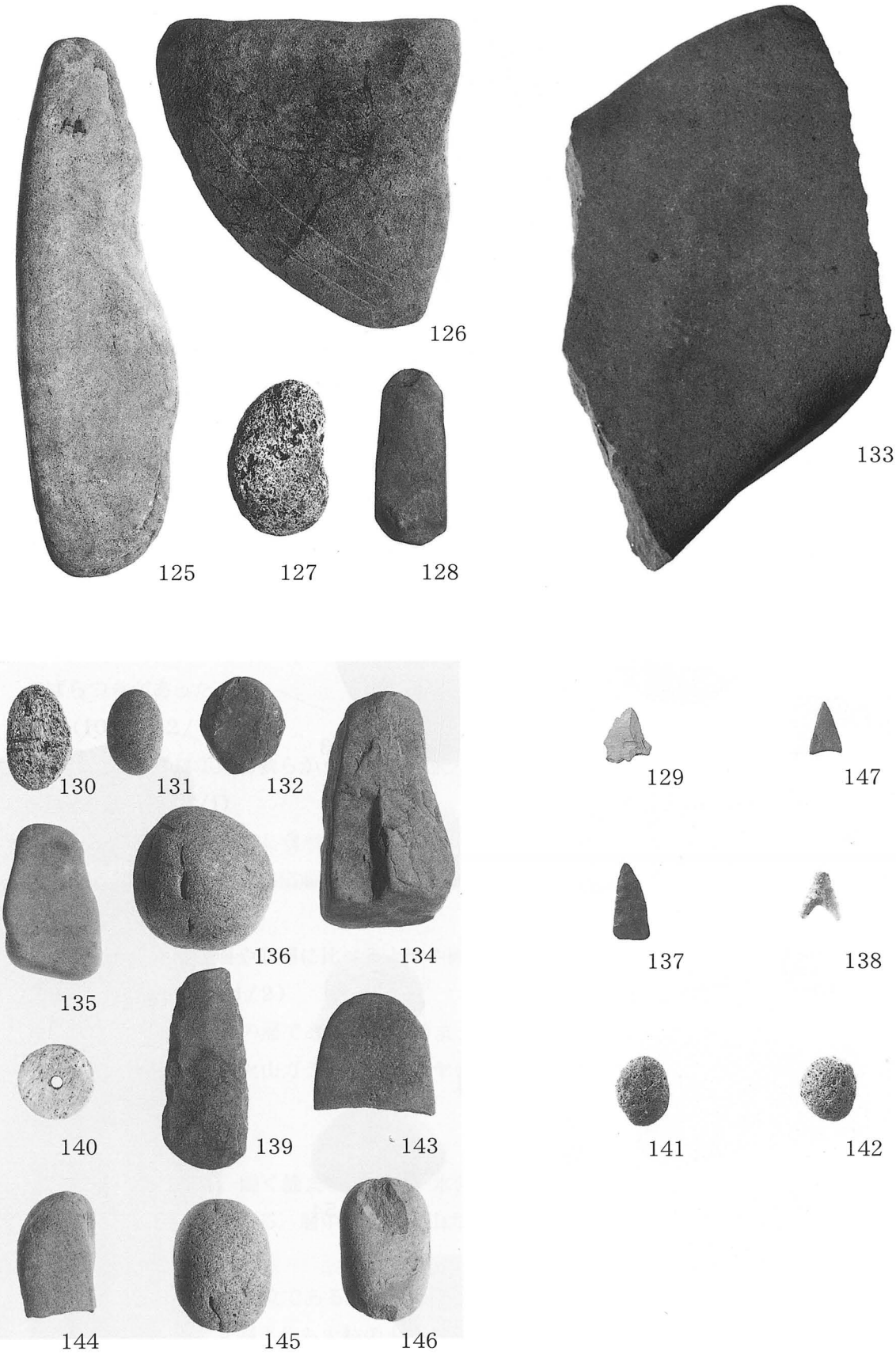
121

122

123

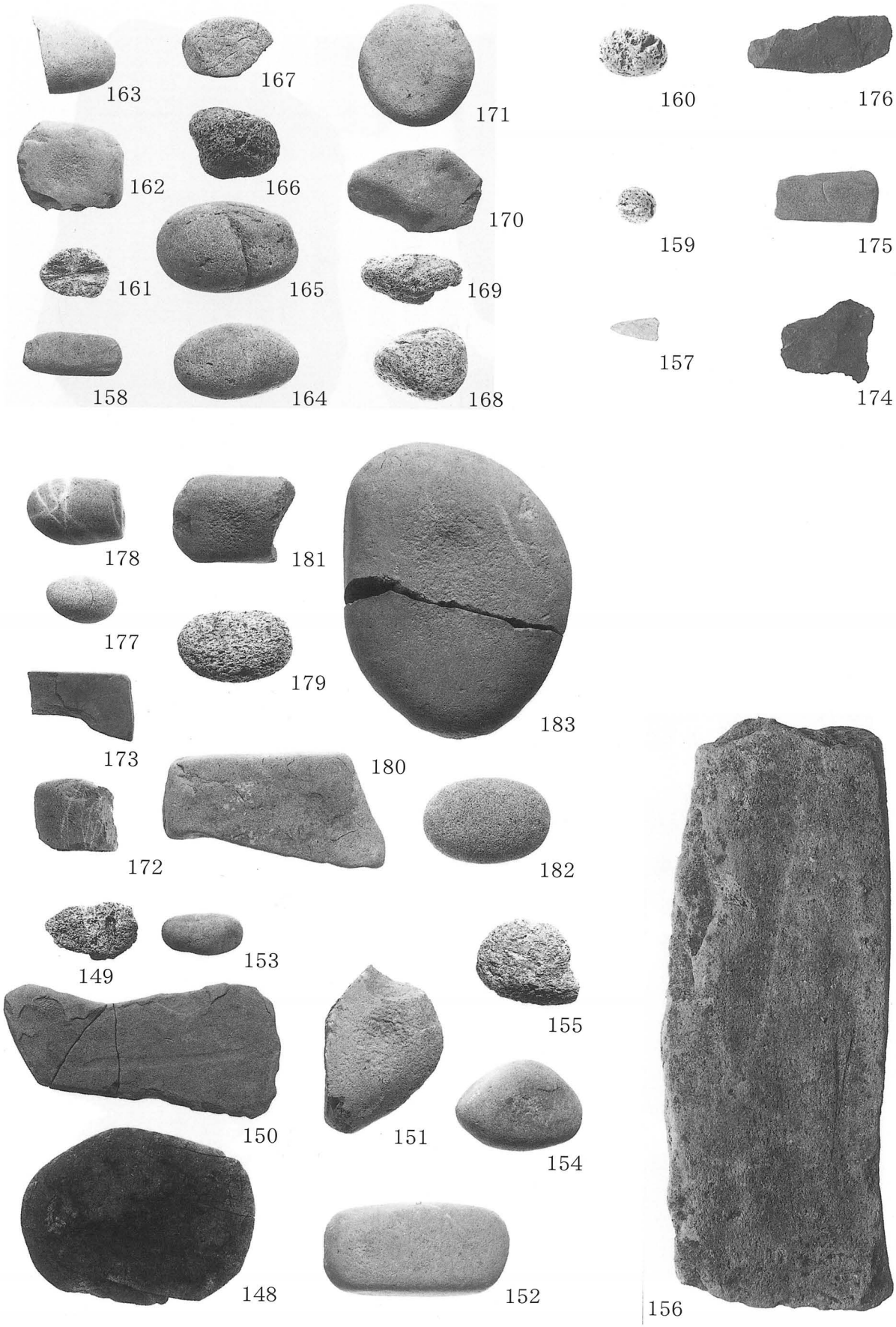
124

弥生時代の出土遺物


126
133
125
127
128
130
131
132
129
147
136
134
135
137
138
140
139
143
141
142
144
145
146

弥生時代の出土遺物

図版34



弥生時代の出土遺物

第Ⅳ章　ズクノ山第２遺跡Ａ，Ｂ，Ｃ地区

第１節　調査の概要

遺跡は、鹿村野台地の北側、ズクノ山第2遺跡Ｅ地区とF地区に挟まれた地点に立地する。調査前は起伏のない平坦な畑地であったが、第Ⅲ層であるアカホヤ火山灰層上面まで掘削した際に、ズクノ山第2遺跡F地区の丘陵の影響により、西側から東側に向かって緩やかに傾斜していることが明らかとなった。

調査にあたっては、試掘の際にアカホヤ火山灰層であるⅣ層の上位で遺物が確認されていることから、Ⅱ層を取り除いた時点まで機械による掘削を行い、以下は手掘りによる調査を行った。その結果、Ｂ地区以外にはⅣ層の上位に遺物包含層の堆積は確認されず、Ｂ地区においても遺物の出土はごく僅かであった。しかし、Ⅳ層まで下げた時点で、多数のピット群を検出した。Ａ地区は、層を取り除いてⅦ層上面まで掘り下げたが、遺物の出土は数点のみであった。また、Ｃ地区は西側の一部に深掘りを行い、遺物の有無を確認した。

第２節　層序

本調査における層序は、Ⅰ層からＸⅡ層まで分別できた。堆積状況は、地区によってかなりのばらつきがあった。

Ⅰ層（10YR黒２/１）

耕作土層。ボロボロと軟らかく崩れる。水分は殆ど含まない。

Ⅱ層（7.5YR黒1.7/1）

軟質であり、水分を少し含む。色調がⅠ層に似ていることもあり、見分け辛い。Ａ・Ｂ区で検出された柱穴の実際の検出面は、Ⅱ層とⅢ層の境界である。

Ⅲａ層 10YR黒褐２/２）

軟質であるが、Ⅰ層やⅡ層に比べるとやや硬い。水分を少し含む。

Ⅲｂ層（10YR灰黄褐４/２）

アカホヤ火山灰直上の層である。固く締まっている。層中には１mm程度の白色粒子が僅かに混入している。他に火山ガラスやアカホヤ火山灰の細かい粒子も含むが、一般的な二次堆積層よりも締まっている。

Ⅳａ層（明黄褐６/８）

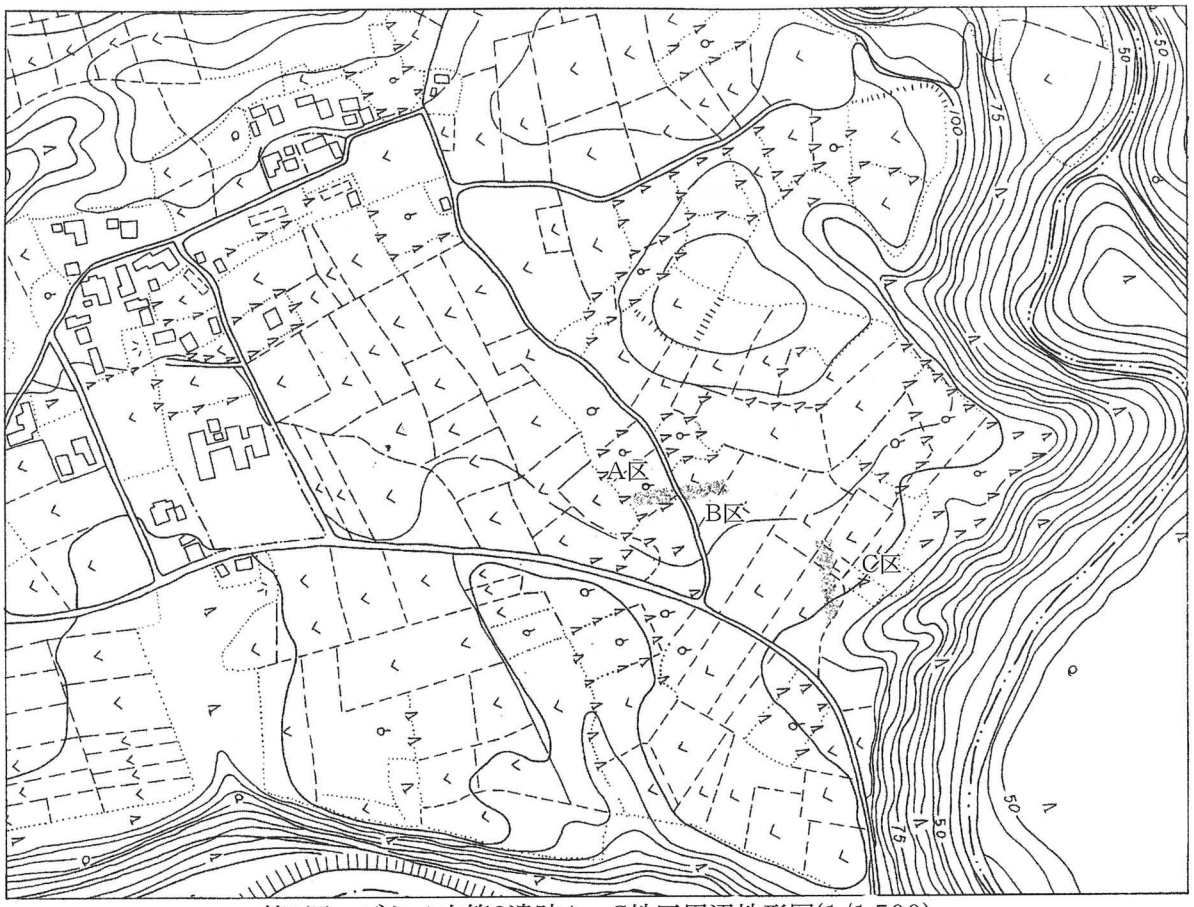
アカホヤ火山灰層。固く締まっており、水分は全く含まない。他層との混入はなく、非常にプライマリーな状態である。層中には、火山ガラスが多量に含まれる。

Ⅳｂ層（明黄褐６/６）

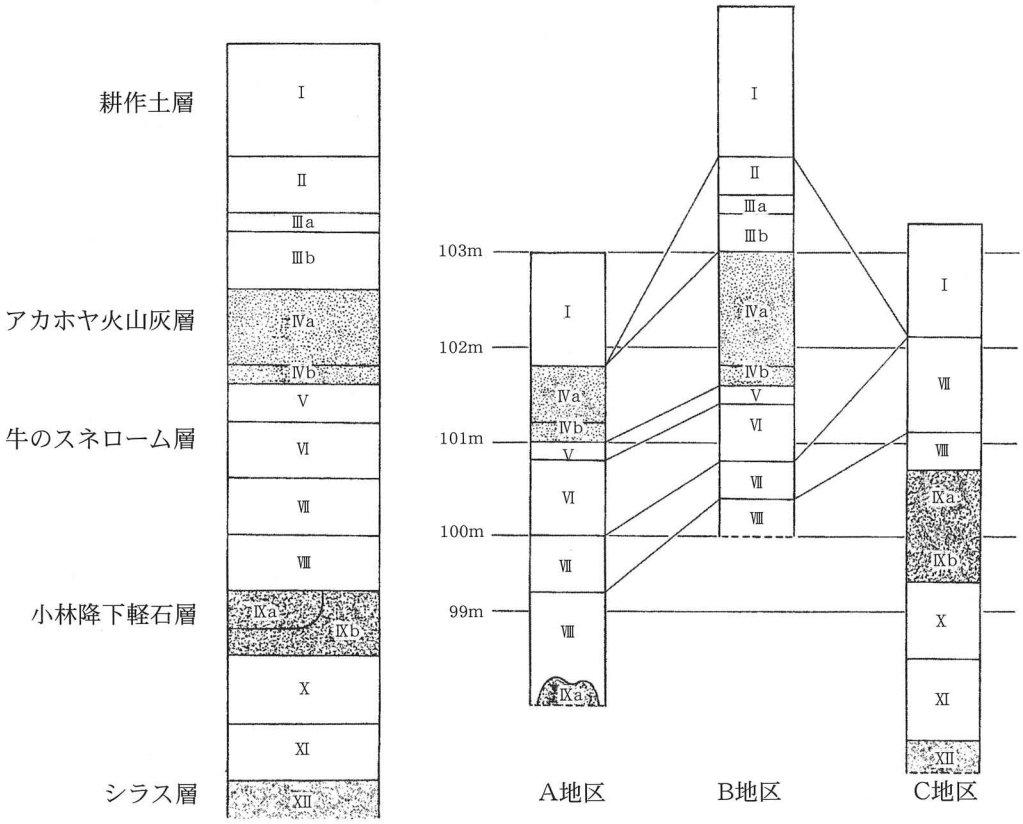
アカホヤ火山灰層の下位である。固く締まっている。水分は少し含む。層中には、オレンジ色の軟質粒子や、Ⅳａ層よりも大粒の火山ガラスを多量に含む。他に、角閃石も中量含む。

Ⅴ層（2.5Y黒褐３/１）

Ⅳ層とⅥ層の漸移層。固く締まっており、水分を少し含む。層中にはオレンジ色の軟質粒



第1図　ズクノ山第2遺跡A～C地区周辺地形図(1/1,500)



第2図　土層柱状模式図

子・大粒の火山ガラス・角閃石など、Ⅳｂ層でも確認された粒子が、それぞれ少量含まれる。

Ⅵ層（10YR暗褐３/３）

牛のスネローム層。大変固く締まっており、水分を少し含む。層中には細かな軽石が多く含まれる。

Ⅶ層（10YR暗褐３/３）

縄文時代早期のローム層。固く締まっている。水分を多く含む。色調はⅥ層と同じであるが、Ⅷ層で多く確認された細かな軽石は、ごく僅かしか含まれない。

Ⅸ層（10YR褐４/４）

固く締まっているものの、Ⅶ層より軟質である。粒子が細かく、水分を多く含み、粘性に富む。層中には、Ⅸａ～ｂ層に多く含まれるオレンジ色の軟質粒子を、僅かに認めることができる。

Ⅸａ層（５Yオリーブ黄６/３）

小林降下軽石層。大変固く締まっており、水分を少し含む。層中には、オレンジ色の軟質粒子や細かな軽石が多量に含まれ、それらが高密度で固まった印象を受ける。色調は安定せず、所々黒味がかかっているが、炭化物の混入はない。

Ⅸｂ層（10YR灰黄褐５/２）

Ⅸａ層と同じく小林降下軽石層である。大変固く締まっており、水分を多く含む。層中に含まれる粒子はⅨａ層と全く同じであるが、密度は中量程度であり、粒子も細かい。

Ⅹ層（10YR黒褐３/１）

固く締まったローム層。固さや水分はⅨｂ層に似ているが、Ⅸ層で一般的に見られたオレンジ色の軟質粒子は、この層では殆ど見られない。

ⅩⅠ層（2.5Y浅黄７/３）

固く締まったローム層。Ⅹ層よりも軟質である。水分を多く含み、粘性に富む。混入物は殆ど含まない。

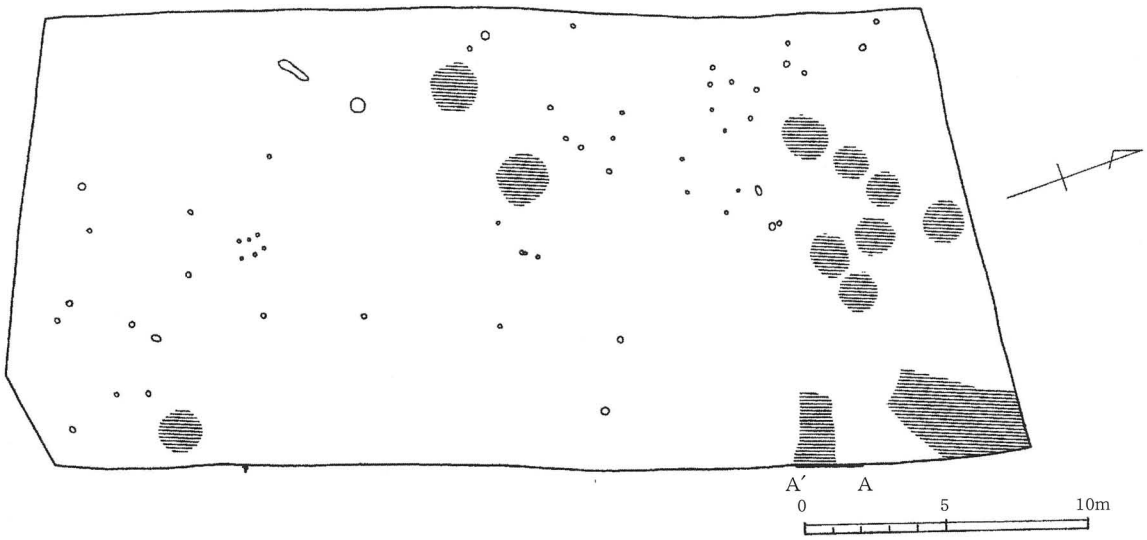
ⅩⅡ層（５Y浅黄７/４）

シラス層。粒子は粗く、軟質であり、水分は全くない。層中には、小粒の軽石や火山ガラスを多量に含む。

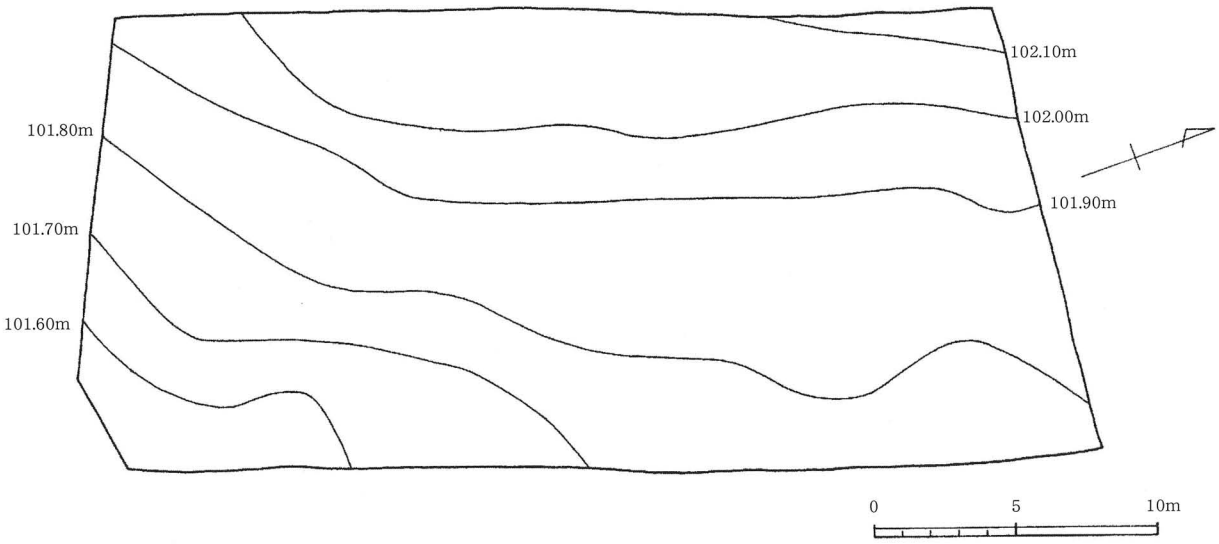
第３節 各地区の調査結果

Ａ地区

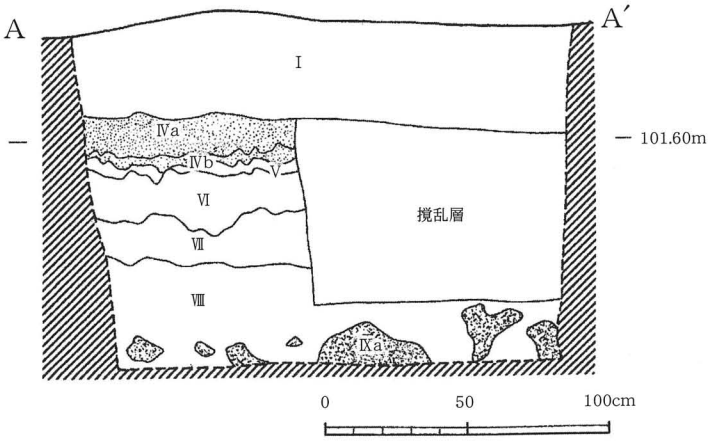
アカホヤ上面まで掘削を進めたところ、近･現代の攪乱と共にピット群を60基確認した。検出されたピット群は、総数60基に上り、主に調査区の西側に分布していた。平面形は、径10～20cmの円形を呈すものが殆どであるが、深さはⅣ層上面から15～50cmと、かなりのばらつきがある。覆土は、Ⅱ層の黒色土層の中に、Ⅳ層のアカホヤ火山灰層のブロックが入っていた状態であった。覆土中からは、少量ながら縄文時代後期と考えられる土器片が出土したため、遺構が構築された時期は、縄文時代後期である可能性が高い。ピットの配置には、住居を想定



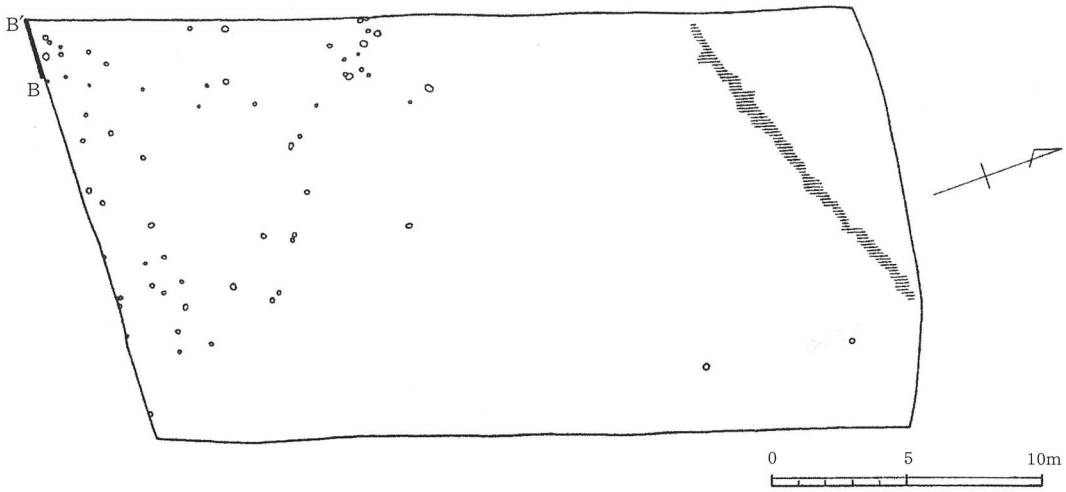
第3図　A区遺構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



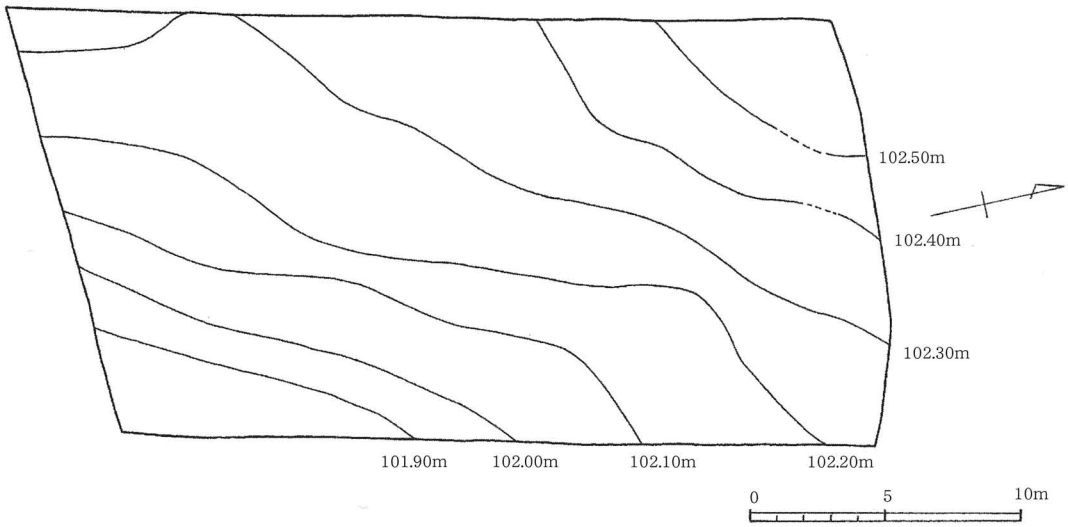
第4図　A区コンタ図(第Ⅳa層上面)



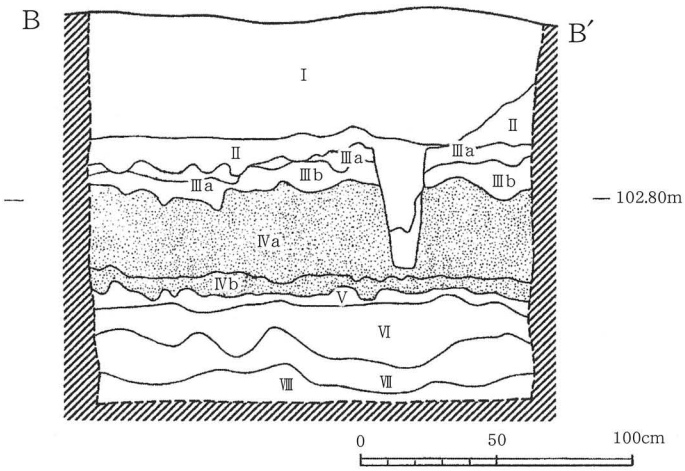
第5図　A区土層断面図



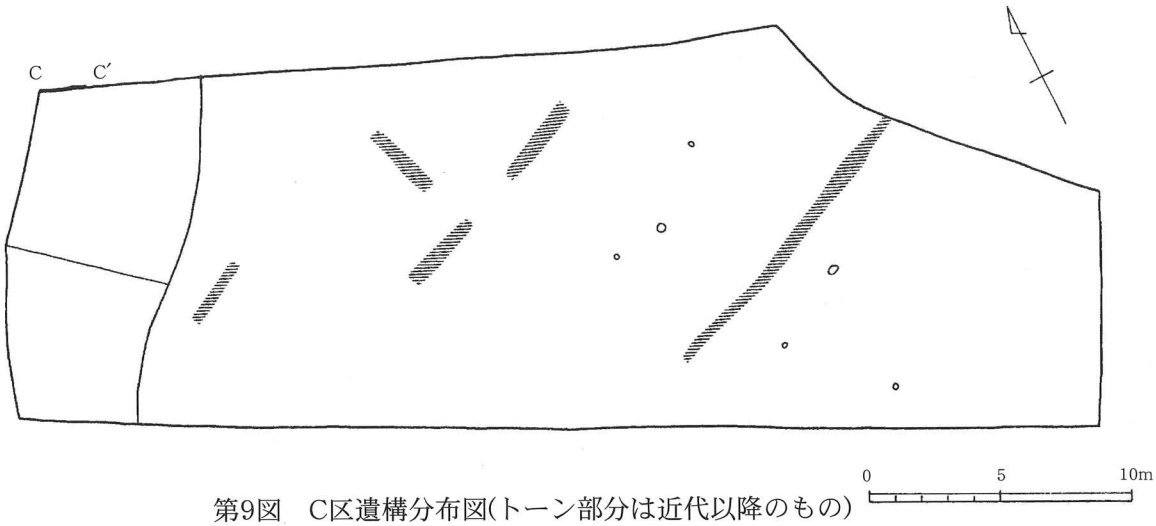
第6図　B区遺構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



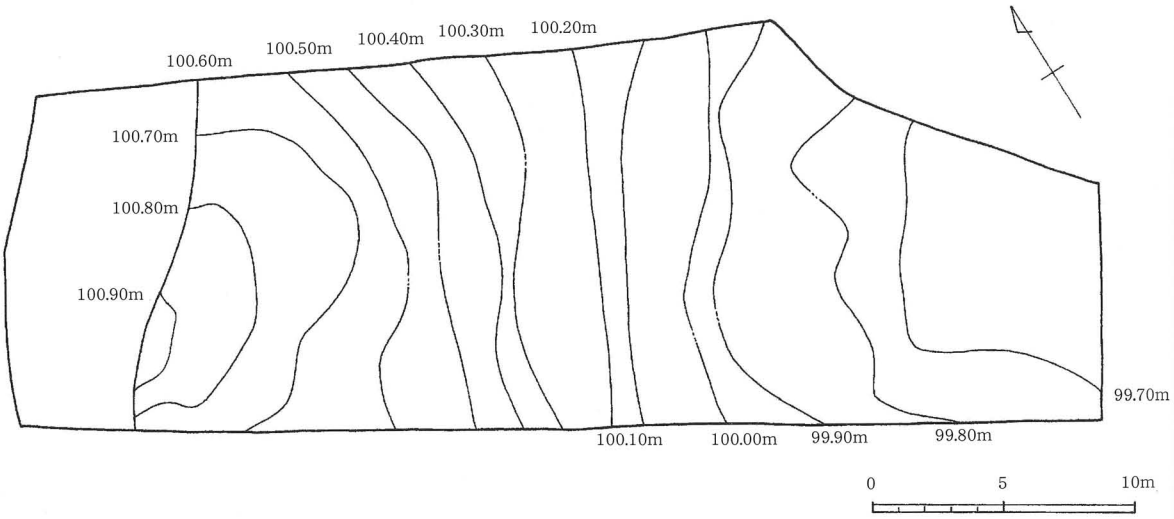
第7図　B区コンタ図(第Ⅳa層上面)



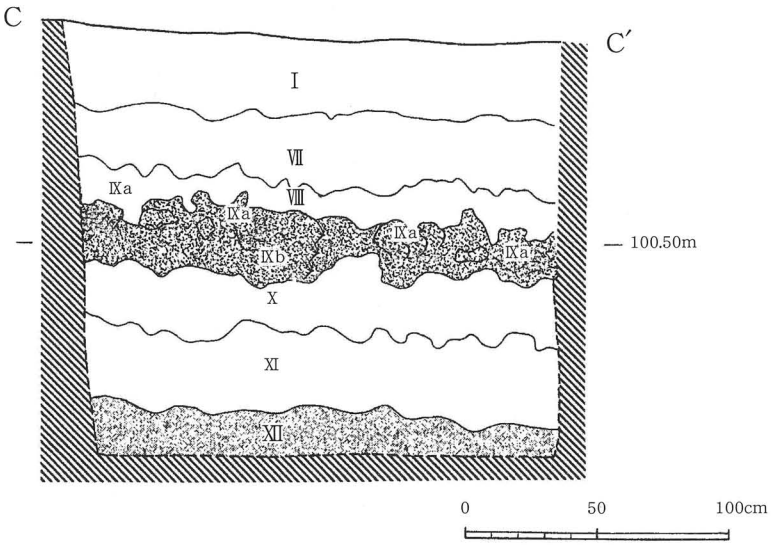
第8図　B区土層断面図



第9図　C区遺構分布図(トーン部分は近代以降のもの)



第10図　C区コンタ図(第Ⅳa層上面)



第11図　C区土層断面図

できるような、規則性やまとまりは認められなかった。

調査は、その後Ⅲ層の除去を行い、Ⅳ層の調査を行ったところ、上層において、輪郭のはっきりしない、円形～断面形を呈す黒いシミを確認した。半裁すると、断面はボウル状を呈していた。古環境研究所に分析を依頼したところ、ススキの株跡との結論であった。そのままⅣ層の調査を行ったが、遺物の出土は数点に留まった。

B地区

Ⅰ層を取り除き、Ⅳ層まで手掘りによる調査を行ったところ、数点の遺物が出土した。いずれも小片であり、具体的な時期は不明であるが、うち1点が岩崎式土器であったことから、縄文時代後期と考えられる。その後、Ⅳ層の上面で、A地区同様ピット群を検出した。総数は69基であり、南側に著しく集中した分布状況であった。平面形や深さ、覆土等の特徴は、A地区のそれと全く同じである。また、断面上で検出されたピットの観察から、掘り込みの上面はⅡ層下面であることが判明した。なお、北側からは浅い溝も検出されたが、覆土の観察から、近・現代のものであることが明らかとなった。

C地区

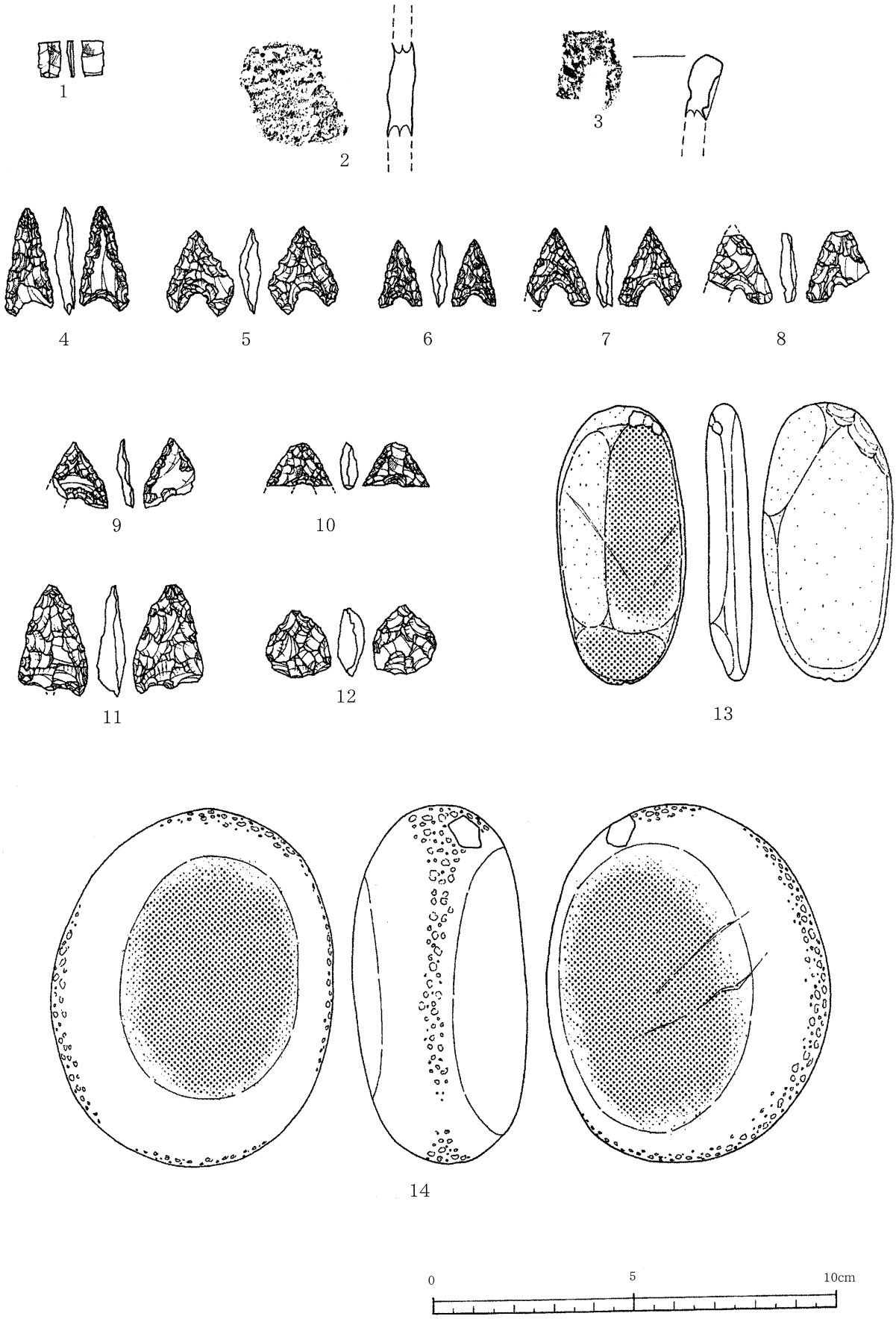
Ⅰ層を取り除いたところ、既にⅣ層は残されておらず、Ⅶ層が広がっていた。西端部のみ手掘りによる調査を行ったが、遺物は全く確認できなかった。Ⅸ層を掘りぬき、Ⅹ層を掘り下げたところ、黒曜石製の細石刃が1点出土した。なお、東側からは溝跡も検出されたが、これは近・現代のものであった。

第4節 出土遺物(第12図)

(1)は、樋状の剥離を連続的に行う石核から剥離された、黒曜石製の細石刃である。上部、下部共に欠損しているが、これは調査時における欠損とは異なる。C地区のⅩ層より出土した。(2)は、口縁部付近にあたり、棒状の工具による凹点が施文されていることから、縄文時代中期末～後期初頭の岩崎式土器と考えられる。(3)は、斜位の条痕が内外面に行われる。時期は不明である。(4～12)は石鏃である。うち(4～10)は完成品で、基部には明確な抉りが設けられる。(11・12)は、両面に調製が行われているものの、形状が不明瞭であり、未製品と考えられる。(13)は、薄い円礫の表面に研磨痕が残され、磨石の一種であると考えられる。(14)は磨石である。両面に研磨痕が、周縁には敲打痕が認められる。

第5節　小結

この調査では、試掘によりアカホヤ上層で縄文時代後期の生活跡が出土すると思われたが、包含層はB地区の一部を除いて既に削平されていたために、遺物は確認できなかった。しかし、A・B地区で検出されたピット群は、Ⅱ層より掘り込まれていることや、覆土内の出土土器より、縄文時代後期である可能性が高いといえる。ピットの配置にまとまりは認められなかった

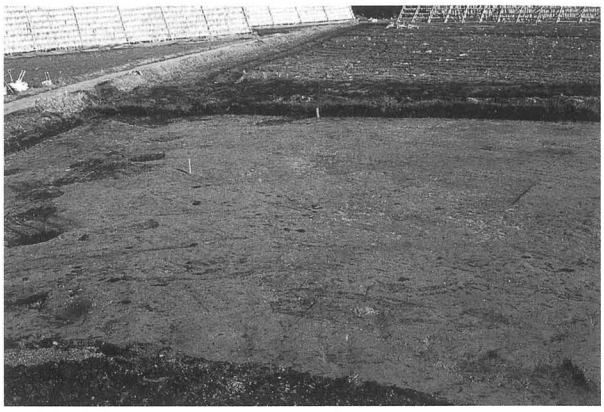


第12図　出土遺物実測図

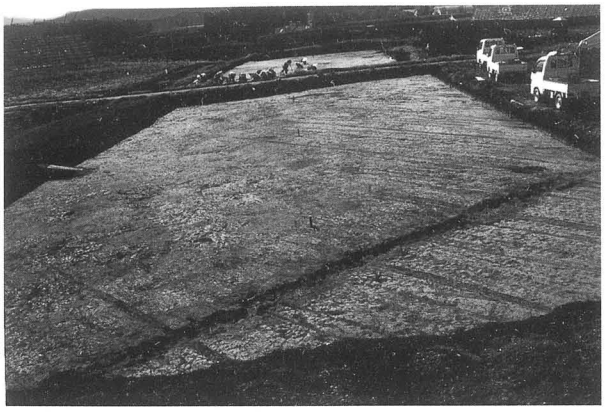
が、恐らく掘立柱建物、もしくは平地式住居に伴うと思われる。

Ａ地区の一部では、縄文時代早期の遺物包含層であるⅥ層も調査を行ったが、遺物は極めて少量であった。当時この地点は東西の丘陵の間にあたるため、集落を営むには不向きな立地条件であったと考えられる。なお、Ｃ地区からは黒曜石製の細石刃が出土している。出土層位はⅩ層であり、Ⅸ層の小林降下軽石層の下層にあたる。近隣のズクノ山第2遺跡Ｆ地区のｅ区からは、ＡＴ上位より石器群が確認されたほか、層位不明ながらチャート製の細石刃も出土した。この出土例は、鹿村野台地の旧石器時代を知る上で参考となるであろう。

図版1

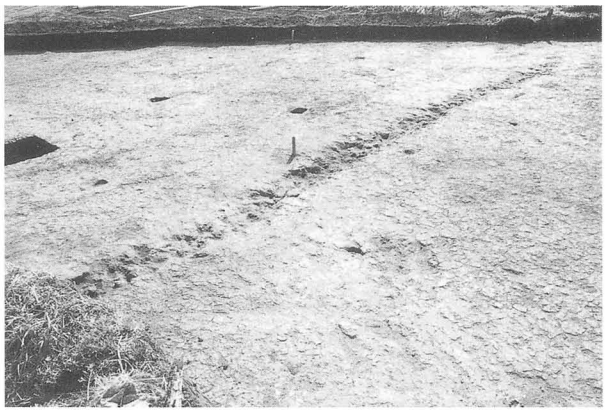


A区　調査区近景(西から)

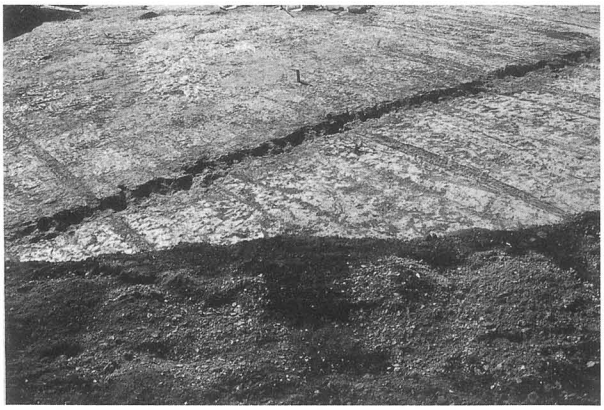


B区　調査区近景(北から)

C区　調査区近景(西から)



C区　溝状遺構検出状況(北から)

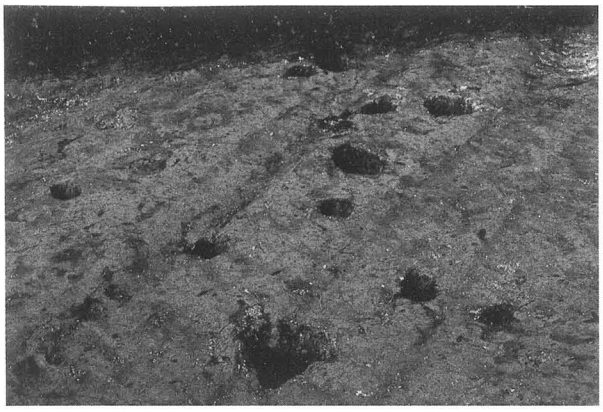


B区　溝状遺構検出状況(北から)

A区　ピット群検出状況(南東から)

図版2

A区　ピット群検出状況(北東から)



A区　ピット群検出状況(西から)

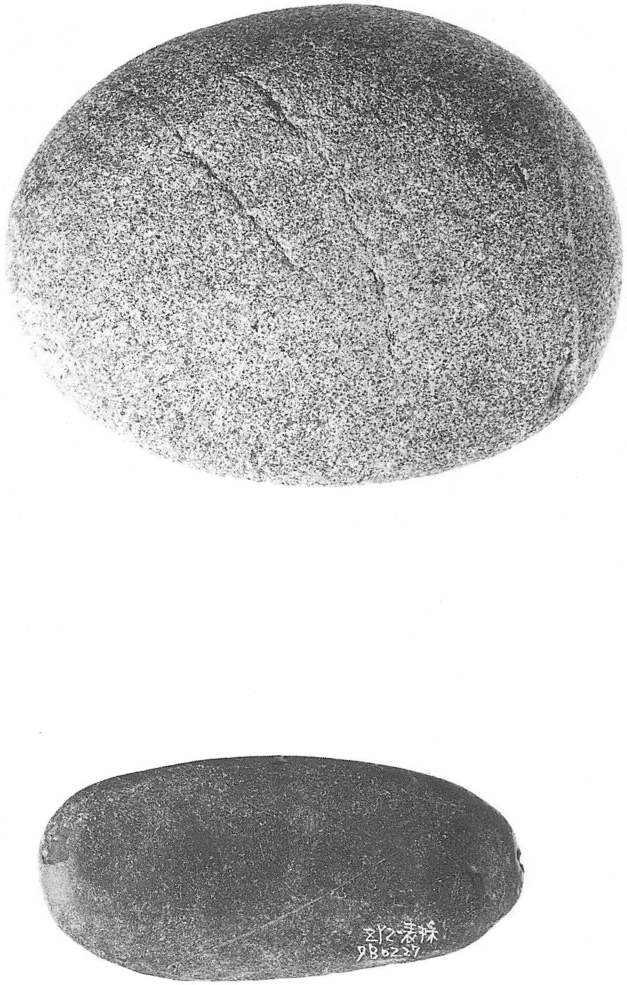
A区　東壁土層断面(西から)

B区　南壁土層断面(北から)

C区　北壁土層断面(南から)

作業風景

出土遺物(土器・石鏃)



出土遺物(磨石)

第Ⅴ章　ズクノ山第２遺跡Ｅ地区

第１節　調査の概要

遺跡は鹿村野台地の北東端部にあたり、南北に走る県道花見田野線が、黒北に向かって大きくカーブする地点の東側に位置する。調査前は起伏のない平坦な畑地であったが、耕作土を除去した段階で、調査区の西側が全体的に大きく落ち込んでいるほか、遺物集中区を南北に横切る緩やかな落ち込みも認められた。一方、調査区の中央付近からは、開墾の際に削平された微高地も確認された。

層序は後述するが、本遺跡の調査にあたっては、第Ⅱ層上面と第Ⅲ層上面の二度に分けて表土の掘削を行ったところ、調査区西側は第Ⅰ層や第Ⅲ層が分厚く堆積しており、開発事業による遺物包含層への影響は少ないと判断できたため、東側に集中して、手掘りによる調査を行うことにした。その結果、縄文時代早期に属する土器や石器等の遺物、集石遺構や土坑などの遺構が確認された。このうち、調査区北側において列状に並んで確認された土坑は、Ⅲ層上面で検出されたが、集石遺構の検出面は、いずれもⅥ層下面付近であった。遺物は、主にⅣ層からⅦ層にかけて確認された。出土土器の大半は、早期前葉と思われる貝殻条痕が施文された土器であり、検出された集石遺構の多くも、この土器が製作された時期に構築されたものと考えられる。

第２節　層序

調査区内の基本層序は、Ⅰ層からⅩ層に分別できた。堆積状況は第２図の通りである。

Ⅰ層（2.5Y黒褐３/２）

耕作土層である。軟質であり、粘性は全くない。層中にはＡｈブロックが多量、ガラス質粒子が少量、白色粒子が微量含まれる。遺物としては、縄文早期の遺物のほかに、近代以降の陶磁器や、弥生時代の磨製石鏃に使用される結晶片岩の破片も採集されている。

Ⅱ層（10YR黄橙７/８）

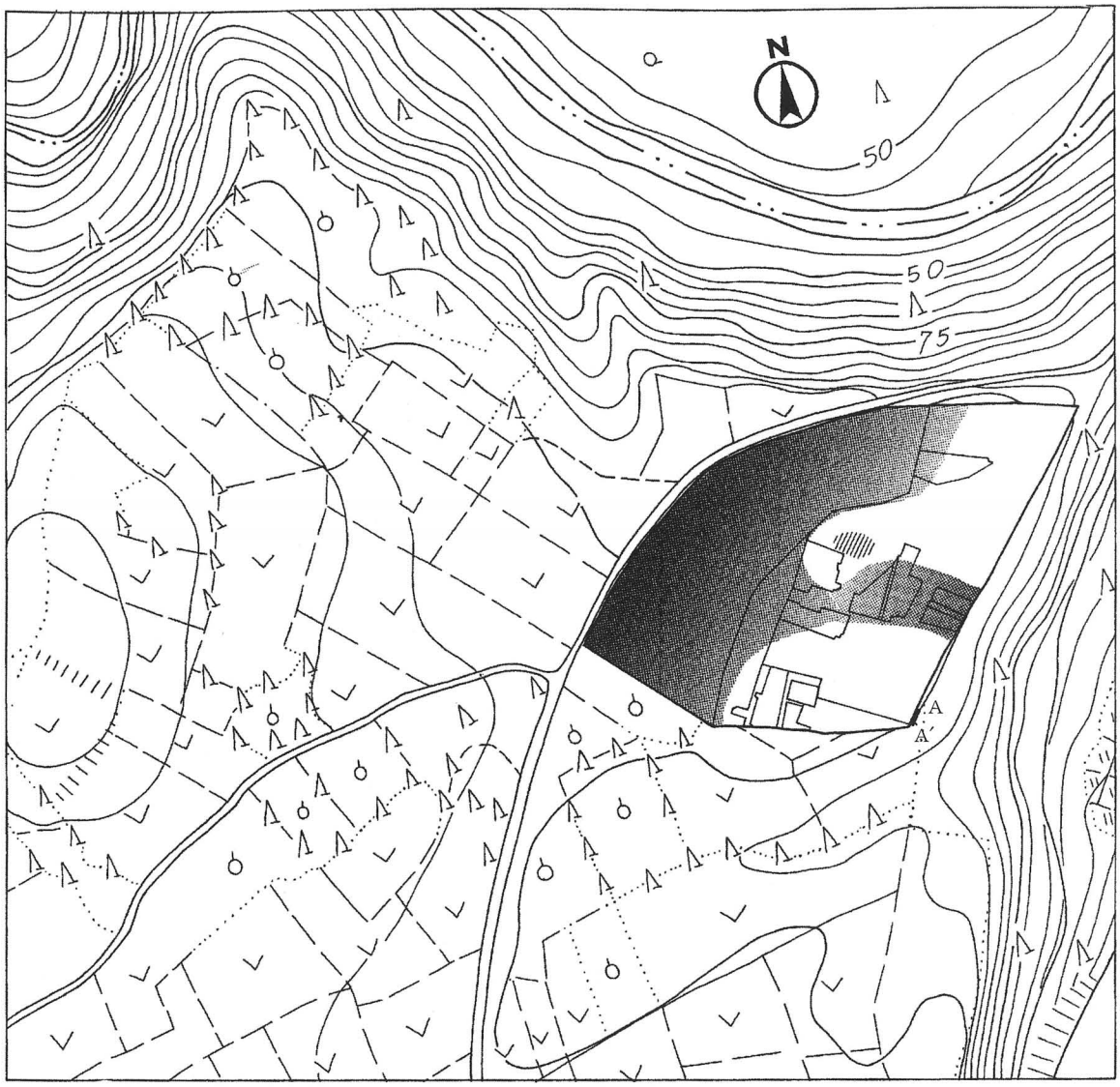
アカホヤ火山灰層である。軟質でサラサラしており、粘性は全くない。層中にはガラス質粒子を多量、黒色粒子を中量、白色粒子を少量含む。上部が削平されているため、二次堆積層は確認されなかった。

Ⅲ層（2.5Y暗灰黄４/２）

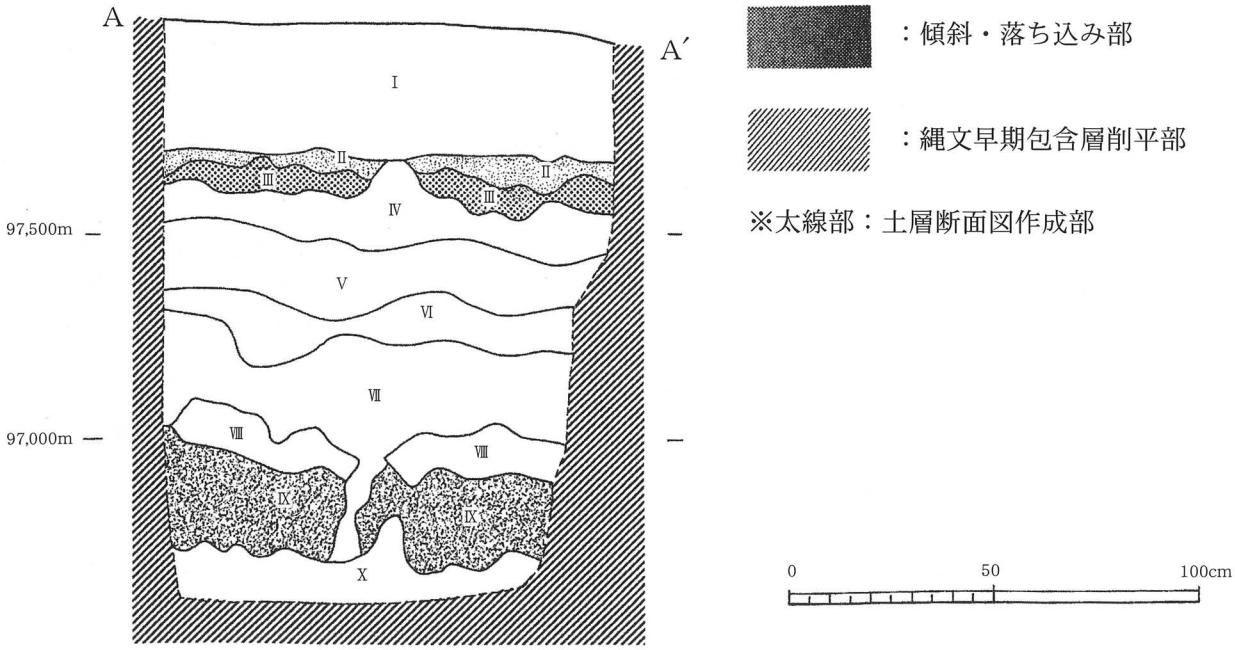
牛のスネローム層である。極めて固く締まっており、粘性は僅かにある。層中には、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を多量含む。南西側に行くほど堆積が厚く、南西端部の断面では約20ｃｍに達していた。

Ⅳ層（10YR黄褐５/６）

早期ローム層である。固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を中量、ガラス質粒子を多量、黒色粒子を微量含む。また、ややまだら状



第1図　ズクノ第2遺跡E地区周辺地形図(S＝1/1000)



第2図　ズクノ山第2遺跡E地区土層断面図

の斑紋が見られる。これら混入物の量から、下層との線引きが可能である。縄文時代遺物包含層は、この層からⅦ層の間である。

Ⅴ層（10YR黄褐5/6）

Ⅳ層と同じく早期ローム層である。固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を中量含むほか、炭も微量混入する。Ⅵ層よりもまだら状の斑紋が強くなる傾向にある。

Ⅵ層（10YRにぶい黄褐5/4）

Ⅳ・Ⅴ層よりもやや軟質ながら、固く締まった層である。粘性は僅かにある。層中には、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量含み、炭も微量混入する。Ⅳ層から続く混入物は、いずれも少量のみに留まるほか、まだら状の斑紋も一旦消える。遺物の出土もこの層が最も多いため、Ⅳ層の下面からⅦ層の上面が、縄文時代早期前葉の生活面であったと考えられる。

Ⅶ層（10YR褐4/4）

固く締まっており、粘性がある。層中には、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が強く出ており、色調は不安定である。なお、第2図ではこの層が一部下層に入り込んでいるが、これは水穴である。

Ⅷ層（10YR褐4/4＝平均）

Ⅶ層とⅨ層の漸移的な層である。まだら状の斑紋が強く、極めて固く締まった部分と、それほど固くない部分から構成される粘性は一様にある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を微量含む。

Ⅸ層（10YRにぶい黄褐5/4）

小林降下軽石層である。層は極めて固く締まっており、粘性は少しある。角閃石の粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。Ⅹ層の粒子も少量ながら混入する。小林降下軽石層が、これほど分厚く堆積するのは、この調査区の特徴と言える。

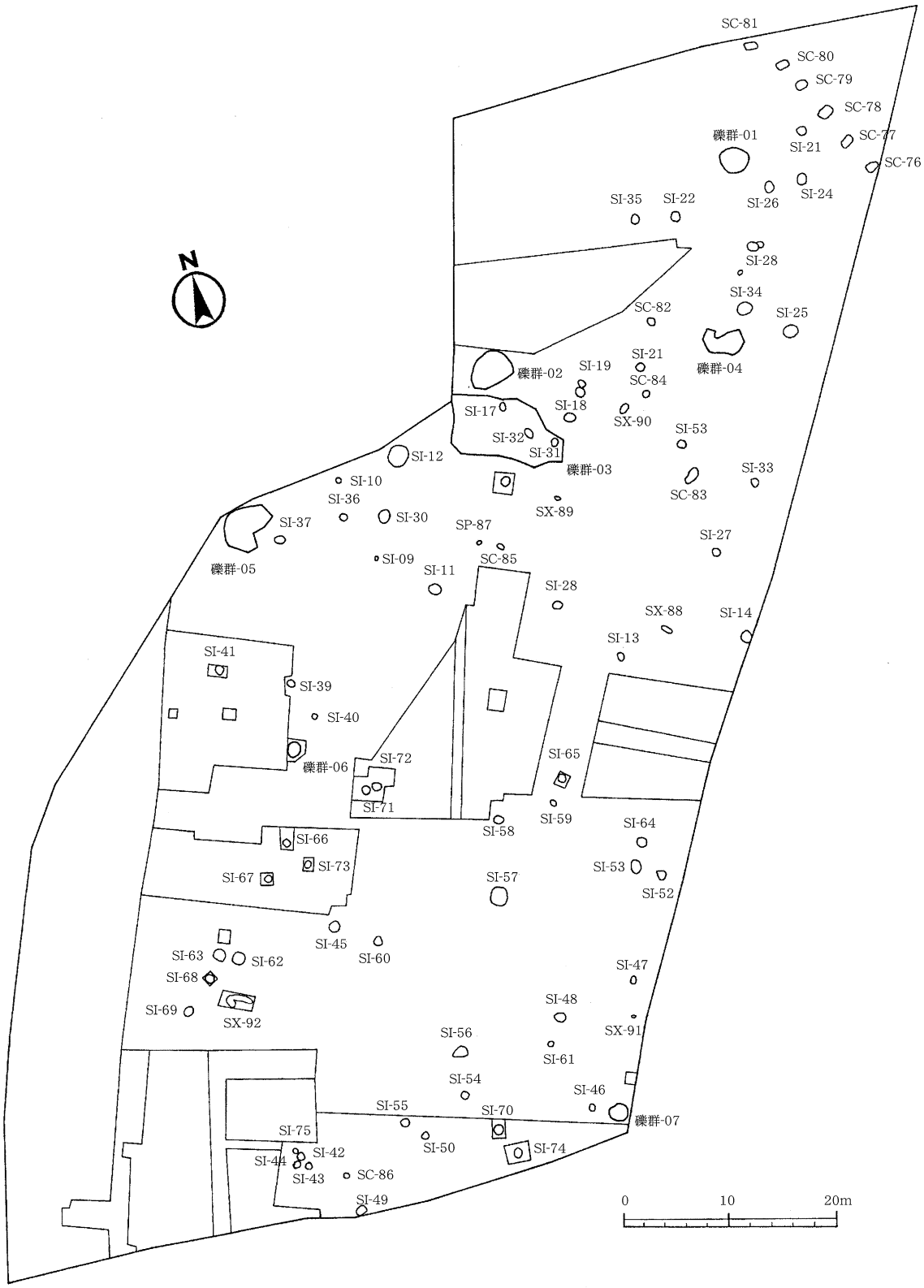
Ⅹ層（10YR黄褐5/6）

極めて固く、粘性に富む。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を多量、黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。小林降下軽石層を挟んで再びローム層に戻るが、固さや粘性には大きな開きがある。この層より下位は旧石器時代に堆積した層である、トレンチから遺物は確認されなかった。

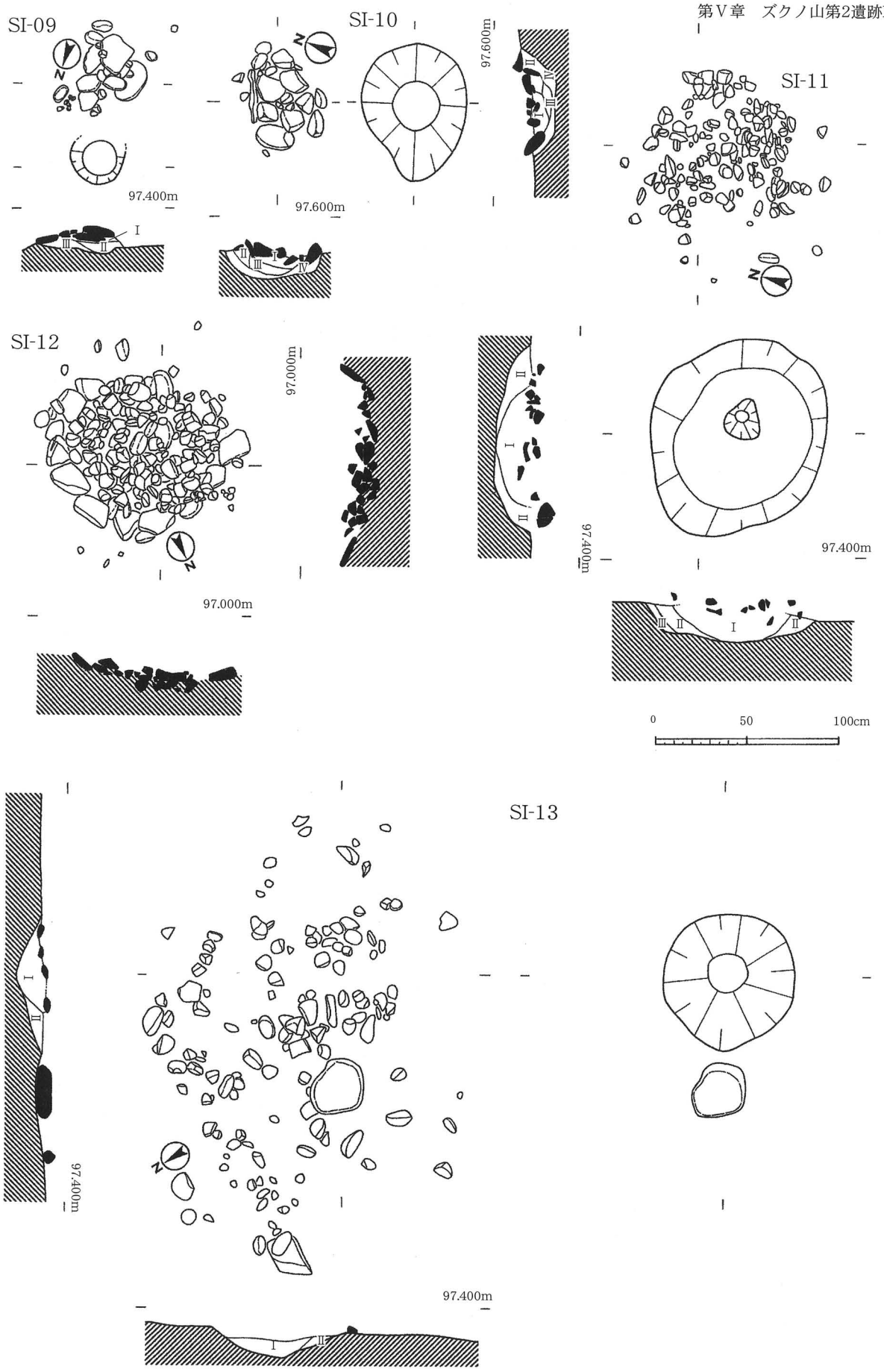
第3節　検出遺構

Ⅰ・礫群

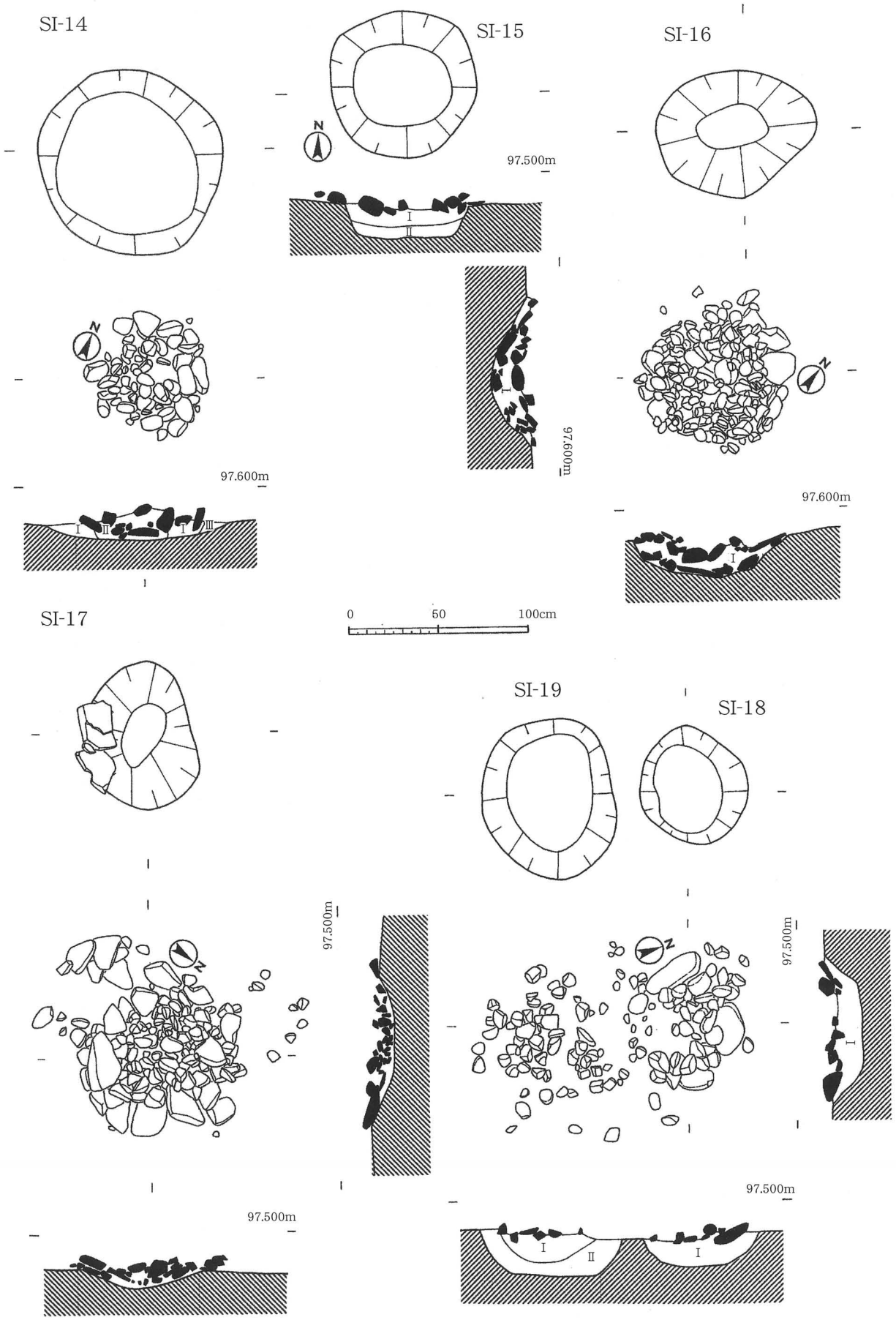
8基確認された。これらの分布には、次のような傾向が見られる。礫群2・3・5は北西部の傾斜に沿っており、礫群1・4・7は平坦地上に、また礫群6は調査区を横切る緩やかな落ち込みの最も深い地点で検出された。大きさは、約50㎡である礫群3以外はいずれも小ぶりで



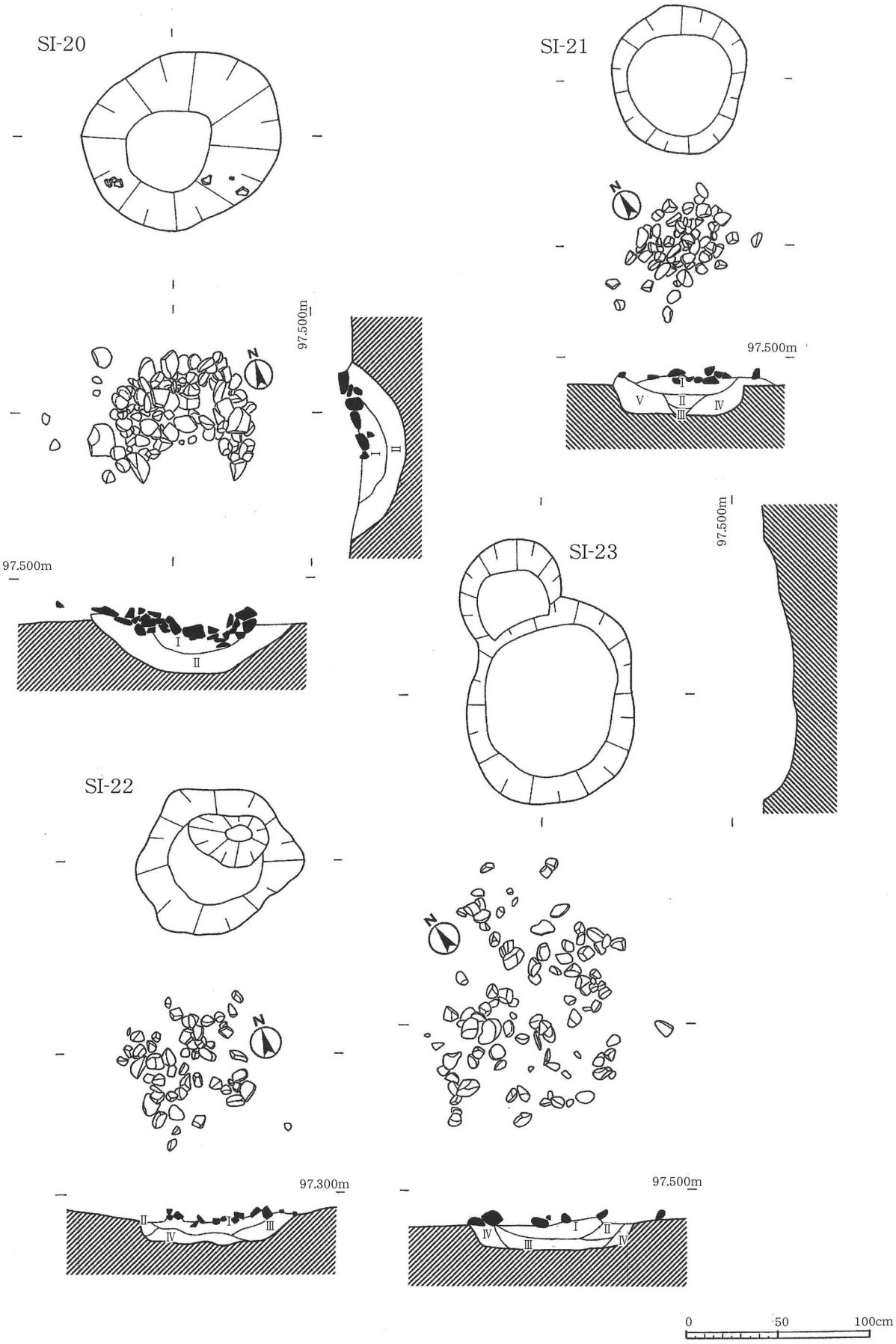
第3図　遺構配置図(1/600)



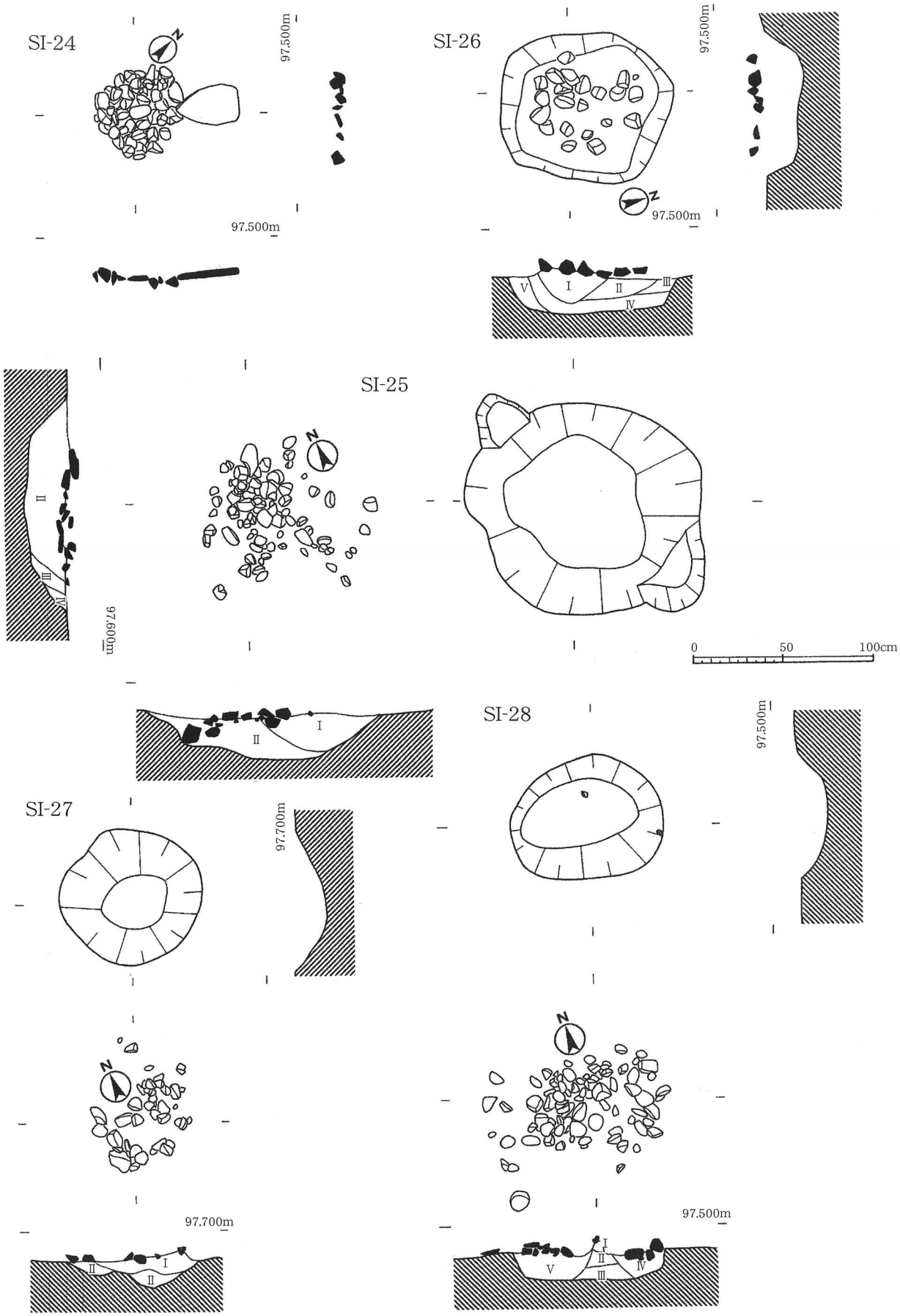
第4図　集石遺構実測図(1)



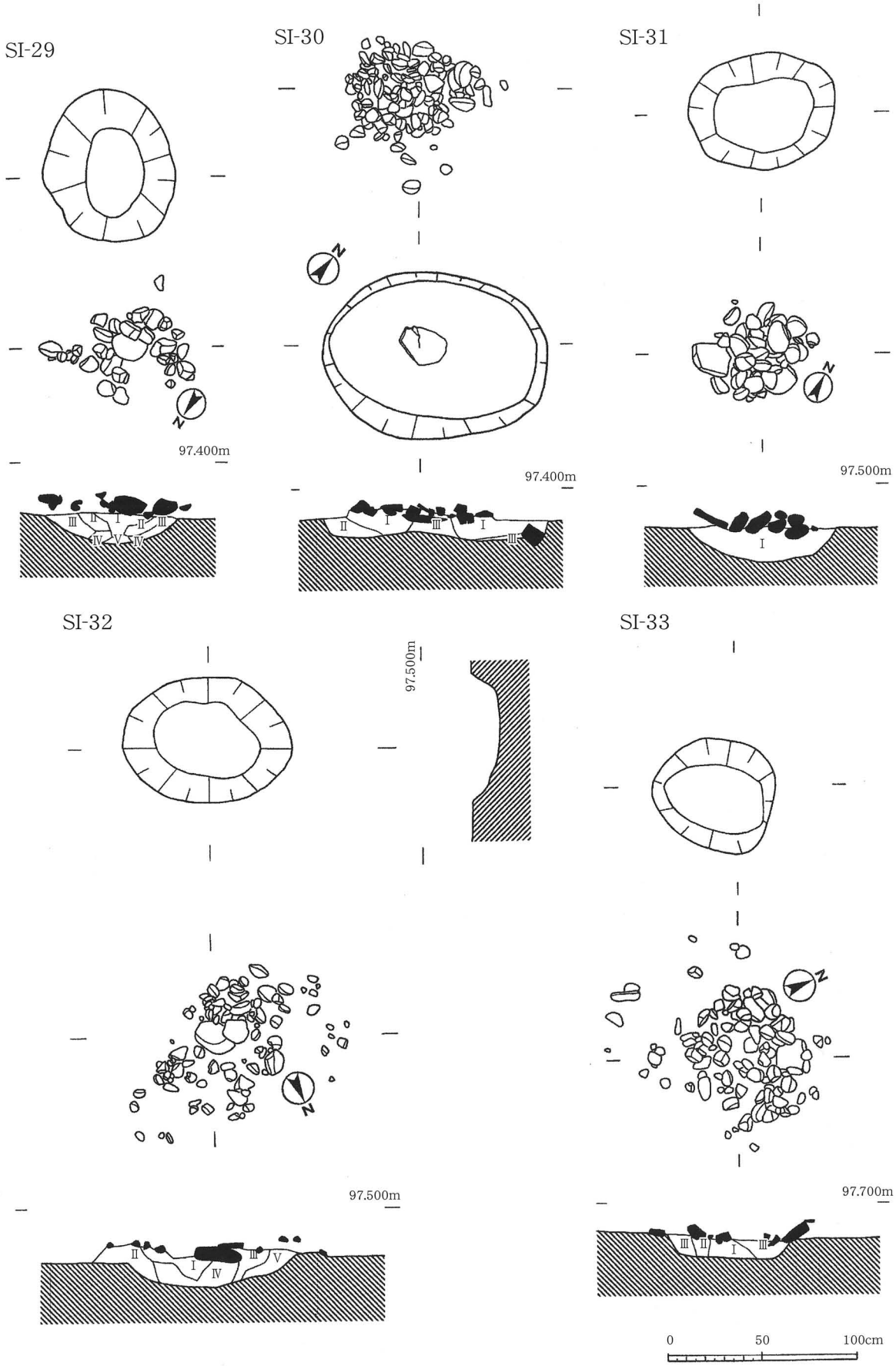
第5図　集石遺構実測図(2)



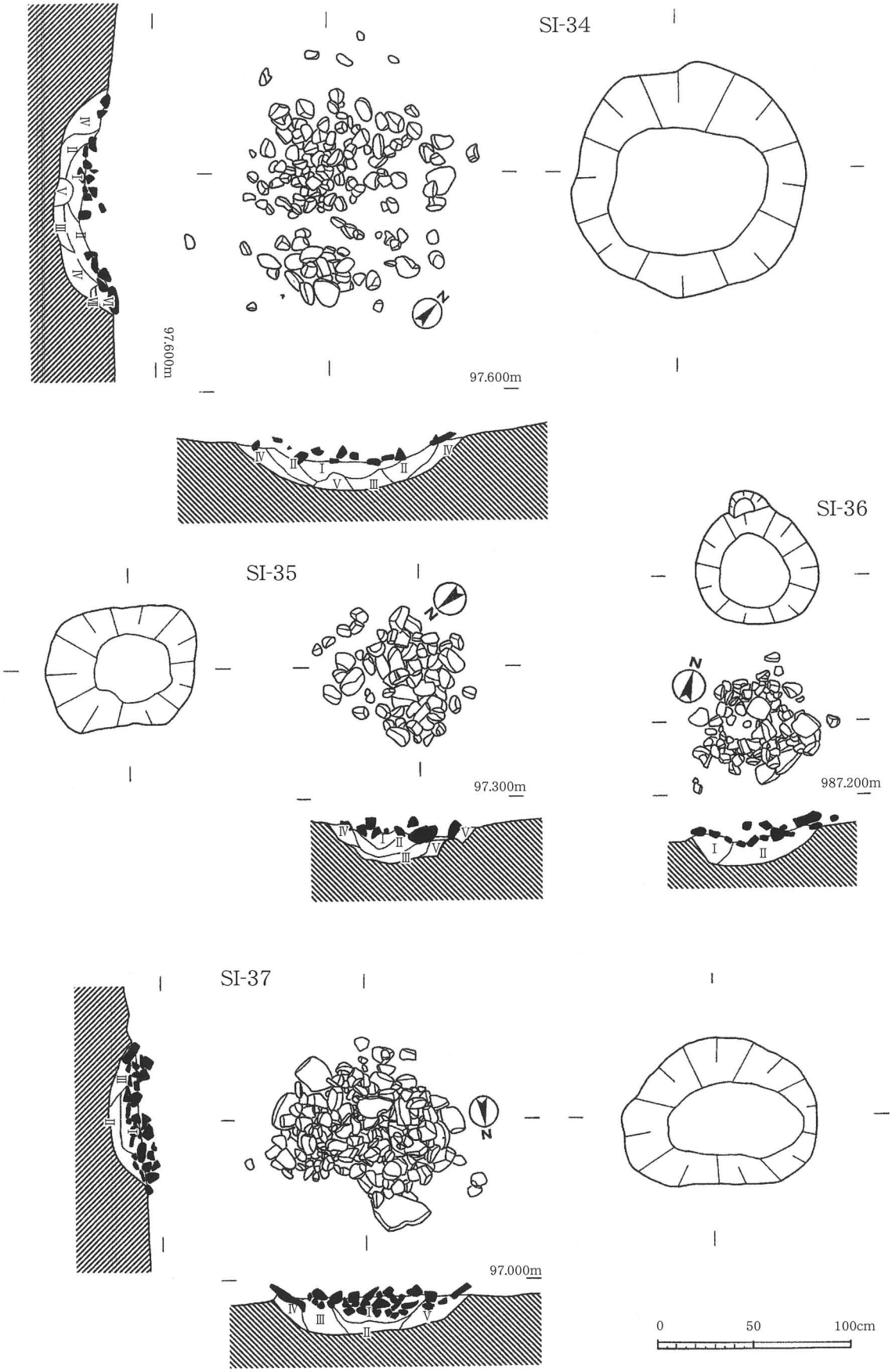
第6図　集石遺構実測図(3)



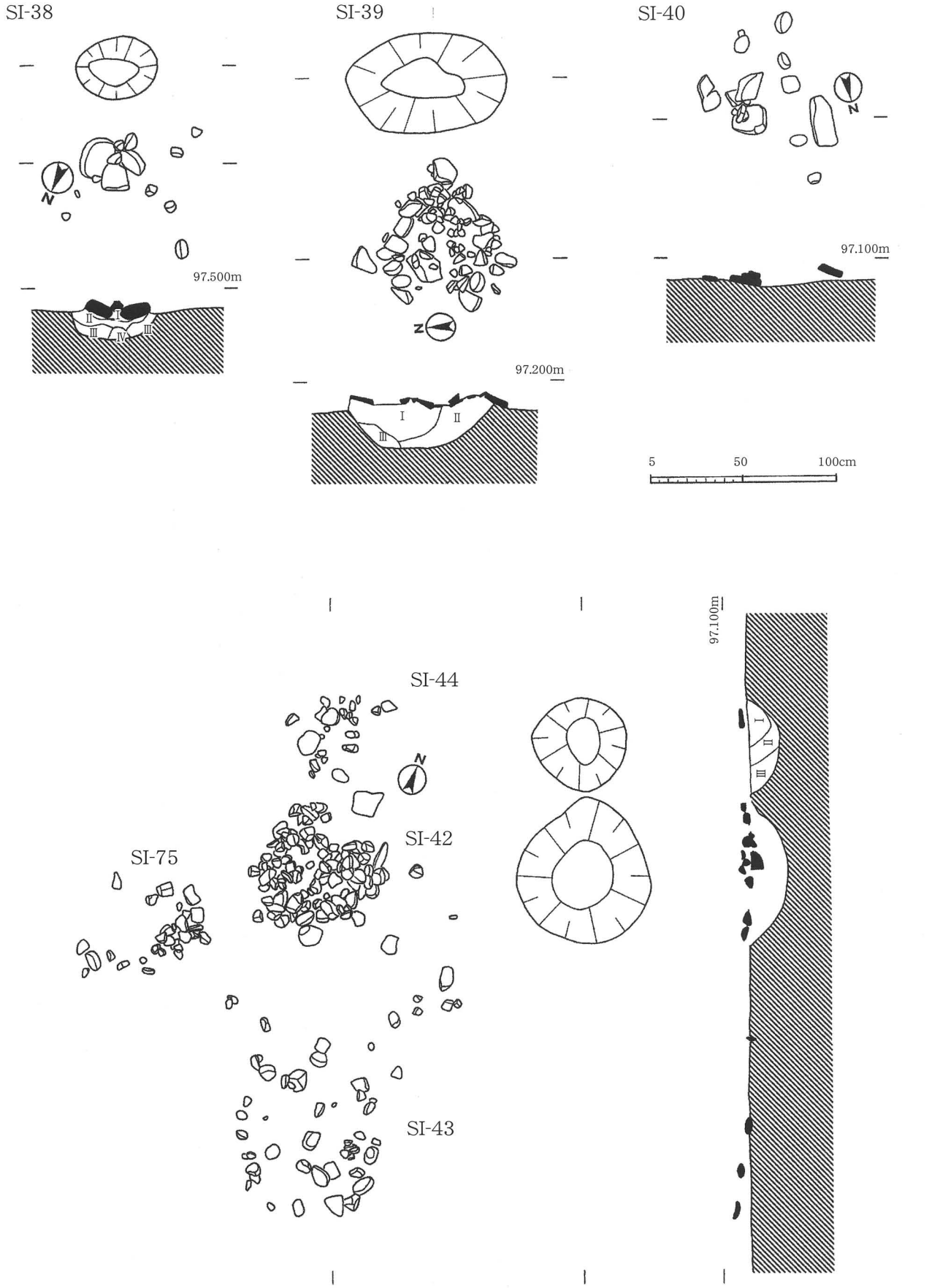
第7図　集石遺構実測図(4)



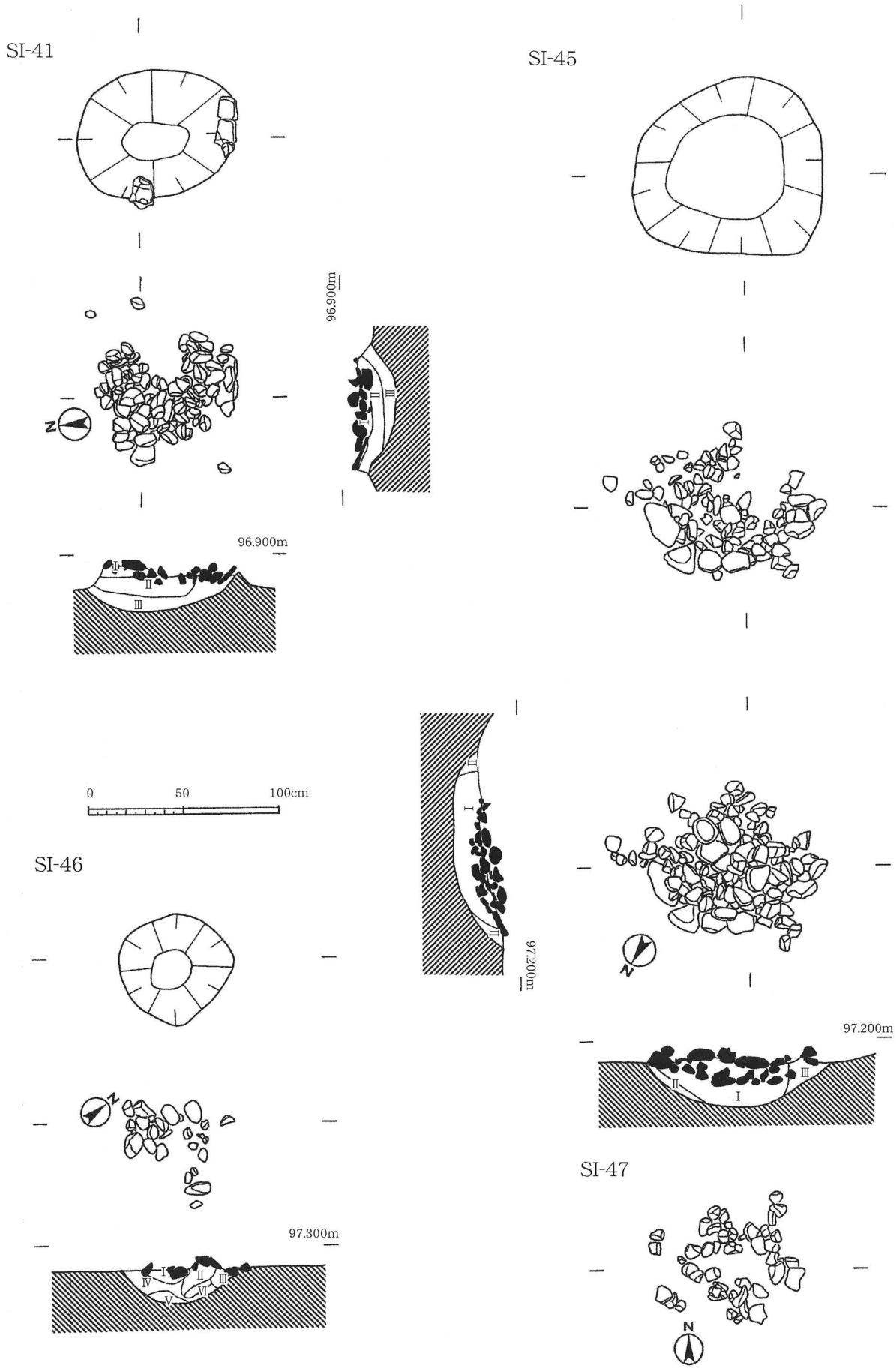
第8図　集石遺構実測図(5)



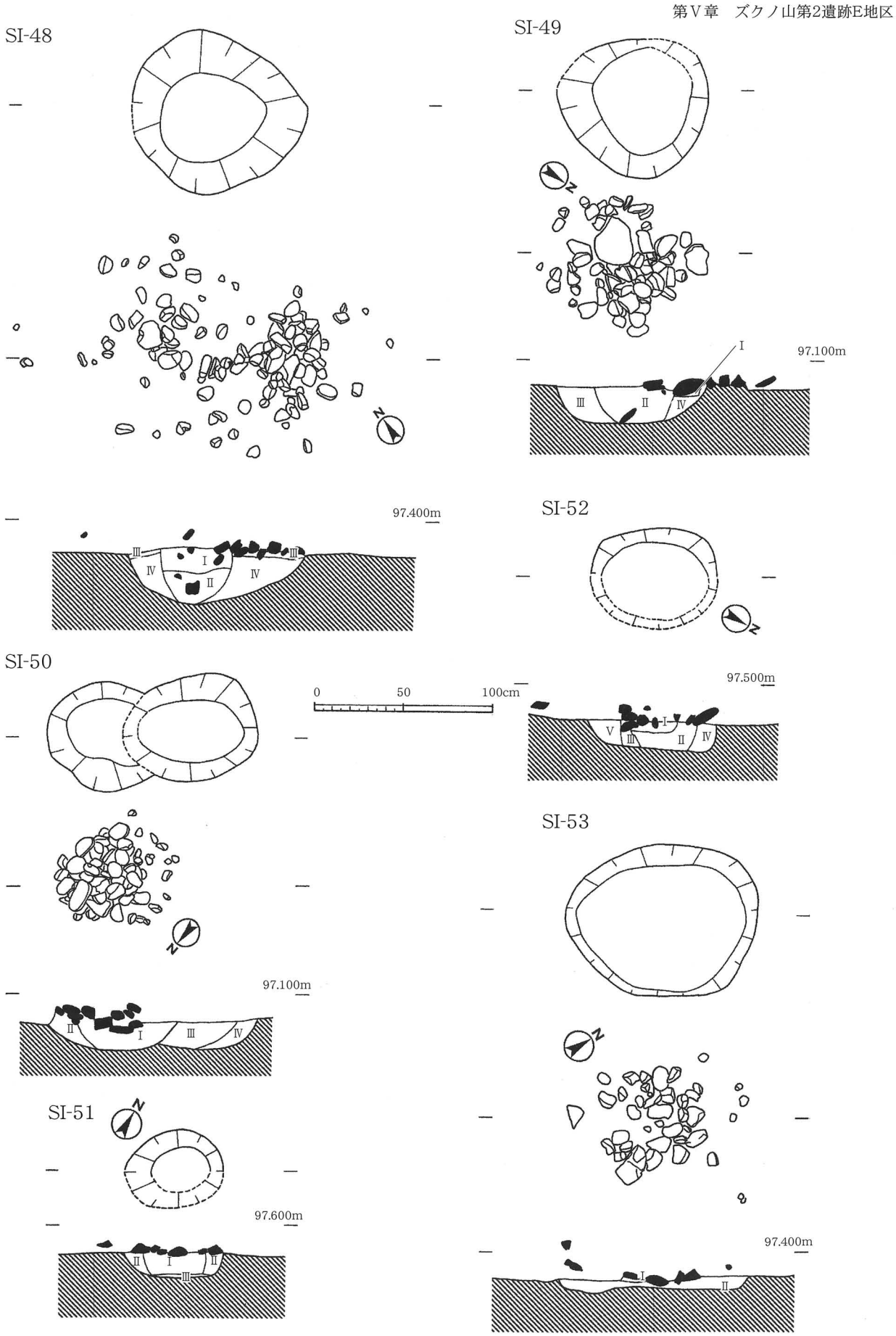
第9図　集石遺構実測図(6)



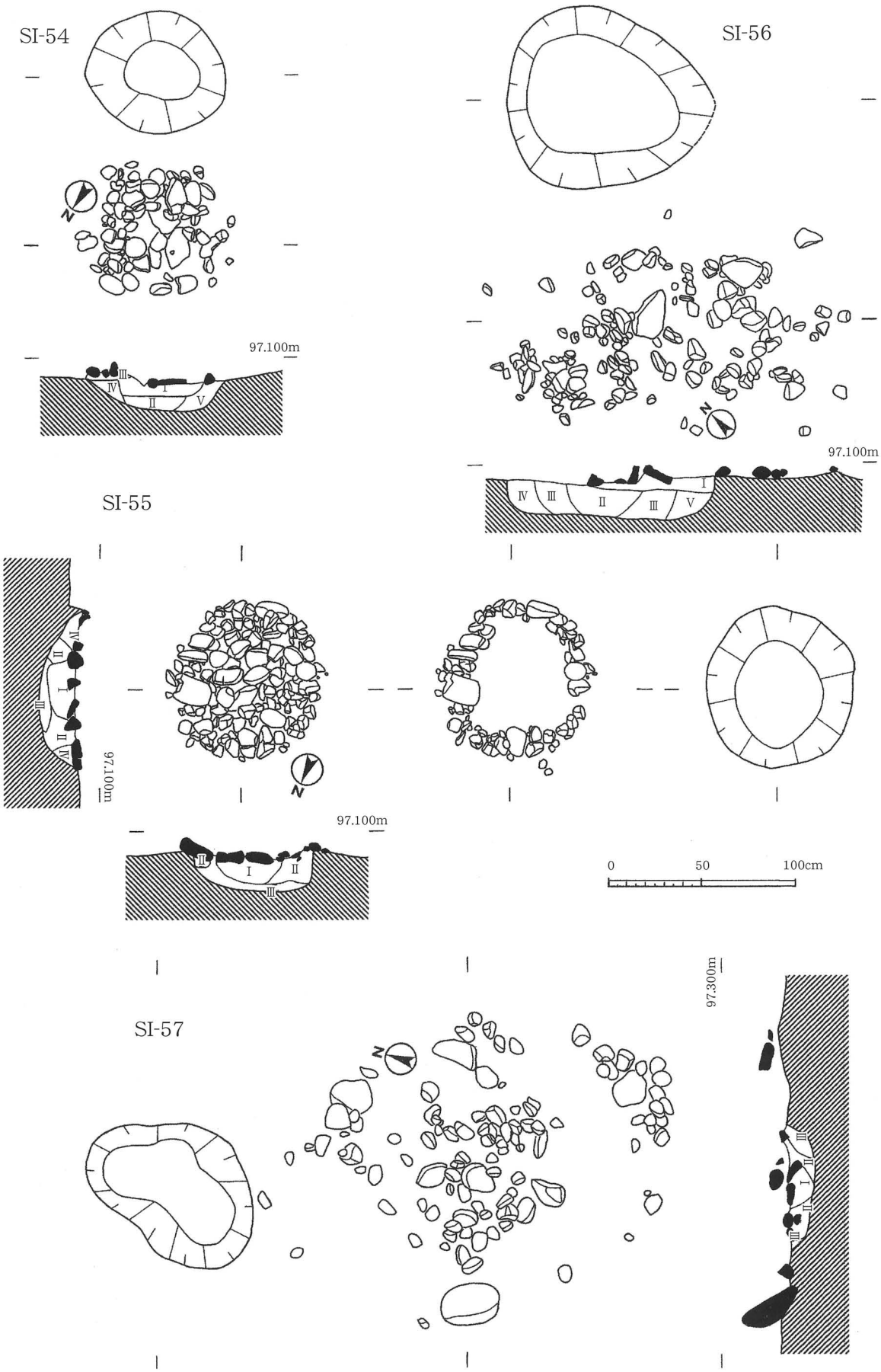
第10図　集石遺構実測図(7)



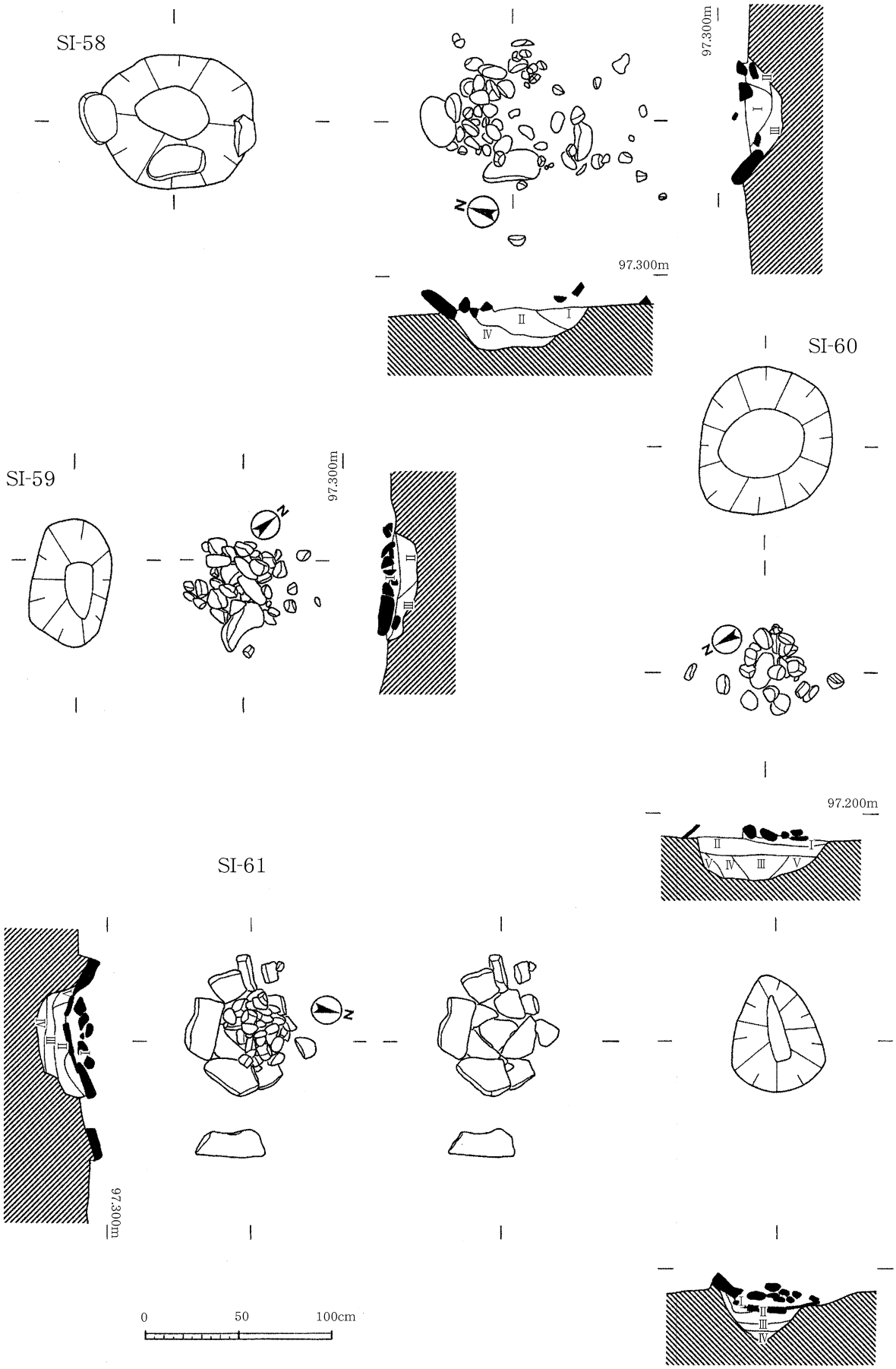
第11図　集石遺構実測図(8)



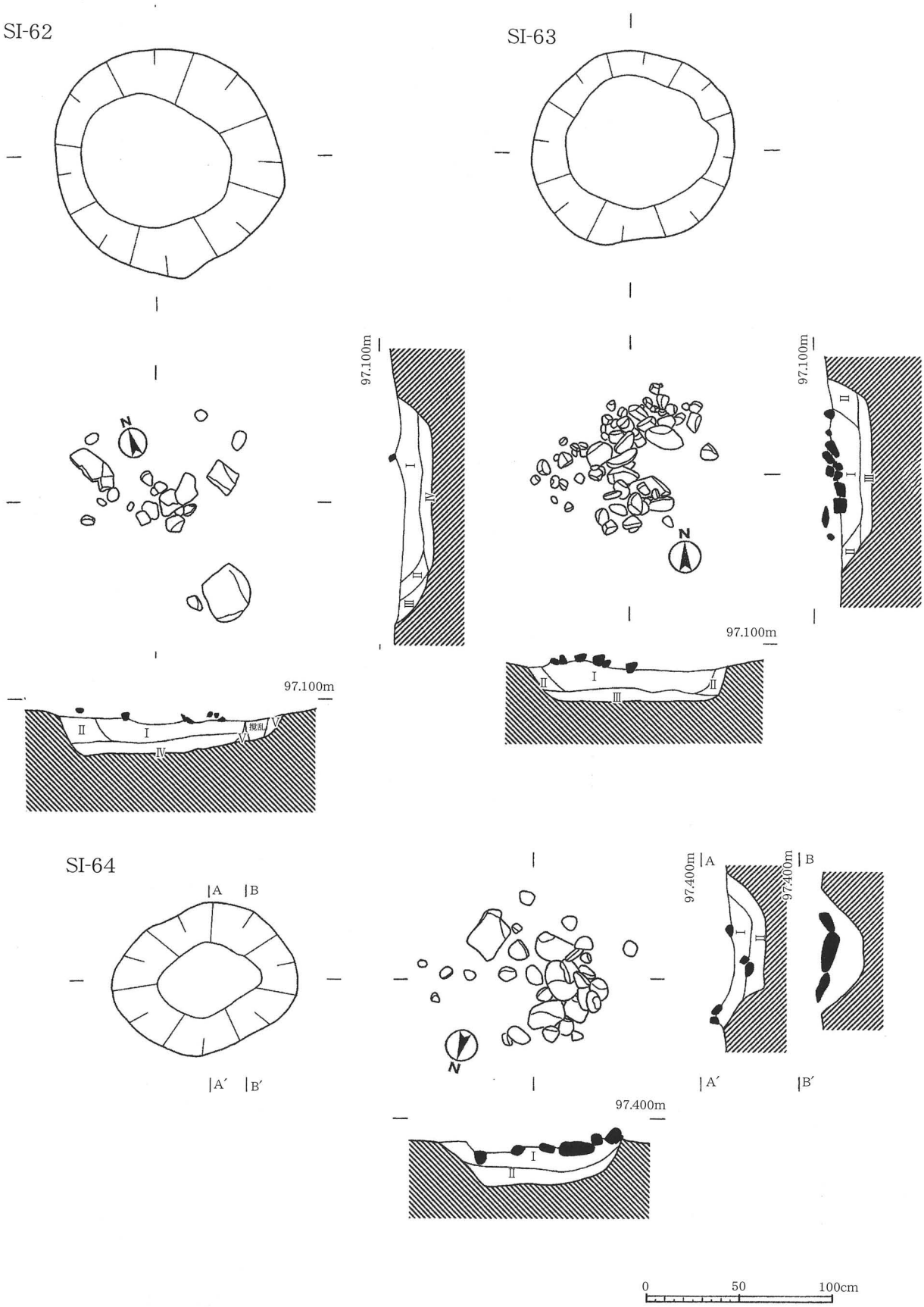
第12図　集石遺構実測図(9)



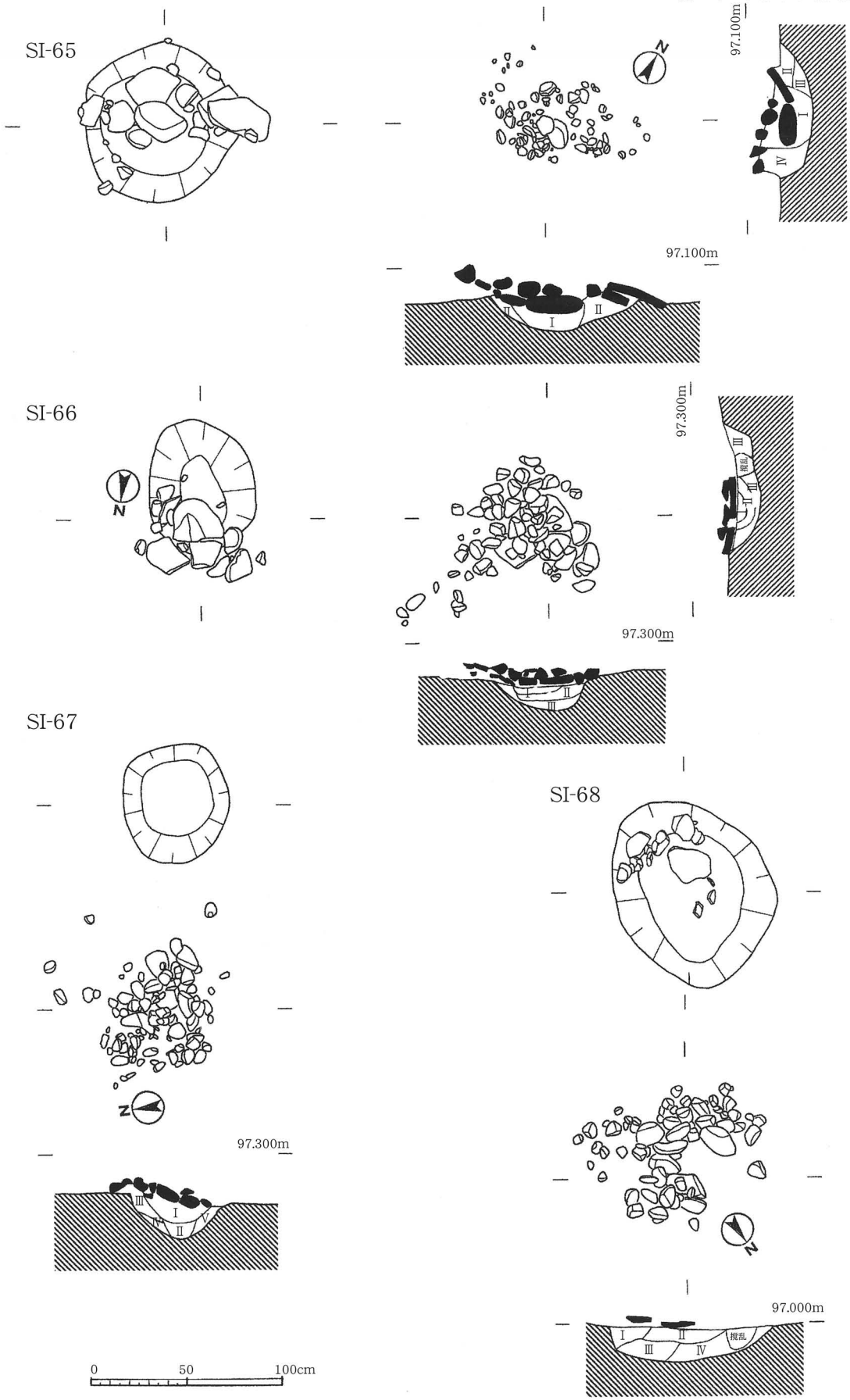
第13図　集石遺構実測図(10)



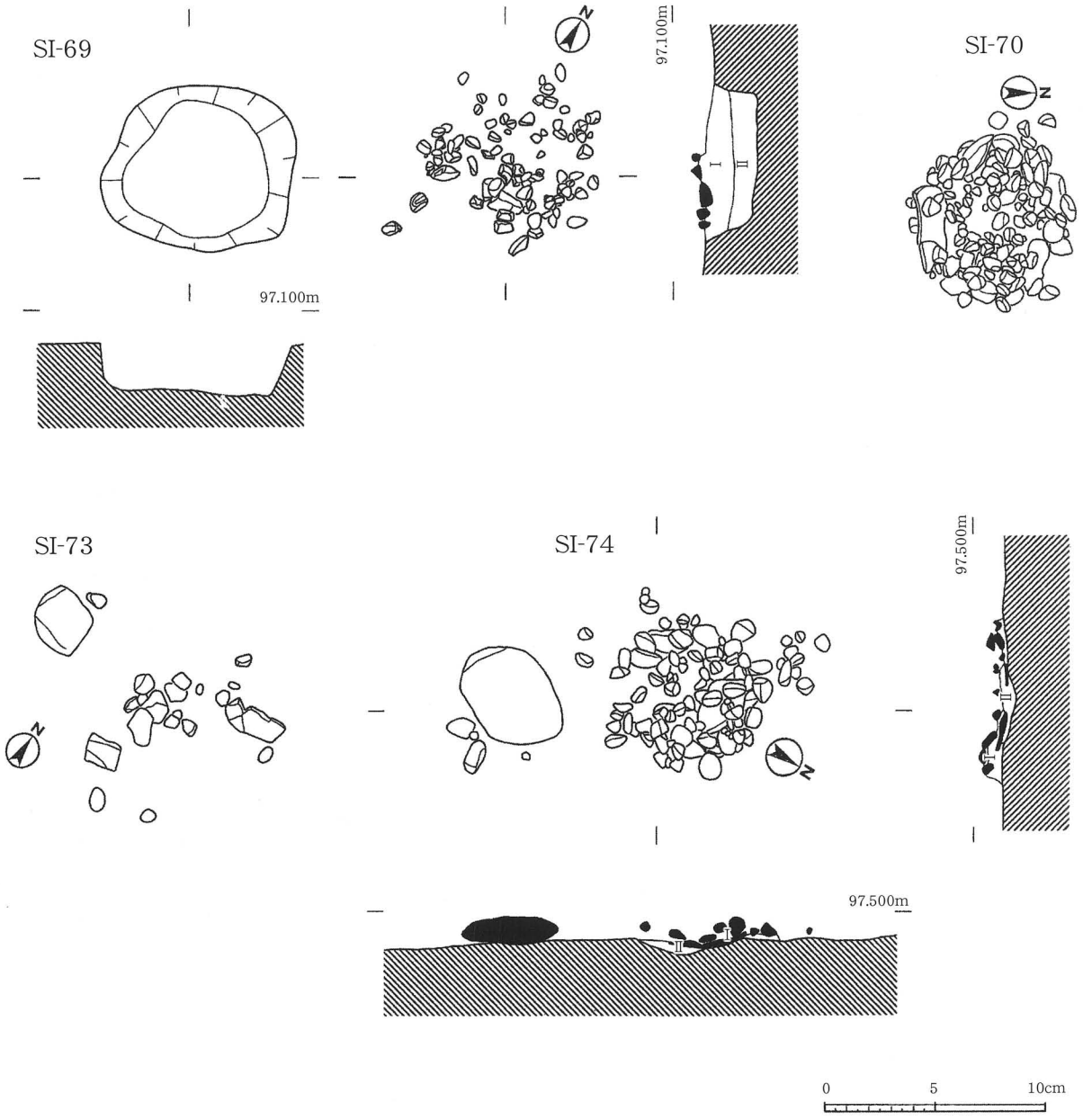
第14図　集石遺構実測図(11)



第15図　集石遺構実測図(12)



第16図　集石遺構実測図(13)



第17図　集石遺構実測図(14)

あり、礫の堆積も10cm近くと浅かった。特に礫群6(1.2㎡)や礫群7(2.1㎡)に至っては、掘り込みを伴わない集石遺構に近い状態といえる。

Ⅱ・集石遺構(第4～17図)

67基検出された。南北に広がる平坦面よりも、若干斜面になる地点より多く検出されている。なお、これらは以下の通りに分類が可能である。

Ⅰａ類：礫の集中が認められず、小規模なもの(7基)
Ⅰｂ類：礫の集中が認められないが、分布範囲内に石皿を伴うもの(9基)
Ⅱ　類：礫の集中が認められ、小規模なもの(21基)
Ⅲ　類：礫の集中が認められ、底石を配するもの(6基)
Ⅳａ類：花弁状配石が行われるもの(4基)
Ⅳｂ類：遺構の一端に平坦な礫を配するもの(11基)
Ⅴ　類：遺構の周囲と底面に扁平な礫を配するもの(4基)
遺構の観察結果と分類は、表１の通りである。

Ⅲ・土坑

11基検出されたうち、６基は土坑列(SC-76～81)である。調査区北側において、北々西の方向に、約2.5m間隔で並んでいた（第18図)。Ⅲ層上面で検出され、SC-79の覆土は、いずれも牛のスネローム（Ⅲ層）とアカホヤ火山灰（Ⅱ層）が層状に堆積しており、早期後葉に埋没したことや、掘った時に生じた土砂を、そのまま戻したものではない。これが土壙墓である可能性を考慮して、SC-78の覆土を採取し、古環境研究所にリン酸分析を委託したが、リン酸は確認されなかった。

SC-76 (第19図)

E34°Nを主軸とし、長軸110cm、短軸85cmのやや歪な長方形を呈する。深さは40cmである。

SC-77 (第19図)

E20°Nを主軸とし、長軸120cm、短軸90cmの歪な長方形を呈する。深さは、テラス部で35cm、最深部で50cmである。

SC-78 (第19図)

E18°Nを主軸とし、長軸140cm、短軸100cmのやや歪な長方形を呈する。両端で緩やかに傾斜しながら、中央部の円形の底面に至る。深さは最深部で55cmに達する。断面は一部オーバーハングする。覆土には、炭の破片や白色粒が認められた。

SC-79 (第19図)

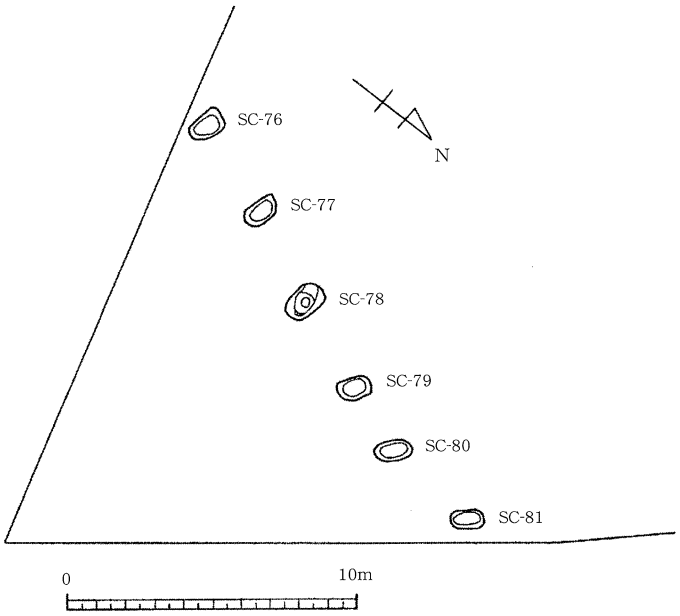
E18°Nを主軸とし、N長軸115cm、短軸80cmの長方形を呈する。深さは約40cmに至る。覆土の上部は牛のスネローム層であり、その上層からは炭の破片の混入も確認された。

SC-80 (第19図)

E30°Nを主軸とし、長軸130cm、短軸75cmのやや歪な楕円形を呈する。深さは30cm程度である。

SC-81 (第19図)

E23°Nを主軸とし、長軸110cm、短軸60cmのやや歪な長方形を呈する。深さは60cm近くに達する。



第18図　土坑列実測図

SC-82（第20図）

径80cmのやや歪な円形を呈する。検出面付近には、小ぶりの礫が数個見られる。深さは、最深部でも20cmに満たない。覆土中には炭の破片が混入する。

SC-83（第20図）

長軸115cm、短軸75cmのやや歪な長方形を呈する。深さは30cmである。覆土中にはアカホヤ火山灰のブロックが含まれていた。

SC-84（第20図）

長軸105cm、短軸70cmの楕円形を呈する。深さは35cmである。覆土中には、僅かながら炭が含まれる。

SC-85（第20図）

長軸80cm、短軸45cmの楕円形を呈する。深さは10cmと、大変浅い。覆土中には、炭の破片が僅かながら含まれる。

SC-86（第20図）

長軸180cm、短軸90cmのやや歪な楕円形を呈する。深さは35cmである。覆土中には、アカホヤ火山灰の混入が見られる。

Ⅳ・ピット

１基のみの検出である。

SP-87（第20図）

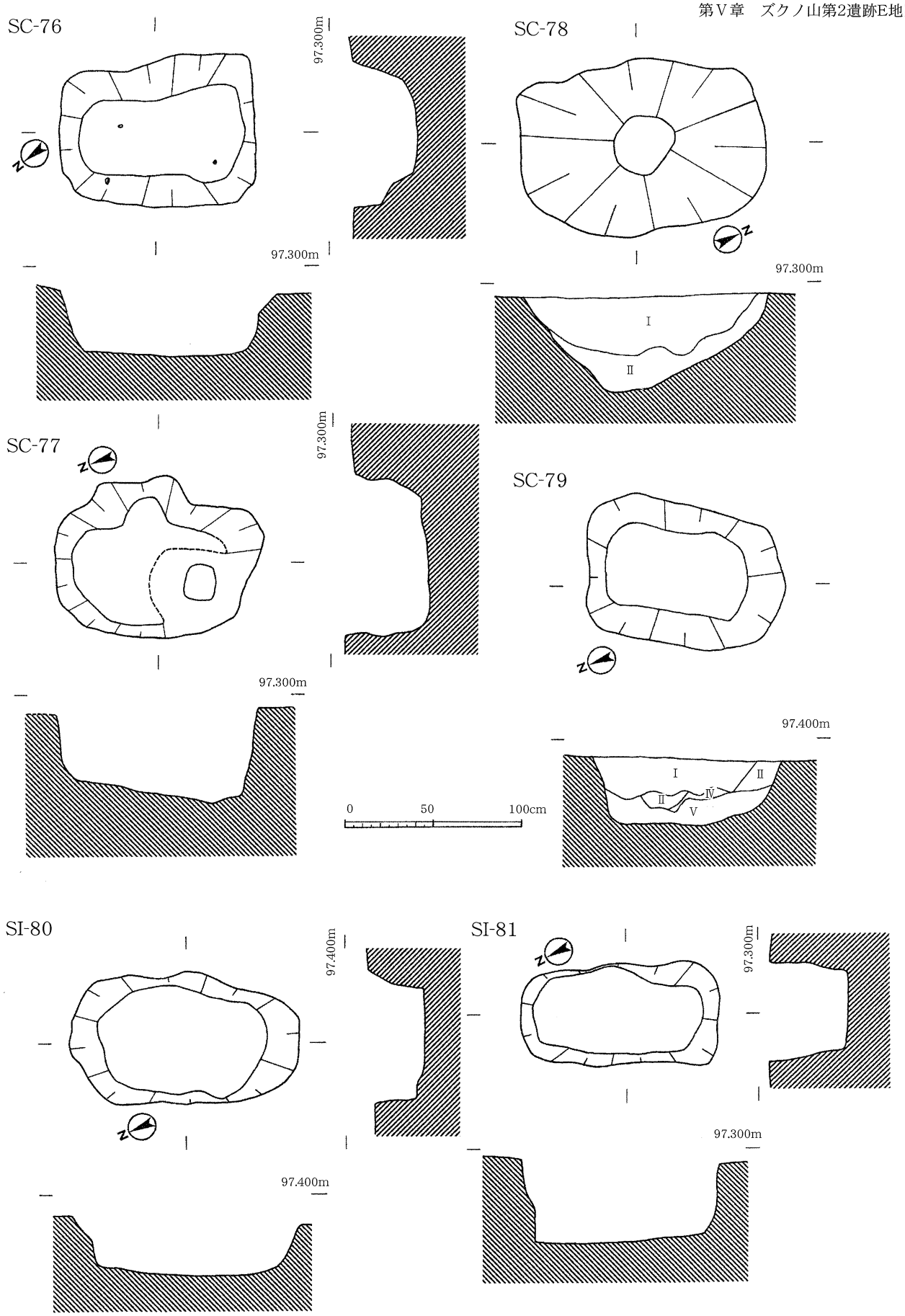
調査区の北西部より検出された。ピットの東側外壁付近からは、土器の胴部片が検出されたほか、遺構中央部付近からは、比較的大ぶりの礫も確認されている。

Ⅴ・配石遺構

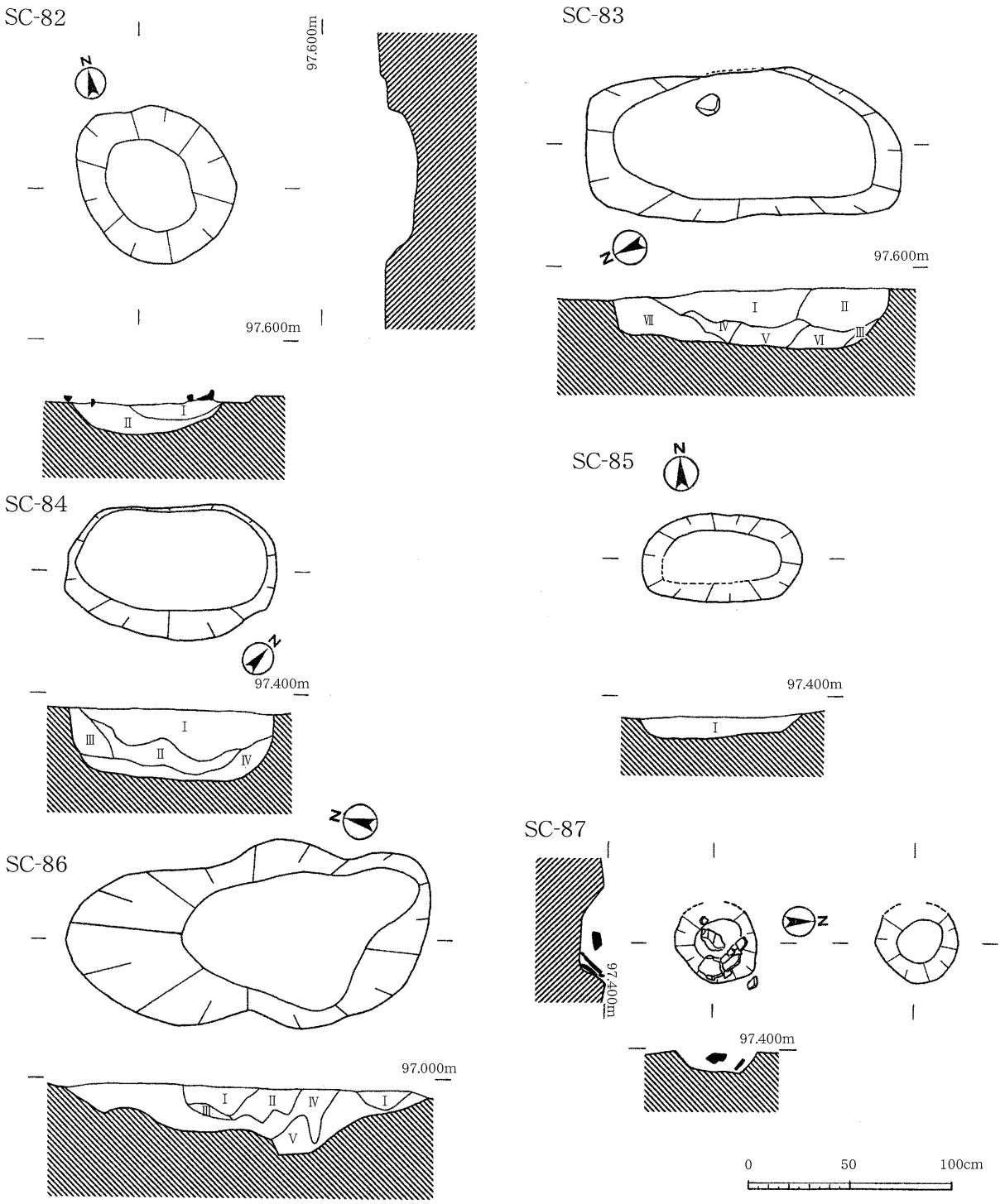
調査区内からは、意図的に礫を配したと考えられる遺構が5基確認された。

SX-88（第21図）

調査区を東西に横切る緩やかな谷の北側斜面上にて検出された。W60°Nを主軸とし、長軸115cm、短軸35cmのやや歪な楕円形を呈す、深さ15cm足らずの掘り込みが設けら


SC-76
97.300m
97.300m
SC-78
97.300m
I
II
SC-77
97.300m
97.300m
SC-79
97.400m
I
II
II
IV
V
0
50
100cm
SI-80
97.400m
97.400m
SI-81
97.300m
97.300m

第19図　土坑実測図(1)



第20図　土坑(2)・ピット実測図(1)

れる。その中には、板状の礫や扁平な円礫が、４個並んだ状態で検出された。礫は、検出面に向けてやや北側に傾けて配置されており、礫の周りには、角度を維持するようシルト質の土を入れている。この礫の中には、被熱による赤変とも思えるものもあるが、掘り込みの覆土からは炭や焼土など、火の使用を示す混入物は確認されない。なお、遺構の周囲、特に東側からは磨石が多く出土している。

SX-89（第21図）

調査区北側台地上の、ほぼ中央部にて検出された。W72°Nを主軸とし、長軸85cm、短軸23cmの歪な楕円形を呈す、深さ10cm前後の掘り込みが設けられる。その中には板状の礫と扁平な円礫が、３個並んだ状態で検出された。礫は南側にやや傾いており、礫周辺のみに見られる土層は、SX-01と同様、これも角度を維持するための手が加えられたものと考えられる。掘り込みの深さは変化があるが、配置する礫の上場が揃うよう、深さを調整したようにも見える。なお、最も西側に配置された礫には、被熱とも思える赤変が認められる。しかし、遺構の覆土中に含まれる炭化物は、包含層中でも確認される程度であり、火の使用を積極的に示す根拠は確認できなかった。遺構の南部には、板状の礫が確認されたほか、遺構の周囲、特に北側からは、磨石が多く出土した。

SX-90（第21図）

調査区北側台地上の、やや北側にて検出された。W77°Nを主軸とし、長軸65cm、短軸28cmの楕円形を呈す、深さ20cmの掘り込みが設けられる。その中には横向きに立てられた扁平な円礫が１個検出された。礫は北側に僅かに傾いた状態で埋設されている。礫の上面は、打撃により欠損している。掘り込みの覆土には、炭の混入は認められない。

SX-91（第21図）

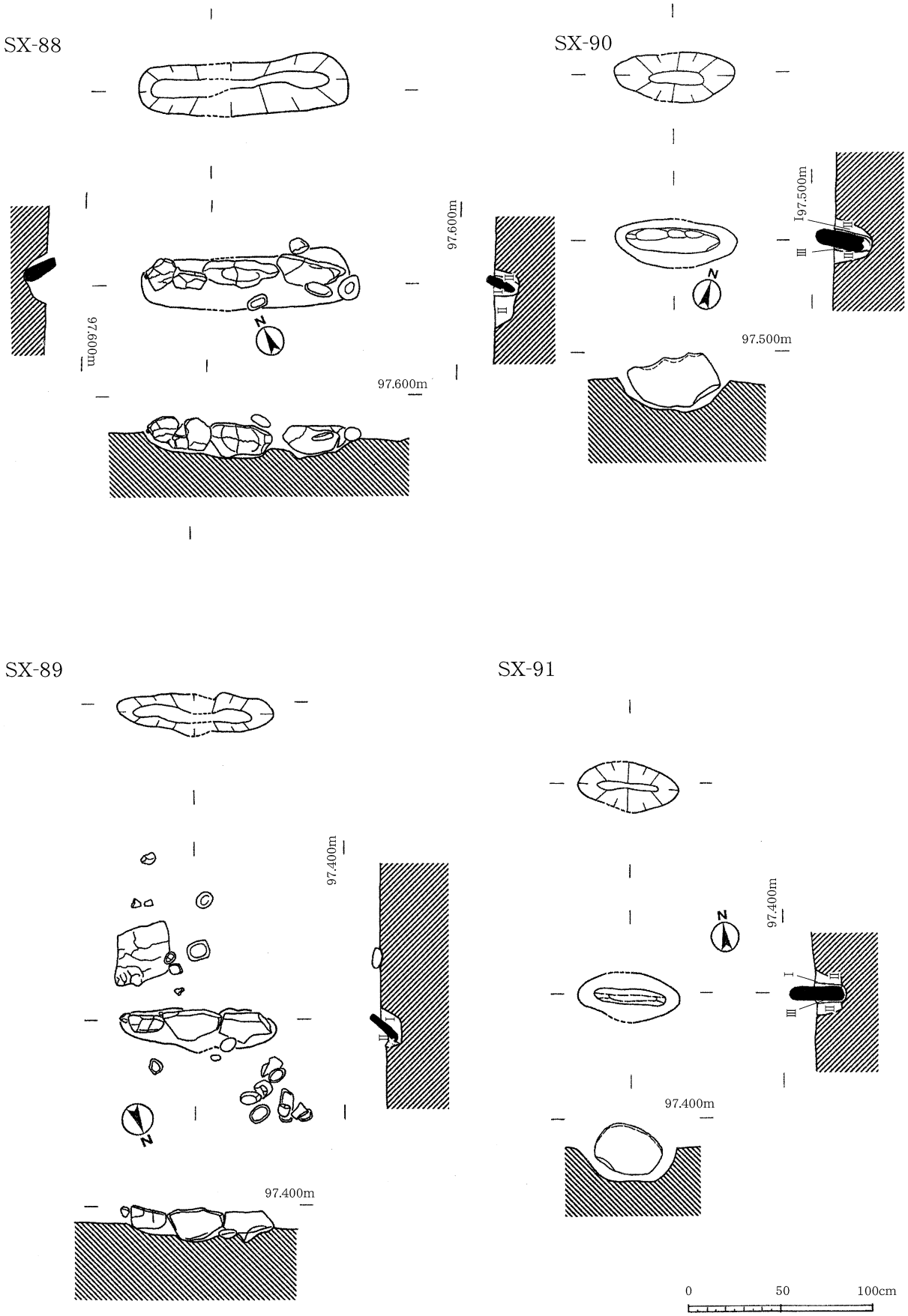
調査区南部の台地上、調査区の東端付近にて検出された。主軸はほぼ東西のライン上にあり、長軸55cm、短軸28cmのやや歪な楕円形を呈す、深さ20cmの掘り込みが設けられる。その中には長径50cmの扁平な円礫が１個、検出面に対しほぼ垂直に立った状態で埋設されていた。礫の表面には、人為的に手が加えられた痕跡は認められなかったほか、掘り込みの覆土には、炭の混入は確認できなかった。

SX-92（第22図）

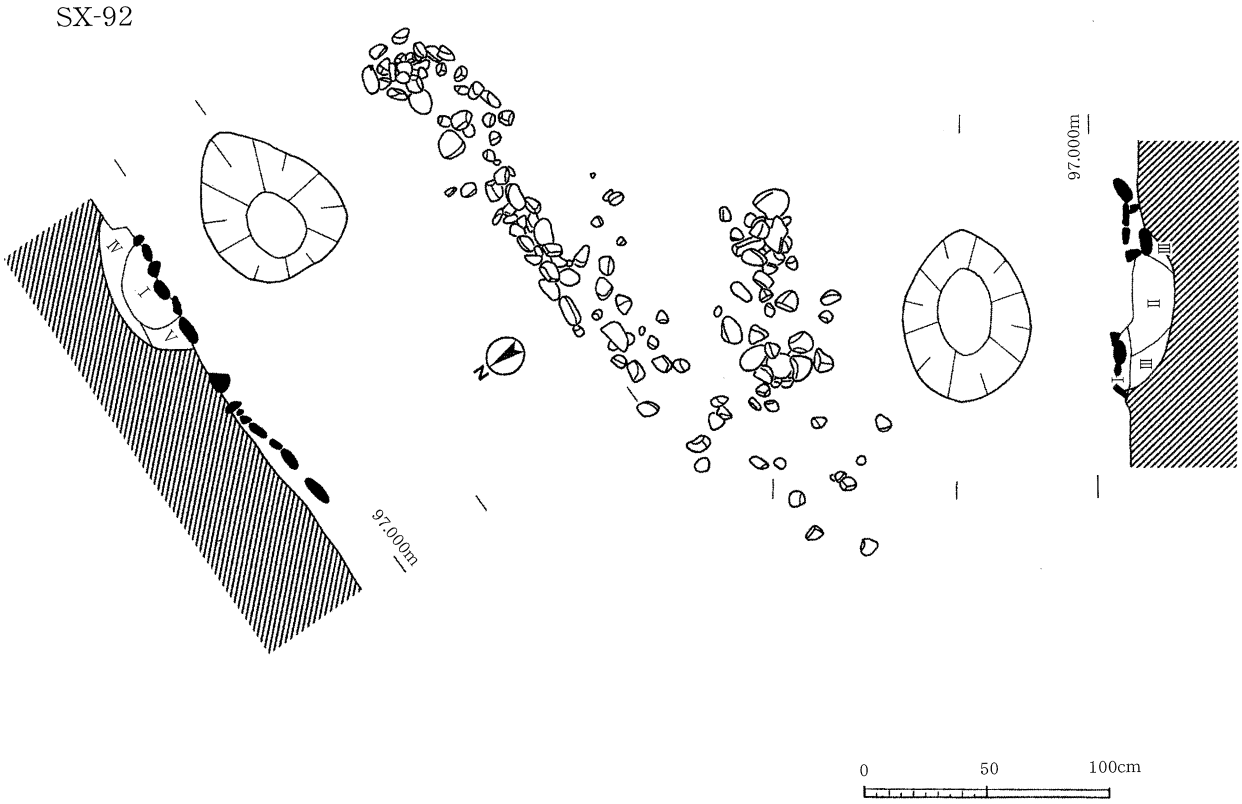
調査区南部台地上の西側にて検出された。遺構は、東西のラインに沿って、小ぶりの円礫が、列状に約200cmにわたって並んだ状態で検出された。礫は、中央部は数個単位で規則的に並んでいるが、両端、特に西側は雑然と分布するのみである。礫を取り除くと、長軸約60cm、短軸50cm、深さ約20cmの掘り込みが2基、遺構の両端から検出されたが、礫の並びの下位には、掘り込みは認められなかった。覆土からは、炭化物や焼土は検出されなかった。

SX-93

調査区南側の平坦部上で検出された。径5cm位の、小ぶりな砂岩の扁平な円礫を、10個近く集めたものである。礫の表面には、研磨などの人為的な加工は行われない。この周囲にも、同形の礫が散在していた。



第21図　配石遺構実測図(1)



第22図　配石遺構実測図(2)

第４節　出土遺物

Ⅰ・遺構内出土遺物(第23～25図1～46)

(1･2)は接合する。(5)は、松などの小枝で回転施文したと考えられる。(35)の外面は、条痕を全面に行った後、羽状の貝殻腹縁刺突を行っている。(36)は、両面に大まかな剥離を行ったのち、端部に連続的な調整を行っている。これは、石斧を製作するために行われた剥離であり、研磨を施す前に欠損したため放棄したと考えられる。(39)は、石斧の完形品である。剥離作業の後に研磨を施し完成させているが、刃部には剥離痕が残されており、アクシデントにより欠損したものを再生させる途中であったと考えられる。(40～44・46)は磨石である。(45)は、扁平な礫を用いた、小型の石皿である。

Ⅱ・包含層出土土器

次のⅠ類～ⅩⅠ類に分類を行った。

表1 集石遺構観察表

遺構No	図版番号	出土遺物	礫の範囲(m)	掘込みの深さ(m)	礫密度	配石	炭化物	分類	備　　考
SI-09	第4図	貝殻条痕文	0.40×0.40	0.05	密	×	×	Ⅲ	上部は既に削平されていた
SI-10	第4図	型式不明	0.60×0.40	0.16	密	○	×	Ⅳb	
SI-11	第4図	—	1.00×1.00	0.21	密	×	×	Ⅱ	
SI-12	第4図	型式不明	1.15×0.90	—	密	○	×	Ⅳa	剥ぎ取りを行った
SI-13	第4図	—	2.20×1.50	0.15	疎	×	○	Ⅰb	
SI-14	第5図	—	0.70×0.70	0.18	密	○	×	Ⅴ	
SI-15	第5図	—	0.80×0.80	0.2	疎	×	○	Ⅰa	
SI-16	第5図	型式不明	0.90×0.70	0.25	密	○	×	Ⅴ	
SI-17	第5図	磨石	0.90×0.90	0.11	密	○	×	Ⅳa	
SI-18	第5図	—	0.70×0.60	0.2	密	○	×	Ⅳb	
SI-19	第5図	—	0.70×0.60	0.25	密	×	○	Ⅱ	
SI-20	第6図	型式不明	0.70×0.70	0.29	密	○	×	Ⅳb	
SI-21	第6図	—	0.60×0.60	0.17	密	×	×	Ⅱ	
SI-22	第6図	剥片	0.70×0.70	0.15	疎	×	×	Ⅱ	
SI-23	第6図	—	1.50×1.50	0.13	疎	×	○	Ⅱ	
SI-24	第7図	—	0.50×0.50	—	密	×	×	Ⅱ	石皿が隣接する
SI-25	第7図	型式不明	1.00×0.70	0.26	密	×	×	Ⅱ	
SI-26	第7図	—	0.70×0.60	0.23	疎	×	○	Ⅰa	
SI-27	第7図	—	0.70×0.50	0.17	疎	×	○	Ⅰa	
SI-28	第7図	剥片	1.10×0.60	0.15	密	×	×	Ⅱ	
SI-29	第8図	—	0.70×0.50	0.15	密	×	×	Ⅱ	
SI-30	第8図	型式不明	0.70 ×0.60	0.12	密	×	×	Ⅱ	
SI-31	第8図	—	0.60 ×0.50	0.18	密	×	×	Ⅳb	
SI-32	第8図	—	1.10 ×0.70	0.17	疎	×	×	Ⅰb	
SI-33	第8図	型式不明	0.70×0.70	0.09	密	○	×	Ⅳb	
SI-34	第9図	石斧	1.40×1.20	0.27	密	×	×	Ⅱ	
SI-35	第9図	押型文（初期）	0.65×0.65	0.21	密	×	×	Ⅱ	
SI-36	第9図	—	0.70×0.60	0.21	密	○	×	Ⅳb	
SI-37	第9図	—	1.10×1.10	0.22	密	○	×	Ⅳb	
SI-38	第10図	—	0.30×0.30	0.15	密	×	○	Ⅰb	
SI-39	第10図	—	0.80×0.80	0.24	密	○	×	Ⅳa	
SI-40	第10図	磨石	0.70×0.70	—	疎	×	×	Ⅰb	
SI-41	第11図	剥片	0.70×0.60	0.22	密	○	×	Ⅳb	
SI-42	第10図	貝殻条痕文	0.70×0.70	0.23	密	×	×	Ⅰb	
SI-43	第10図	貝殻条痕文	0.70×0.70	—	疎	×	×	Ⅱ	
SI-44	第10図	—	0.50×0.50	0.18	疎	×	×	Ⅰa	
SI-45	第11図	—	1.10×0.80	0.24	密	○	×	Ⅳb	
SI-46	第11図	—	0.60×0.50	0.17	疎	×	×	Ⅰb	
SI-47	第11図	—	0.70×0.60	—	密	×	×	Ⅳb	
SI-48	第12図	—	1.80×1.10	0.3	疎	×	×	Ⅰa	
SI-49	第12図	—	0.80×0.80	0.23	密	×	×	Ⅲ	
SI-50	第12図	—	0.70×0.50	0.2	密	×	×	Ⅱ	掘り込みを2基伴う
SI-51	第12図	—	0.60×0.40	0.15	疎	×	○	?	
SI-52	第12図	—	0.90×0.60	0.15	疎	×	×	?	
SI-53	第12図	—	0.60×0.60	0.08	疎	×	×	Ⅱ	
SI-54	第13図	—	0.70×0.70	0.15	密	×	×	Ⅲ	
SI-55	第13図	—	0.80×0.80	0.23	密	○	×	Ⅱ	
SI-56	第13図	—	2.00×0.90	0.24	疎	×	×	Ⅰb	
SI-57	第13図	—	2.00×1.60	0.15	疎	×	×	Ⅰb	
SI-58	第14図	—	0.90×0.70	0.18	疎	○	×	Ⅳb	
SI-59	第14図	—	0.60×0.60	0.15	密	×	×	Ⅱ	
SI-60	第14図	貝殻条痕文	0.40×0.40	0.25	密	×	×	Ⅱ	
SI-61	第14図	—	0.70×0.60	0.3	密	○	×	Ⅴ	石組が顕著である
SI-62	第15図	薄手無文	1.00×1.00	0.2	疎	×	×	Ⅰb	剥ぎ取りを行った
SI-63	第15図	—	0.90×0.60	0.15	密	×	×	Ⅱ	
SI-64	第15図	型式不明	0.90×0.70	0.27	密	×	×	Ⅲ	
SI-65	第16図	—	0.90×0.60	0.2	密	○	×	Ⅲ	
SI-66	第16図	—	0.70×0.70	0.17	密	○	×	Ⅲ	
SI-67	第16図	—	0.60×0.60	0.24	密	×	×	Ⅱ	
SI-68	第16図	—	0.70×0.70	0.17	密	×	×	Ⅱ	
SI-69	第17図	—	0.70×0.70	0.24	疎	×	×	Ⅰa	
SI-70	第17図	貝殻条痕文	0.70×0.70	—	密	○	×	Ⅳa	平面形は凸レンズ状
SI-71	—	—	1.10×0.80	—	密	—	○	?	
SI-72	—	—	0.80×0.80	—	密	—	○	?	
SI-73	第17図	—	1.00×1.00	—	疎	×	×	?	
SI-74	第17図	—	0.70×0.70	0.06	密	○	×	Ⅴ	
SI-75	第10図	—	0.40×0.40	—	疎	×	×	Ⅰa	

表2　遺構覆土注記(1)

SI-09　Ⅰ層　10YR明黄褐6/6
固く締まっている。粘性はない。角閃石を少量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。
Ⅱ層　10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性はない。白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、角閃石を少量含む。層はややまだら状を呈す。
Ⅲ層　10YR褐4/4
粘性は殆どない。白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量、角閃石を少量含む。層はややまだら状を呈す。

SI-10　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。水分を含むが、粘性は殆どない。白色粒子を多量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。まだら状を呈す。
Ⅱ層　10YR黒褐3/2
Ⅰ層より更に固く締まっている。ガラス質粒子を中量、砂粒を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。
Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
水分を含むが、粘性は殆どない。白色粒子を少量、角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈す。
Ⅳ層　10YR褐4/3
粘性は殆どない。ガラス質粒子を多量、角閃石を中量、白色粒子を少量含む。

SI-11　Ⅰ層　7，5YR黒2/1
固く締まっている。角閃石を微量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、赤色粒子を微量含む。層中には、炭も多量に含まれる。粘性は殆どない。
Ⅱ層　10YRにぶ黄褐4/3
Ⅰ層よりも更に固く締まっている。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量含む。炭も中量見られるが、中には大きめの欠片も混入する。
Ⅲ層　10YR褐4/4
やや固い層。白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、砂粒を中量含む。炭は微量確認された。

SI-13　Ⅰ層　10YR暗褐3/3の中に10YR褐4/4が入る。
固く締まっている。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量、炭を少量含む。粘性に富む。
Ⅱ層　10YR褐4/4
粘性に富む。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を少量含む。

SI-14　Ⅰ層　10YR褐4/6
層は固く締まっており、他層とは分別が容易である。ガラス質粒子を多量、炭を中量含む。まだら状を呈す。
Ⅱ層　10YR黄褐5/6
層は軟質であり、粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量含む。植物の根が深く入り込んでいた。
Ⅲ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。ガラス質粒子を多量、砂利を中量、炭を微量含む。粘性は殆どない。

SI-15　Ⅰ層　10YRにぶ黄褐4/2
固く締まっており、粘性殆どない。角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まっており、粘性は少しある。赤色粒子を微量、角閃石を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈し、層中の色調は一定でない。

SI-16　Ⅰ層　10YR黄褐5/6
やや軟質で、粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。

SI-18　Ⅰ層　10YR褐4/4
固く締まっており、粘性僅かにある。砂利を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を多量、層はまだら状を呈する。

SI-19　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まっており、粘性僅かにある。炭を中量、オレンジ色の軟質粒子を多量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を多量含む。まだら状を呈す。植物の根が著しく入りこむ。
Ⅱ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。層はまだら状を呈し、分層は容易でない。炭片を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。

SI-20　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
大変固く締まっている。ややまだら状を呈し、分層は容易でない。粘性は全くない。炭を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量含む。植物の根が著しく入りこむ。
Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まった層。層はまだら状を呈し、分層は容易でない。ガラス質粒子を多量、砂利を中量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。

SI-21　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まった層。まだら状を呈する。黄色粒子が少量、白色粒子を少量、炭を中量含む。粘性はあまりない。分層は困難である。
Ⅱ層　10YR黒褐3/2
Ⅰ層よりもやや軟質。混入物はⅠ層と同じであるが、黄色粒子はここでは見られず、白色粒子は中量に増加する。粘性は少しある。
Ⅲ層　10YR暗褐3/3
Ⅱ層よりも軟質。粘性はあまりなく、サラサラした感触である。黄色粒子を微量、白色粒子を少量含む。この層はまだら状にならず、安定した色調である。
Ⅳ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性は少しある。層はまだら状を呈す。白色粒子と炭が混入する。床面との境ははっきりしている。
Ⅴ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性がある。層はまだら状を呈す。炭をごく微量、白色粒子を微量含む。

SI-22　Ⅰ層　7，5YR褐4/3
固く締まっている。粘性は殆どなく、まだら状を呈す。層中には植物の根が密に入りこむ。炭を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量含む。
Ⅱ層　10YR黒褐2/3
固く締まっている。まだら状を呈す。層中には植物の根が密に入る。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量含む。粘性は殆どない。
Ⅲ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性殆どない。まだら状を呈す。赤色粒子を少量、炭を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。

SI-23　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まった層。まだら状を呈し、粘性はあまりない。炭を中量、ガラス質粒子を中量含む。層中にはAhに似た小ブロックが少量確認できる。
Ⅱ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。まだら状を呈し、粘性がある。角閃石を少量、炭を微量含む。また、このⅠ層と同じくAhブロックが微量混入する。
Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質。粘性に富む。まだら状を呈す。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子少量含む。
Ⅳ層　10YR褐4/4
軟質。粘性に富む。ガラス質粒子を微量、白色粒子を微量、炭を微量含む。

SI-25　Ⅰ層　10YR褐4/4
軟質である。まだら状を呈し、粘性は全くない。ガラス質粒子を多量、砂利を少量、赤色粒子を微量含む。植物の根が著しく入りこむ。

表3 遺構覆土注記(2)

SI-25 Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まった層。まだら状を呈する。植物の根が密に入りこむ。白色粒子を微量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
Ⅲ層 10YR褐4/4
層はまだら状を呈し、粘性がある。炭を少量、ガラス質粒子を多量、砂利を少量含む。
Ⅳ層 10YRにぶ黄褐5/4
まだら状を呈し、Ⅲ層との境界の判別が非常に難しい。オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、炭を微量含む。粘性がある。

SI-26 Ⅰ層 10YR暗褐3/3
固く締まった層。まだら状を呈する。粘性はあまりない。炭を中量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
Ⅱ層 10YRにぶ黄褐3/4
固く締まっている。まだら状を呈す。炭を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
Ⅲ層 10YR褐4/4
固く締まっている。ややまだら状を呈す。白色粒子を微量、ガラス質粒子を少量含む。粘性殆どない。
Ⅳ層 10YR暗褐3/3
比較的柔らかい。ややまだら状を呈す。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子をごく微量含むが、炭は認められない。粘性少しあり。
Ⅴ層 10YR褐4/4
やや固く締まっており、粘性あり。層の色調は安定している。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量含む。

SI-27 Ⅰ層 10YR黄褐5/6
固く締まっている。ややまだら状を呈す。白色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。
Ⅱ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性殆どない。まだら状を呈す。炭を少量、ガラス粒子を多量、白色粒子を少量含む。

SI-28 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐5/4
粘性殆どない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、砂利を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。まだら状を呈す。
Ⅱ層 10YR褐4/4
固く締まっており、粘性はあまりない。ガラス質粒子を少量、白色粒子を多量、炭を少量含む。
Ⅲ層 10YR褐4/6
固く締まっている。粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、黒色粒子を少量含む。まだら状を呈す。
Ⅳ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。まだら状を呈す。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、粘性あり。
Ⅴ層 10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性あり。オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量含む。

SI-29 Ⅰ層 2, 5Y黒褐3/2
やや軟質の層。粘性あり。ガラス質粒子を中量含む。

SI-29 Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質である。粘性あり。オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を中量、まだら状を呈す。
Ⅲ層 10YR褐4/4
やや軟質である。粘性に富む。まだら状であり。ガラス質粒子を多量含む。
Ⅳ層 10YR褐4/4
やや軟質である。粘性あり。まだら状を呈し、Ⅲ層との境界は明確でない。ガラス質粒子を少量含む。
Ⅴ層 10YR暗褐3/4
やや軟質であるが、SI-21の覆土では最も固い。粘性はなし。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。

SI-30 Ⅰ層 10YR褐4/4
固く締まっている。オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈し、分層は困難である。
Ⅱ層 10YR黄褐5/8
やや固く締まっている。炭を微量、ガラス質粒子を多量白色粒子を少量含む。まだら状を呈し、粘性殆どなし。
Ⅲ層 10YR褐4/6
層は固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量白色粒子を少量、角閃石を少量含む。層の色調は安定している。
Ⅳ層 7, 5YR褐4/4
固く締まっている。層の色調は安定している。ガラス質粒子を中量、白色粒を少量、角閃石を中量含む。

SI-31 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。まだら状を呈する。ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量含む。粘性は殆どない。

SI-32 Ⅰ層 10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性全くない。角閃石を少量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量含む、まだら状を呈する。
Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を少量、色調は安定している。
Ⅲ層 10YR黄褐5/8
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量、白色粒子を微量ふくむ。まだら状を呈している。
Ⅳ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量含む。まだら状を呈する。
Ⅴ層 10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性殆どなし。ガラス質粒子を多量白色粒子を中量、黒色粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈する。

SI-33 Ⅰ層 10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性殆どなし。層中には植物が密に入りこむ。砂利を多量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子も微量含む。

表4　遺構覆土注記(3)

SI-33　Ⅱ層　10YR黄褐5/6
軟質の層。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、砂利を中量含む。まだら状を呈している。

Ⅲ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。まだら状を呈す。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。層中の炭の粒子は比較的大きい。

SI-34　Ⅰ層　7，5YR黒1，7/1
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子も微量含む。炭は細かい粒子となって、層全体に多量に混入する。

Ⅱ層　10YR黒褐2/2
固く締まっている。粘性に富む。まだら状を呈する。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量、炭を多量含む。

Ⅲ層　10YR3/2
やや固く締まっている。粘性あり。ガラス質の粒子を多量、白色粒子を少量、赤色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はまだら状を呈す。

Ⅳ層　10YR黒褐3/2
やや固く締まっている。まだら状を呈するが、Ⅲ層よりも弱くなっている。他の混入物等の特徴については、Ⅲ層と同じである。

Ⅴ層　10YR3/2
やや固く締まっている。粘性あり。色調は安定している。ガラス質粒子を多量、白色粒を少量、赤色粒子を微量含む。まだら状を呈する。

Ⅵ層　10YR暗褐3/3
やや固く締まっている。粘性は殆どない。角閃石を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、赤色粒子を少量含む。層の色調は安定している。

Ⅶ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっている。粘性に富む。炭を多量、ガラス質粒子を多量含む。

SI-35　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性僅かにある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を中量含む。まだら状を呈する。

Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性僅かにある。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量含む。

SI-36　Ⅰ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性少しある。植物の根が密に入りこむ。白色粒子が多量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈する。

Ⅱ層　7，5YR褐4/5
固く締まっている。粘性少しある。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。

SI-37　Ⅰ層　10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈する。

SI-37　Ⅱ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐5/4
固く締まっており、粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が著しい。

Ⅳ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、角閃石を微量含む。層の色調は安定している。

SI-38　Ⅰ層　10YR明黄褐6/6、にぶ黄褐4/3
やや固く締まっており、粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を微量含む。上記の色調がまだら状に混入。

Ⅱ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっており、粘性あり。炭を微量、ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈する。

Ⅲ層　10YR灰黄褐4/2、褐4/4
やや固く締まっており、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。上記の色調の層がまだら状に混入する。

Ⅳ層　10YR黄褐5/6
やや軟質であり、粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。

SI-39　Ⅰ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の上部には、熱により砕けたと思われる礫の砕片が多く混入していた。

Ⅱ層　10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を少量、黒色粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐5/4
軟質である。粘性少しあり。白色粒子を微量、ガラス質粒子を少量、角閃石を微量含む。まだら状を呈する。

SI-41　Ⅰ層　10YR褐4/4
粘性あり。白色粒子を微量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性に富む。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を少量含む。色調は安定している。

Ⅲ層　10YR黄褐5/6
粘性少しあり。黒色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。掘り込み床面との層は、色調がはっきり異なる。

SI-43　Ⅰ層　10YR黒褐3/1
固く締まっており、粘性少しあり。白色粒子を中量、炭を微量、赤色粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。

表5 遺構覆土注記(4)

SI-43 Ⅱ層 2, 5Yオリーブ褐4/3
固く締まっており、粘性に富む。白色粒子を中量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。色調が独特であるため、判別が可能である。

SI-44 Ⅰ層 10YR暗褐3/3
たいへん固く締まっており、粘性あり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。層中には、集石遺構の礫が少し入りこんでいる。

Ⅱ層 10YR黒褐2/3
固く締まっている。粘性あり。白色粒子を多量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。

Ⅲ層 2, 5Y黒褐3/2
やや固く締まっており、粘性に富む。白色粒子を多量、炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を微量含む。

SI-45 Ⅰ層 10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子中量、白色粒子微量、炭微量、オレンジ色の軟質粒子微量。層はややまだら状を呈す。

Ⅱ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子中量、黒色粒子を微量、白色粒子を少量。層はまだら状を呈す。炭は確認されなかった。

SI-46 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性あり。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量含む。層の色調は安定している。

Ⅱ層 2, 5Y黄褐5/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅲ層 10YR褐4/4
固く締まっており、粘性あり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量含む。層の色調は、ややまだら状を呈す。

Ⅳ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を少量、黒色粒子を微量、白色粒子を微量含む。層はまだらが顕著に認められる。

Ⅴ層 10YR暗褐3/4
やや固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を多量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅵ層 2, 5Yオリーブ褐4/3
軟質である。粘性僅かにある。ガラス質粒子を中量含む。層は堆積も特徴も不自然な状態である。

SI-48 Ⅰ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、角閃石を微量、白色粒子を中量、赤色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状を呈す。

SI-48 Ⅱ層 10YR黒褐3/2
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を少量含む。

Ⅲ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性は僅かにある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、炭を微量、黒色粒子を微量含む。

Ⅳ層 7, 5YR黒褐3/2
固く締まっており、粘性あり。炭を微量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はまだら状を呈する。

SI-49 Ⅰ層 10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性は僅かにある。ガラス質粒子を少量、黒色粒子を微量、白色粒子を多量、炭を微量含む。層はまだら状を呈する。

Ⅱ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性は全くない。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を少量、白色粒子を中量含む。層はまだら状を呈する。

Ⅲ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性殆どない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はまだら状を呈し、Ⅰ層との判別が容易でない。

Ⅳ層 2, 5Y黄褐5/4
層は極めて軟質である。粘性は全くない。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量、白色粒子を少量含む。

SI-50 Ⅰ層 10YR黄褐5/6・10YRにぶ黄褐4/3
部分的に固さが異なる。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、角閃石を少量含む。層は上記の色調がまだら状に交じり合っている。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐5/4
やや固く締まっている。粘性少しあり。角閃石を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。層はまだら状を呈するが、色調においてⅠ層ほどの開きはない。

Ⅲ層 10YR褐4/4・10YRにぶ黄褐4/3
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。
炭を少量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を少量含む。上記2色が混じり合う。

Ⅳ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性僅かにあり。炭を微量、白色粒子を中量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を多量含む。土色は安定している。

SI-51 Ⅰ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性少しあり。炭を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を少量含む。

表6　遺構覆土注記(5)

SI-51　Ⅱ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性は殆どない。炭を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。層はまだら状を呈す。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性殆どない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、オレンジ色を少量含む。色調は安定している。

SI-52　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。ガラス質粒子を多量、炭を少量、白色粒子を微量含む。層の色調は一定している。

Ⅱ層　10YR褐4/4
やや固く締まっており、粘性少しあり。炭を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。まだら状を呈する。

Ⅲ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性僅かにある。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を微量、白色粒子を少量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅳ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっており、粘性少しある。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を微量、炭を微量含む。土色は安定している。

Ⅴ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、炭を少量含む。Ⅳ層との違いは土色であり、こちらはまだら状を呈する。

SI-53　Ⅰ層　7, 5YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性はあまりない。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、炭を微量含む。層は安定している。

Ⅱ層　10YR黄褐5/6
やや固く締まっており、粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだらが強く、色調の変化が激しい。

SI-54　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性あり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。まだら状の斑紋が顕著である。粘性あり。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっている。粘性全くなし。白色粒子を多量ガラス質粒子を少量、黒色粒子を少量含む。層の色調は安定している。

SI-55　Ⅰ層　2, 5Y黒褐3/2
固く締まっている。粘性少ない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量、ガラス質粒子を少量含む。ややまだら状を呈する。

SI-55　Ⅱ層　2, 5Yオリーブ褐4/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、赤色粒子を微量、炭を少量。オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈する。

Ⅲ層　10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。まだら状を呈する。

Ⅳ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。

SI-56　Ⅰ層　10YR暗褐3/3・10YRにぶ黄褐5/4
固く締まっている。粘性殆どない。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。上記に層が交じり合う。

Ⅱ層　10YR黒褐2/3
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を少量含む。ややまだら状を呈す。

Ⅲ層　10YR暗褐3/3・10YR黒褐3/2
固く締まっている。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、角閃石を微量、炭を少量含む。色調は、上記の2色が交じり合う。

Ⅳ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。色調は安定している。

Ⅴ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性殆どなし。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

SI-57　Ⅰ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。色調は安定している。

Ⅱ層　10YR褐4/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はまだら状を呈する。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐5/4
やや軟質である。粘性少しある。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、炭を微量含む。色調は安定する。

Ⅳ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。Ⅱ層以上にまだら状を呈する。

SI-58　Ⅰ層　10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。

Ⅱ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性全くない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を中量、黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、炭を微量含む。層はまだら状を呈する。

表7 遺構覆土注記(6)

SI-58 Ⅲ層 10YR褐3/4
固く締まっている。粘性少しある。ガラス質粒子を少量、白色粒子を微量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈している。

Ⅳ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっており、粘性少しある。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。色調は安定している。

SI-59 Ⅰ層 10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅱ層 10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性はあまりない。ガラス質粒子を多量、炭を微量、黒色粒子を中量、白色粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層 10YRにぶ黄褐6/4
固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

SI-60 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、黒色粒子を少量含む。まだら状を呈する。

Ⅱ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を少量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層 10YR褐4/4
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を少量、白色粒子を中量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅳ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質である。粘性は殆どない。炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。層はまだらが強い。

Ⅴ層 10YR暗褐3/3
やや軟質である。粘性殆どない。オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を少量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。色調は安定している。

SI-61 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっている。粘性あり。ガラス質粒子を中量、角閃石を微量、白色粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅱ層 10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、黒色粒子を微量、白色粒子を微量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層 10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。ややまだら状を呈する。

SI-61 Ⅳ層 10YRにぶ黄褐5/4
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を中量、角閃石を微量含む。

Ⅴ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性少しあり。角閃石を少量、ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量含む。

SI-62 Ⅰ層 10YR灰黄褐4/2
たいへん固く締まっており、粘性全くなし。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量、角閃石を微量含む。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層 10YR黒褐3/2
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量、黒色粒子を微量含む。炭は全く含まない。

Ⅳ層 10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、角閃石を微量含む。他の層より赤味が強く、白色粒子が少ない。

Ⅴ層 10YRにぶ黄褐5/4
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、黒色粒子を微量含む。

SI-63 Ⅰ層 10YR黒褐3/2
固く締まっており、粘性あり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅱ層 10YR灰黄褐4/2
固く締まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、炭を少量、ガラス質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅲ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質である。粘性僅かにあり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を中量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。

SI-64 Ⅰ層 10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性少しあり。オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量、黒色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、炭を微量、赤色粒子を微量含む。層はまだら状の斑紋が顕著である。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや締まっている。粘性わずかにあり。角閃石を微量、白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。

SI-65 Ⅰ層 固く締まっており、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、炭を少量含む。まだら状を呈する。

Ⅱ層 10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性あり。黒色粒子を微量、白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量、炭を微量含む。ややまだら状を呈する。

表8　遺構覆土注記(7)

SI-65　Ⅲ層　10YR灰黄褐4/2
固く締まっており、粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を微量含む。層はまだらが顕著に認められる。

Ⅳ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性全くなし。炭を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。まだら状の斑紋が顕著に認められる。

Ⅴ層　10YRにぶ黄褐5/3
固く締まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を多量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を中量含む。層の色調は、上層より安定している。

SI-66　Ⅰ層　10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性なし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、角閃石を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅱ層　10YRにぶ黄褐5/4
軟質であり、粘性全くなし。ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、黒色粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質で、粘性少しある。黒色粒子を少量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。

SI-67　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性あり。炭を多量、白色粒を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。

Ⅱ層　10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、黒色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を多量、ガラス質粒子を中量含む。ややまだら状を呈する。

Ⅲ層　10YR褐4/4
固く締まっており、粘性あり。炭を少量、白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。

Ⅳ層　10YR黄褐5/4
固く締まっている。粘性少しあり。ガラス質粒子を少量、白色粒子を少量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅴ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を少量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

SI-68　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
固く締まっており、粘性あり。白色粒子を多量、炭を微量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐3/4
固く締まっており、粘性に富む。白色粒子を多量、炭を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。

SI-68　Ⅲ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質であり、粘性に富む。白色粒子を中量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅳ層　10YRにぶ黄褐4/3
やや固く締まっており、粘性あり。白色粒子を中量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈する。

SI-69　Ⅰ層　10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性ある。白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、炭を少量含む。この他上位の礫が破砕し、層中に少量混入する。

Ⅱ層　10YR暗褐3/4
固く締まっている。粘性に富む。炭を微量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量含む。

SI-74　Ⅰ層　10YR暗褐3/4
軟質である。粘性少しあり。白色粒子を少量含む。植物の根が密に入りこむ。

Ⅱ層　10YR黒褐2/2
固く締まっている。ガラス質粒子を微量、角閃石を少量含む。層はまだら状を呈する。

SC-78　Ⅰ層　10YRにぶ黄褐4/3
粘性殆どない。5mm大のAhブロックが多く混入している。炭、白色粒子も多く認められた。層はやや固く締まっていた。

Ⅱ層　2, 5Y黄褐5/3
固く締まっている。粘性あり。Ahブロックは中量、炭を少量含む。層の色調は安定している。

SC-79　Ⅰ層　2, 5Y暗オリーブ褐3/3
粘性殆どない。層中には、1～3cm大のAhブロックを少量、1cm大の炭を微量含む。他に白色粒子と、直方体の透明な粒子を中量含んでいる。層はたいへん固く締まっている。

Ⅱ層　2, 5Y黒褐3/2
たいへん固く締まっている。粘性は殆どない。Ⅰ層で確認されたAhブロックは微量にまで減少するが、他の混入物の割合は同じである。層の色調は安定している。

Ⅲ層　10YR暗褐3/4
たいへん固く締まっている。粘性は殆どない。層中には3cm大のAhブロックが多く見とめられるが、それ以外の特徴はⅡ層に変化はない。

Ⅳ層　10YR明黄褐6/8
軟質でサラサラしている。粘性は全くない。2～3cm大のAhブロックを多量に含む。

Ⅴ層　10YR暗褐3/3
たいへん固く締まっている。粘性殆どない。オレンジ色の軟質粒子を微量、炭を少量、白色粒子を少量含む。

SC-82　Ⅰ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性はあまりない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を多量に含む。層はまだら状を呈している。

表9 遺構覆土注記(8)

SC-82 Ⅱ層 10YR黒褐3/2
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を少量含む。層はまだら状を呈している。

SC-83 Ⅰ層 2, 5Y黒褐3/2
固く締まっている。粘性あり。1～2cm大のAhブロックを少量、ガラス質粒子を多量に含む。

Ⅱ層 2, 5Y黒褐3/2
Ⅰ層よりもやや黒味が強い。Ah粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。粘性少しあり。

Ⅲ層 10YR褐4/4
固く締まったロームが流入する。粘性は僅かである。混入物等は確認されなかった。

Ⅳ層 10YR黒褐3/2
固く締まったローム層である。粘性に富む。ガラス質粒子を少量、Ah粒子を中量含む。

Ⅴ層 2, 5Y黒褐3/2
やや固く締まっている。Ah粒子を少量、ガラス質粒子を少量含む。粘性に富む。

Ⅵ層 2, 5Y暗灰黄4/2
固く締まったローム層である。粘性に富む。ガラス質粒子とAh粒子を微量含む。

Ⅶ層 10YR黒褐2/3
固く締まっている。粘性に富む。ガラス質粒子、Ahブロック、炭の粒子を少量含む。

SC-84 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐5/3
たいへん固く締まっている。粘性に富む。白色粒子を多量、ガラス質粒子を多量、Ah粒子を特に多量、角閃石を微量、炭を微量含む。層の色調は安定している。

Ⅱ層 10YR暗褐3/3
やや軟質である。粘性に富む。Ah粒子を特に多量、炭を少量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。層の色調は安定している。

Ⅲ層 10YR明黄褐6/6
やや軟質である。粘性に富む。Ah粒子を特に多量、白色粒子を中量、炭を微量、ガラス質粒子を中量含む。層の色調は安定している。

SC-85 Ⅰ層 10YR褐4/4
たいへん固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を多量、ガラス質粒子を微量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量、炭を微量含む。

SC-86 Ⅰ層 2, 5Yにぶ黄褐6/4
軟質であり、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、白色粒子を中量、Ah粒子を多量、黒色粒子を少量含む。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
やや軟質であり、粘性あり。Ah粒子を特に多量、ガラス質粒子を多量、黒色粒子を微量含む。

Ⅲ層 10YR褐4/4
やや軟質であり、粘性あり。Ah粒子を中量、ガラス質粒子を多量、白色粒子を少量含む。

Ⅳ層 10YRにぶ黄褐4/3・10YR黄褐7/8
やや軟質であり、粘性僅かにあり。ガラス質粒子を多量、大小のAhブロックを多量に含む。その間に下層のロームが混入した状態である。

SC-86 Ⅴ層 10YR黒2/1
やや硬質である。粘性に富む。Ah粒子を多量、ガラス質粒子を中量、白色粒子を多量含む。

SX-88 Ⅰ層 10YR黒褐5/1
たいへん軟質である。粘性少しあり。白色粒子が少量含まれるが、他には混入物は認められない。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。粘性は少しあり。層の色調は安定している。

SX-89 Ⅰ層 10YR褐4/6
固く締まっている。粘性は殆どない。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、赤色粒子を微量含む。

Ⅱ層 10YR褐5/6
やや固く締まっている。オレンジ色の軟質粒子を少量、白色粒子を中量含む。粘性は全くなく、渇くとボロボロと崩れる。

SX-90 Ⅰ層 10YRにぶ黄褐6/4
軟質である。粘性は全くなく、サラサラしている。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。

Ⅱ層 10YRにぶ黄褐5/4
たいへん固く締まっている。粘性全くなし。オレンジ色の軟質粒子を微量、白色粒子を中量、ガラス質粒子を中量、黒色粒子を微量含む。

Ⅲ層 10YR明黄褐6/6
やや軟質である。粘性少しあり。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を中量含む。

SX-91 Ⅰ層 10YR明黄褐6/6
固く締まっている。粘性殆どなく、取り出すとボロボロと崩れ落ちる。ガラス質粒子を中量、白色粒子を微量含む。

Ⅱ層 10YR黄褐5/6
固く締まっている。粘性僅か。白色粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。層はややまだら状を呈している。

Ⅲ層 10YR明黄褐6/6
軟質である。粘性あり。ガラス質粒子を中量、白色粒子を少量含む。

SX-92 Ⅰ層 10YR褐4/6
固く締まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を少量、角閃石を微量、ガラス質粒子を微量含む。

Ⅱ層 10YR暗褐3/3
たいへん固く締まっている。粘性僅かにあり。白色粒子を多量、オレンジ色の軟質粒子を微量、ガラス質粒子を微量含む。

Ⅲ層 10YRにぶ黄褐4/3
たいへん固く締まっている。粘性少しある。白色粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を微量、黒色粒子を微量、ガラス質粒子を少量含む。層の色調は安定している。

表10　遺構覆土注記(9)

SX-92 Ⅳ層　10YRにぶ黄褐4/3
固く締まっている。粘性あり。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量、炭を微量含む。
Ⅴ層　10YR暗褐3/3
固く締まっている。粘性少しあり。白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。
Ⅵ層　10YR褐4/4
やや固く締まっている。粘性少しある。白色粒子を少量、ガラス質粒子を微量、角閃石を微量、オレンジ色の軟質粒子を少量含む。層はややまだら状を呈する。

Ⅰ類：無文で薄手の土器（第26図47～61）

(47～58・61)の器面には、繊維痕が確認できる。(48～51)は同一個体である。(53)の外面は、ナデの後二枚貝による条痕が胴部上半から下半の一部に施されており、内面は、口縁部から胴部にかけて二枚貝条痕が横位に施されているが、外面とは異なる原体を使用している。繊維痕の密度は最も高く、外面底部付近には、煤が付着している。(56・57)は同一個体である。(59)は、遺構内出土遺物の(29)と同一個体である。この外面は、工具による不定方向のナデと指によるナデが併用され、内面は、縦位に貝殻条痕を施した後、横位ナデを行っている。

Ⅱ類：楕円押型文土器（第27図62～70）

この類の土器もⅠ類と同様、胎土に繊維が見られる。(62～64)は、一部に無文帯を有する。(62)は、横位楕円押型文が、内外面共に施されている。外面は、2列目との間に幅狭の無文帯が形成される。(63)の外面にも、無文帯が認められる。(64)の外面は、楕円押型文を施文した後にナデ消しにより無文部を設けているが、これが無文帯を意識したものとは断言できない。(66)の外面は、指押さえのためか、意図的なナデなのかは不明であるが、楕円押型文が一部消失している。(67～70)の外面は、全面に楕円押型文が施されている。(68)の穿孔は、貫通しているか不明である。

Ⅲ類：円筒形土器

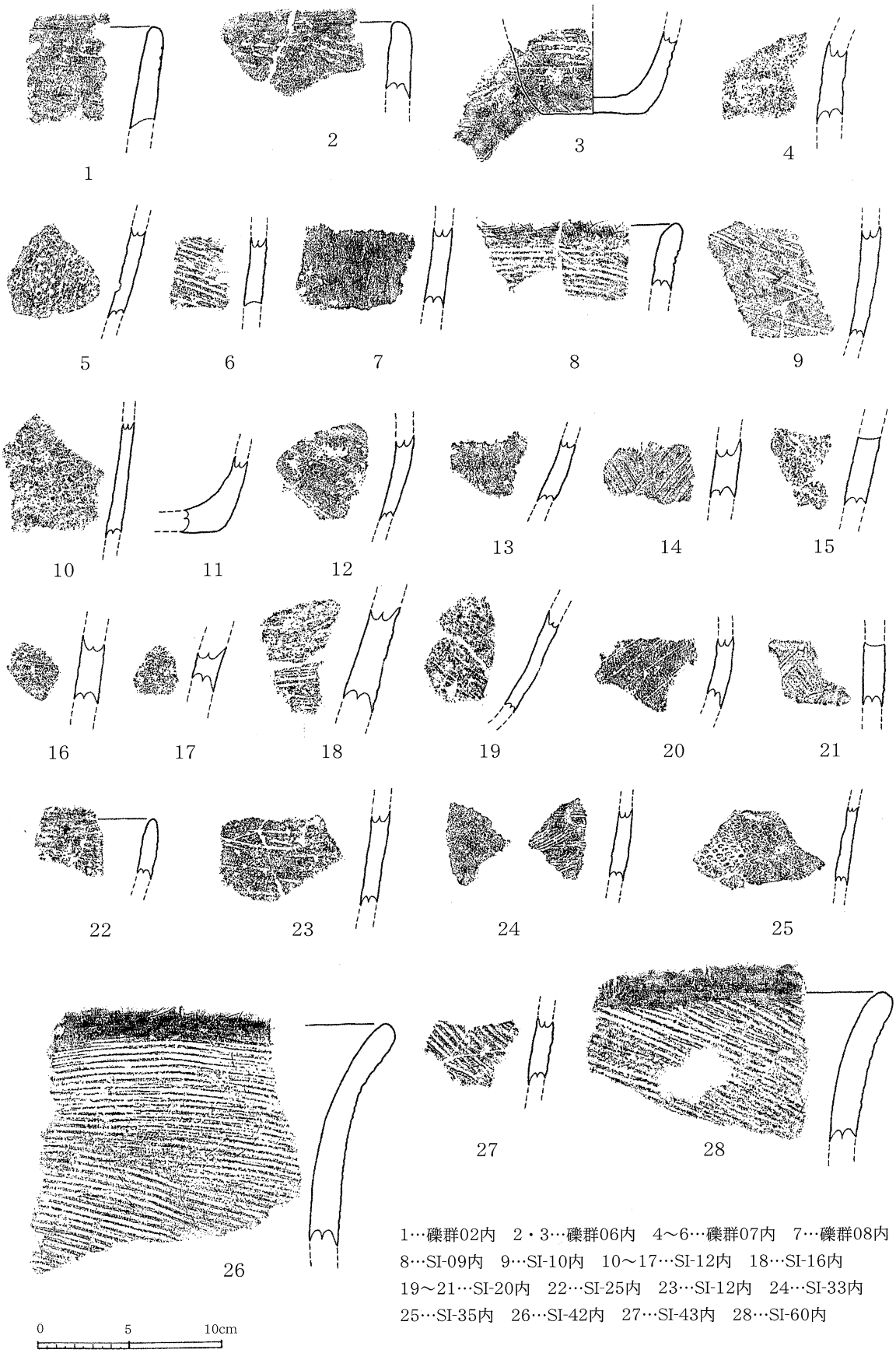
2種に細別することが可能である。

ⅢA：前平式土器（第27図71～73）

(71)の外面は、貝殻腹縁により口縁部に押引きが施されている。(72・73)は、条痕を施した後、口縁部に工具によりやや深い刺突を行っている。

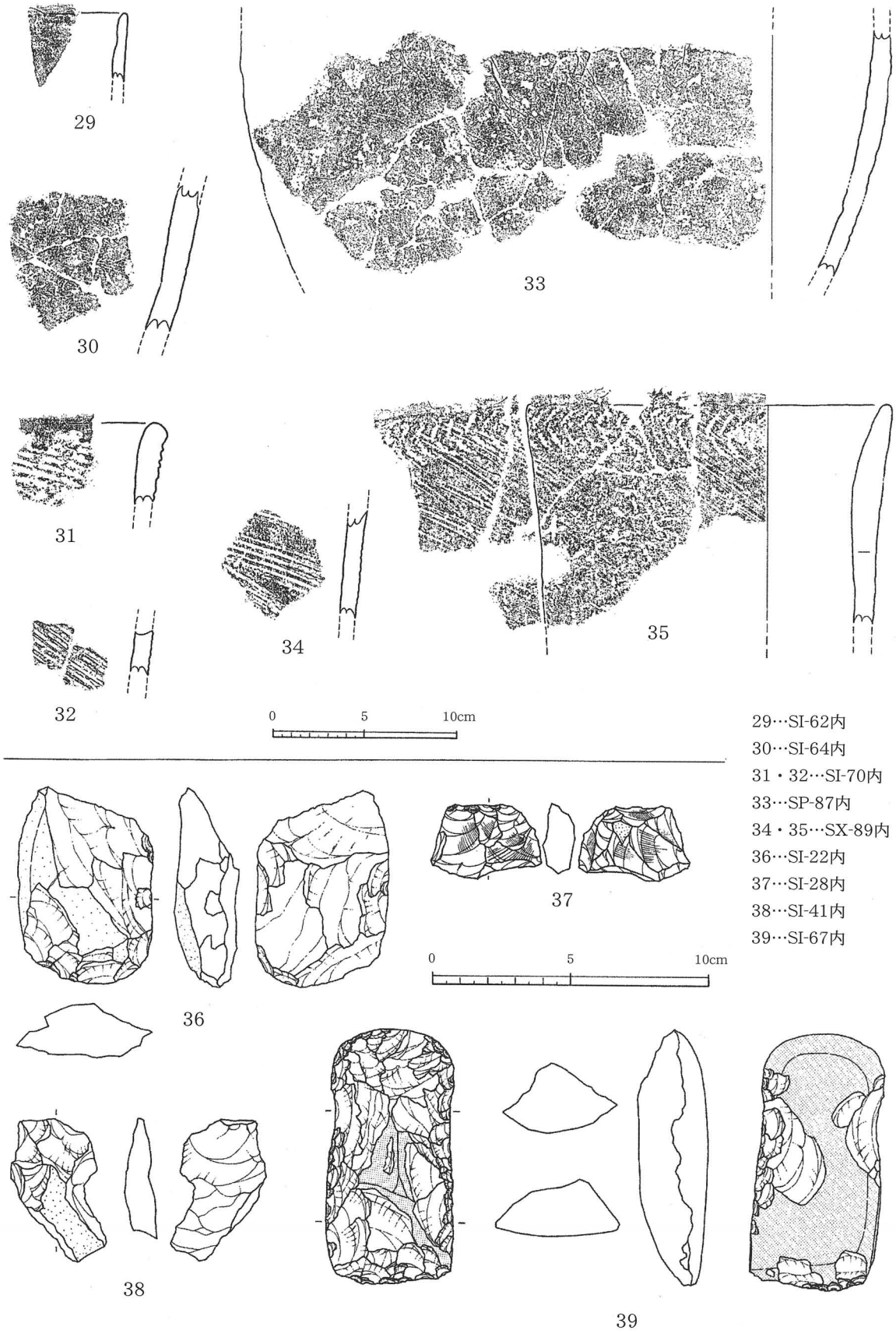
ⅢB：石坂式土器（第27図74）

貝殻腹縁による刺突を口縁部に連続的に施し、その下部に綾杉状の条痕を同じ貝殻で施している。また、口唇部に近い部分は貝殻腹縁刺突の上からナデが行われている。

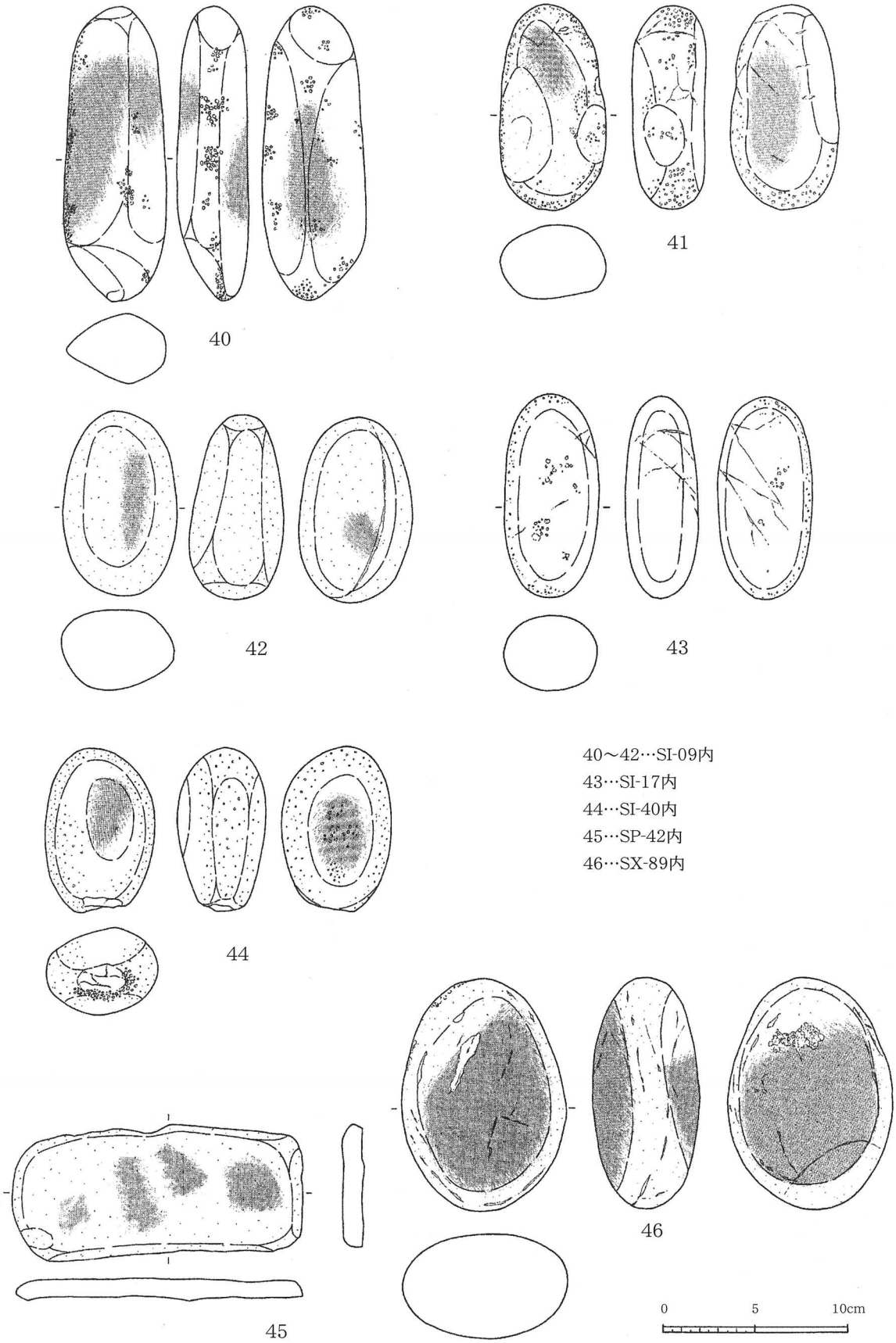


1…礫群02内　2・3…礫群06内　4～6…礫群07内　7…礫群08内
8…SI-09内　9…SI-10内　10～17…SI-12内　18…SI-16内
19～21…SI-20内　22…SI-25内　23…SI-12内　24…SI-33内
25…SI-35内　26…SI-42内　27…SI-43内　28…SI-60内

第23図　遺構内出土遺物実測図(1)



第24図　遺構内出土遺物実測図(2)



第25図　遺構内出土遺物実測図(3)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

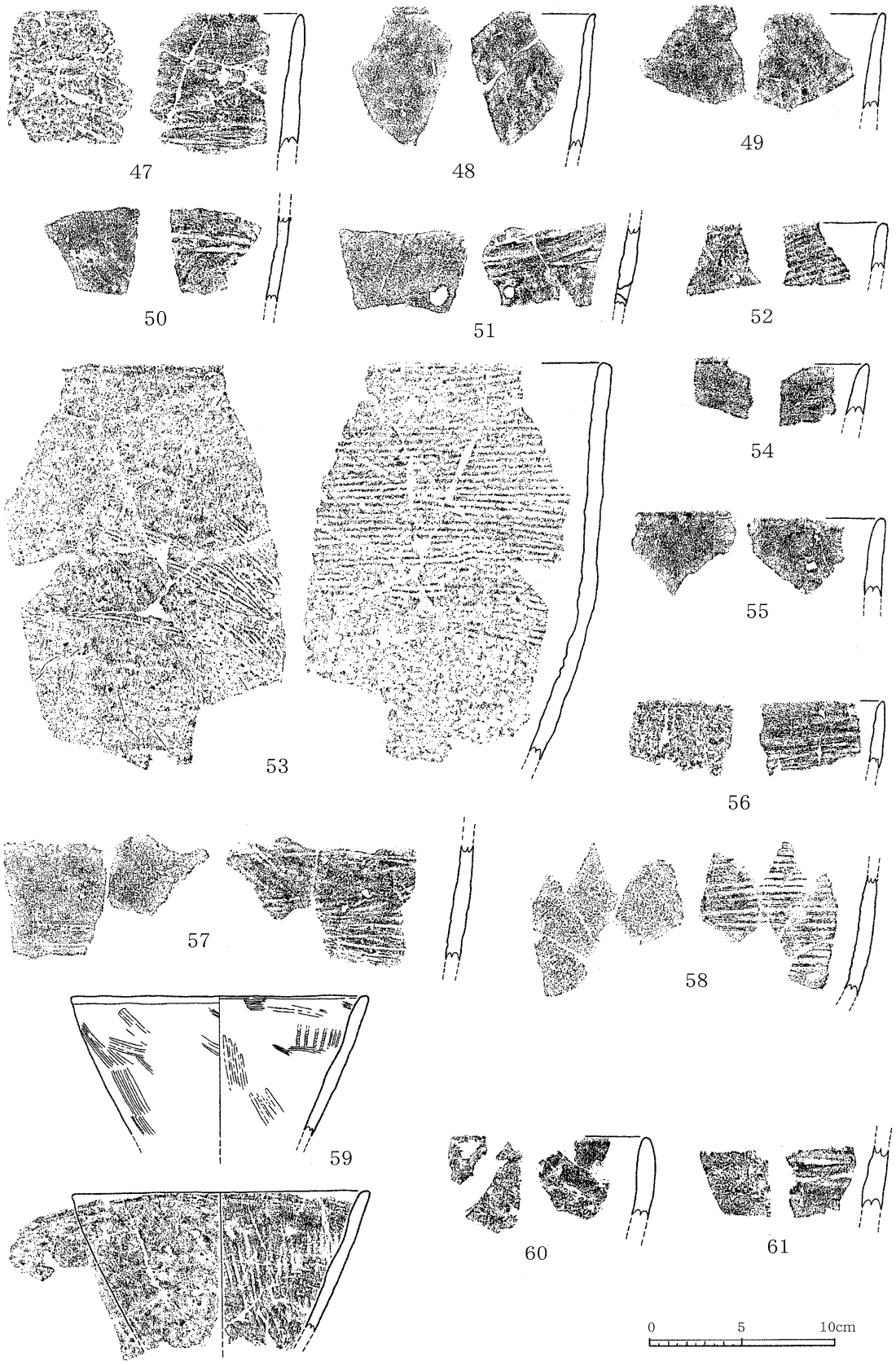
No.	出土遺構	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
1	礫群2	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 淡赤橙2.5YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:少C:中D:多F:微H:中	2と同一個体 口唇部ミガキ
2	礫群6	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:少C:中D:多E:微F:微H:中	1と同一個体 口唇部ミガキ
3	礫群6	XⅡ	底部	**外:** 斜位貝殻条痕→横位ミガキ **内:** ミガキ	**外:** 灰黄2.5Y7/2 **内:** 黄灰2.5Y5/1	A:少C:中D:特多E:中F:微H:微	底面丁寧なミガキ
4	礫群7	—	胴部	**外:** 摩滅により不明 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙7.5YR8/4	A:中C:中D:特多E:中F:微	
5	礫群7	XⅠ	胴部	**外:** 枝回転文→ナデ **内:** 粗雑なナデ	**外:** にぶい赤褐5YR5/4 **内:** にぶい黄橙10YR6/4	C:少D:微E:中	胎土に繊維混入 177・178と同一個体
6	礫群7	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙2.5YR6/6	A:微C:中D:多E:少	
7	礫群8	XⅠ	胴部	**外:** 縦位ミガキ **内:** 丁寧な縦位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:少D:中E:微	
8	SI-09	VA	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/3	A:少C:少D:多E:中F:微	口唇部ミガキ
9	SI-10	VE	胴部	**外:** ナデ→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ナデ→斜位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微C:少D:多E:少F:微	
10	SI-12	—	胴部	**外:** 摩滅により不明 **内:** 横位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:多C:少D:特多E:中	11と同一個体
11	SI-12	XⅡ	底部	**外:** ナデ **内:** 丁寧なナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:多C:多D:特多E:中	10と同一個体
12	SI-12	VE	胴部	**外:** ナデ→浅い条痕 **内:** 丁寧な斜位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	C:中D:多E:少F:微H:少	
13	SI-12	XⅠ	胴部	**外:** ナデ→一部ケズリ **内:** 縦位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	C:少D:中H:中	
14	SI-12	XⅠ	胴部	**外:** 綾杉状の条痕 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:少C:少D:多E:中F:微	21と同一個体
15	SI-12	XⅠ	胴部	**外:** 刺突?→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:少D:多E:少	
16	SI-12	XⅠ	胴部	**外:** 横位条痕→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:少D:特多E:少H:中	
17	SI-12	XⅠ	頸部	**外:** ナデ **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:特多E:微H:少	
18	SI-16	XⅠ	胴部	**外:** 横位条痕 **内:** 丁寧なミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:中C:中D:特多E:少H:少	
19	SI-20	—	底部付近	**外:** 斜位条痕→ナデ **内:** 丁寧なミガキ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:特多E:少H:微	
20	SI-20	VE	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** 灰黄2.5Y7/2 **内:** 黄灰2.5Y6/1	A:微C:中D:多E:微H:少	

表11　遺構内出土土器観察表(1)

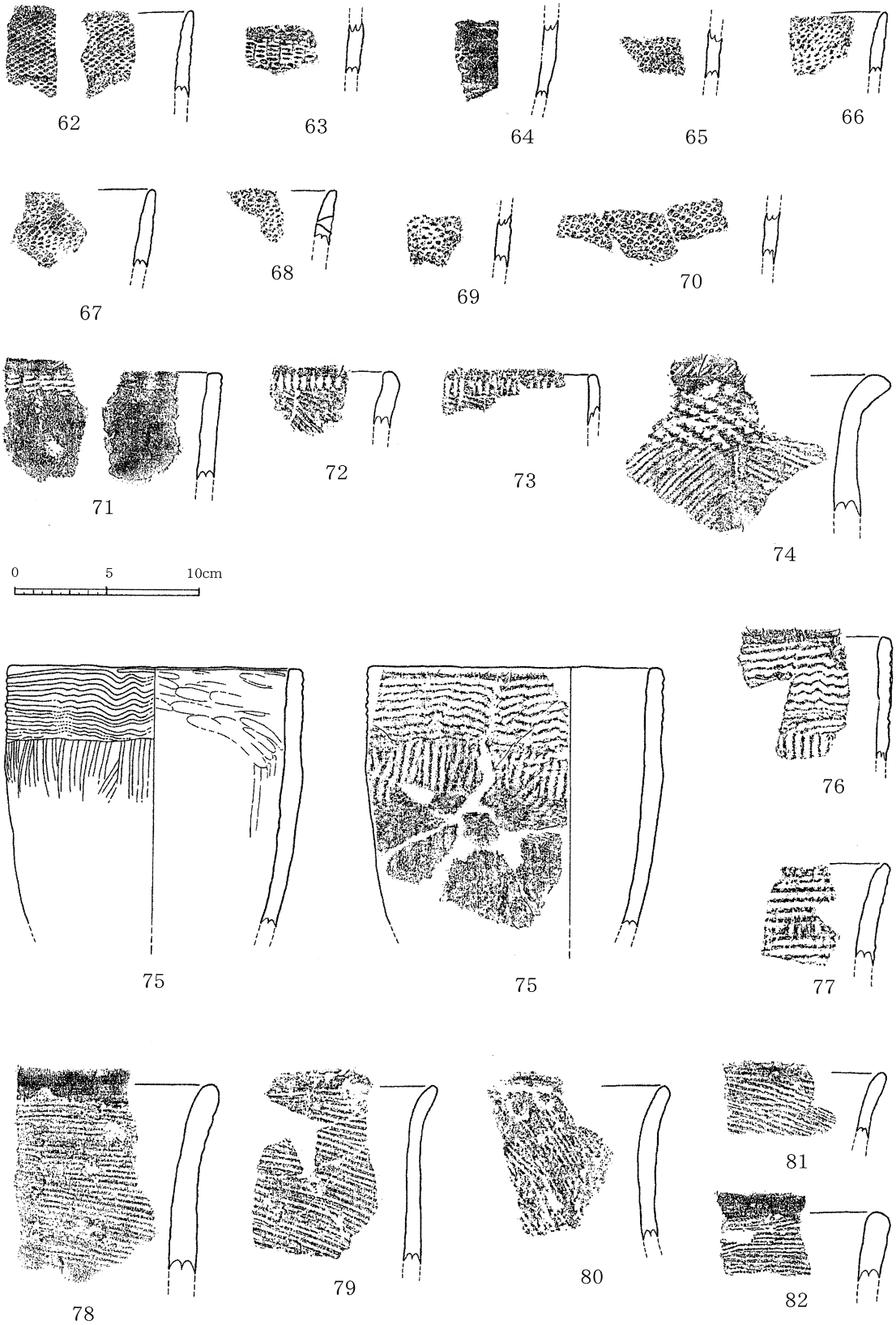
胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	出土遺構	分類	部 位	調　　整	色　調	胎　土	備考
21	SI-20	XI	胴部	**外:** 綾杉状の条痕 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:少D:中E:中F:少H:微	14と同一個体
22	SI-25	I	口縁部	**外:** ナデ **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	C:少D:少E:少	
23	SI-30	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:微C:少D:少E:少H:少	
24	SI-33	I	胴部	**外:** ナデ **内:** 条痕	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微C:少D:少E:中F:微	胎土に繊維混入
25	SI-35	II	胴部	**外:** 楕円押型文→ナデ **内:** 剥落により不明	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:微C:多D:微E:多F:微	
26	SI-42	VA	口縁～胴部	**外:** 横位貝殻条痕→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 淡黄2.5Y8/3	A:多C:少D:多E:中F:微H:微	
27	SI-43	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:少C:中D:中E:少H:微	
28	SI-60	VA	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 黄灰2.5Y6/1	A:少C:中D:特多E:少H:中	煮こぼれ痕付着
29	SI-62	I	口縁部	**外:** 斜位ナデ→横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 灰黄褐10YR5/2 **内:** 褐灰10YR4/1	A:少C:少D:少E:微F:微	59と同一個体
30	SI-64	XI	胴部	**外:** 不定方向の浅い条痕 **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい橙5YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:多D:多E:少H:中	
31	SI-70	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻腹縁押引? **内:** 横位ミガキ	**外:** 灰黄褐10YR6/2 **内:** 褐灰10YR5/1	A:少C:中D:特多F:微H:微	口唇部ミガキ
32	SI-70	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧なミガキ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:中D:多E:少H:微	
33	SP-86	X	胴部	**外:** ナデ→浅い斜位条痕 **内:** 横位ナデ→縦位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:中D:多E:微H:中	外面に煤付着
34	SX-88	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:少D:多E:中F:微H:少	
35	SX-88	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→羽状の貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:中C:多D:多E:中F:微G:微H:少	

表12　遺構内出土土器観察表(2)



第26図　出土土器実測図(1)



第27図　出土土器実測図(2)

Ⅳ類：中原式土器（第27図75～77）

(75)は、貝殻腹縁による条線が施文されている。外面胴部の残存状況が悪いが、胴部以下は無文のようである。内面は、ミガキによる調整が認められる。(76)の外面は、貝殻腹縁による波状の横位沈線の後、横位沈線→縦位沈線が施文されている。内面は、ミガキによる調整が認められる。(77)の外面は、貝殻腹縁による横位沈線の後、一部の横位沈線の上から縦位沈線を施文する。

Ⅳ類：貝殻条痕文土器

５種に細別が可能である。

ⅤA：貝殻腹縁連続刺突を有しない土器（第27・28図78～93）

(78～85・87・88)の外面は、条痕が施され、内面は口唇部からミガキによる調整が行われている。(83・84)は、同一個体である。(86)は、口縁部に横位条痕が施されているほか、補修孔と考えられる穿孔がある。(88)の外面には、弧を描くような条痕が確認できる。(89)は、焼成不良であり、残存状況が悪いが、外面には斜位条痕が施されているのが確認できる。(90)は、弧を描くような条痕が斜位に行われている。(91・92)は同一個体である。外面は、貝殻腹縁による横位条痕の後、ナデ消しが施される。内面は、口唇部からミガキによる調整が行われている。(93)は、外面にやや波状気味の斜位貝殻条痕を行っている。

ⅤB：貝殻腹縁連続刺突を1列施す土器（第28～29図94～113）

この類の土器は、一部残存状況が悪く確認できないものを除いて、口唇部から内面にかけて、横位のミガキ調整が行われている。(94・95)の外面は、口縁部に刺突を行った後、刺突文様帯を避けて条痕を施している。(96・97)の外面は、斜位条痕の後、口縁部に刺突を行っている。(98・99)は同一個体である。外面は、弧を描くように条痕を行った後、口縁部に貝殻腹縁刺突を連続的に施している。(100)の外面は、刺突を施した後、刺突部から斜位に条痕が施されている。(101)は、不定方向の条痕を全面に行った後、刺突を施し一部ナデを行う。(102～105)は、口縁部にやや押引き気味の貝殻腹縁刺突を行った後、斜位条痕を胴部に施文する。口縁部と胴部の文様帯の区別は、あまり明確でない。(105)は、押引きと条痕の工具は異なる。(106・107)は同一個体である。外面は、条痕を行った後、貝殻腹縁押引を口縁部に行っている。また、胴部の一部に無文帯を有する。(108)の外面は、口縁部に押引(ロッキング)を施した後、斜位条痕を施す。(109・110)の外面は、二枚貝腹縁による短沈線を口縁部に行った後、その文様帯の下位に弧を描くような条痕を行っている。(111)の外面は口縁部に押し引きを行った後、胴部に条痕を浅く行い、ナデ消したように見える。口唇部から内面上部はケズリ調整を行い、胴部にかけてはナデ調整を行っている。(112)の外面は、口縁部に斜位短沈線を行った後、斜位条痕を全面に行っている。(113)は、全面に斜位条痕を行った後、口縁部に斜位短沈線を行っている。

ⅤC：貝殻腹縁刺突を2列施す土器（第29～30図114～125）

(114)は、横位条痕を全面に施した後、刺突を行っている。(115)は、斜位条痕を全面に施した後、ほぼ縦位の刺突を巡らせている。内面は、口唇部と口縁部付近の一部にケズリ調整

が確認できる。(116)は、1列目の刺突を行った後、横位条痕を行い、条痕の上から2列目の刺突を行っている。内面は、横位のミガキ調整を行っている。(117)の外面に行われた刺突は、1列目と2列目の工具は同じであるが、2列目は、１列目よりも浅く施文される。(118～121)は、斜位条痕を全面に行った後、異なる工具を用いて、斜位刺突を行っている。(122)は、斜位刺突を行った後、同角度・同方向の条痕を行っているため、刺突文が目立たない。(123)は、斜位条痕を全面に行った後、同角度・同方向で押引きを行っている。(124)は、斜位条痕を全面に行った後、刺突を行う口縁部のみをナデ消し、角度が極端に異なる2列の斜位刺突を行っている。(125)は、摩滅が著しく、確認しづらい状況であるが、刺突と条痕が斜位に行われているのが、辛うじて確認できる。

VD：貝殻腹縁刺突が2列以上ある土器（第30図126～133）

(126・127)は同一個体である。外面は、横位条痕を行ってナデ消した後、斜位押引を3列巡らせている。(128)にも、3列の横位刺突が行われる。(129)は、横位刺突を2列行った後、斜位条痕を行い、再び刺突を行っている。(130)は、横位刺突を3列行った後、斜位刺突を直下に行い、横位条痕を施し、斜位条痕を行う。(131)は、横位に連続刺突を行うことで文様区画を設定し、区画内の一部を、縦位の刺突で埋めている。(132)は、不定方向の粗雑な条痕の後、口縁部に刺突を1列目は深く、２・３列は浅く行っている。(133)は、条痕を行った後、横位刺突を行う。口唇部から内面にかけてはミガキ調整を行う。

VE：それ以外の土器及び胴部（第30図134～139）

(134)は、条痕を斜位に行った後、横位の短沈線を施している。(135)は、横位条痕を行っている。器壁が厚い。(136)は、斜位条痕を全面に施した後、羽状の刺突を2列行っている。工具は貝殻腹縁の最もカーブしている部分2つを残すように加工したものと考えられる。(137)は、横位の刺突を2列めぐらした後、その下部に不定方向のケズリを施している。(138)は、観察表では、不定方向の条痕と記載したが、区画からはみ出した条痕を、一部ナデ消しているようにも見受けられるため、この条痕は調製ではなく文様を意識した可能性もある。(139)は、縦位の刺突を行う。

Ⅵ：下剥峯式土器（第31図140～146）

(140・141)の外面は、横位の刺突を施している。口縁がやや内傾する。(142・143)は、縦位の刺突を施している。(144)は、刺突を横位に施す。(145・146)は、斜位や縦位の刺突を組み合わせることで、文様を形成している。

Ⅶ：桑ノ丸式土器

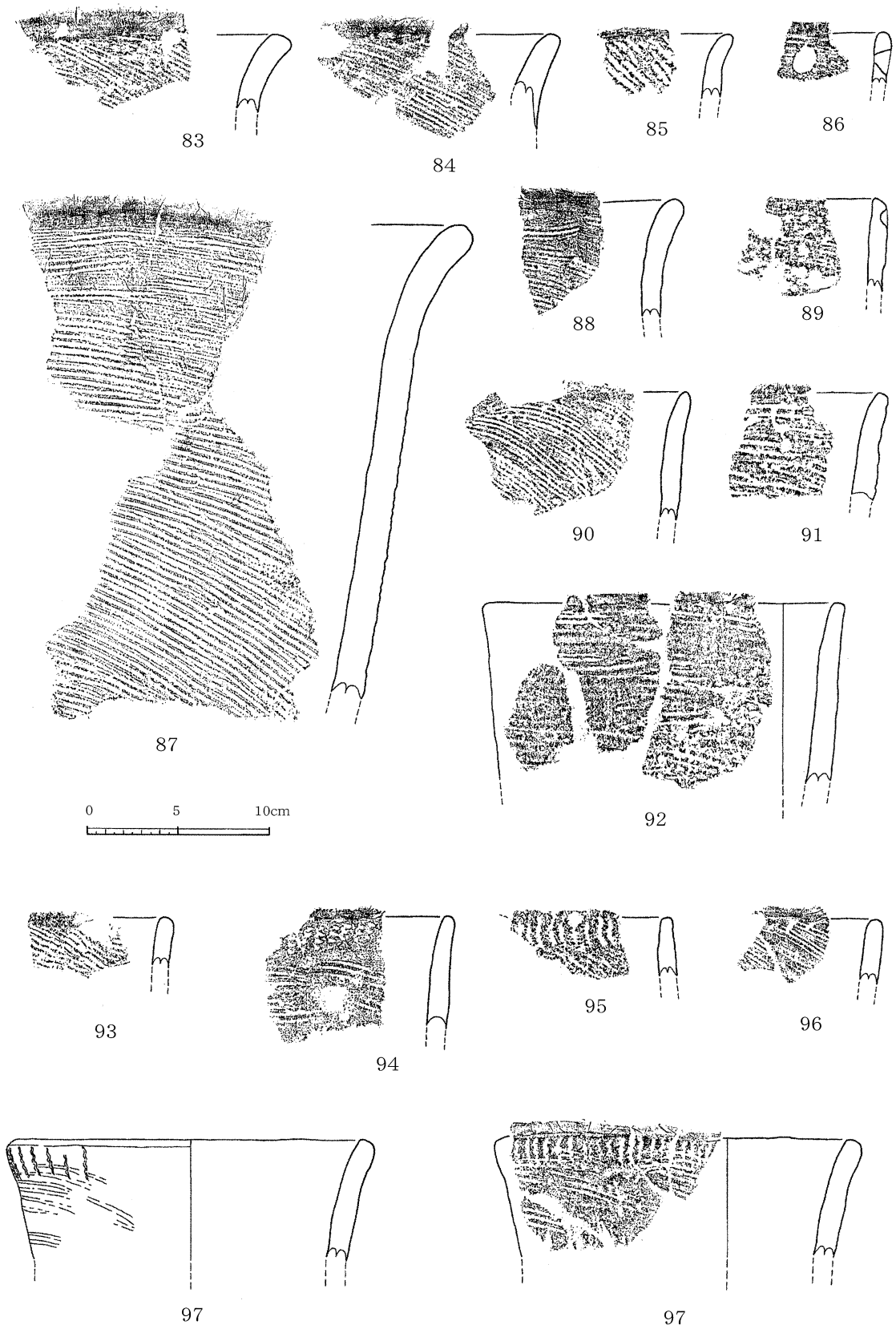
３種に細別が可能である。

ⅦA：短沈線を羽状に施文する土器（第31図147・148）

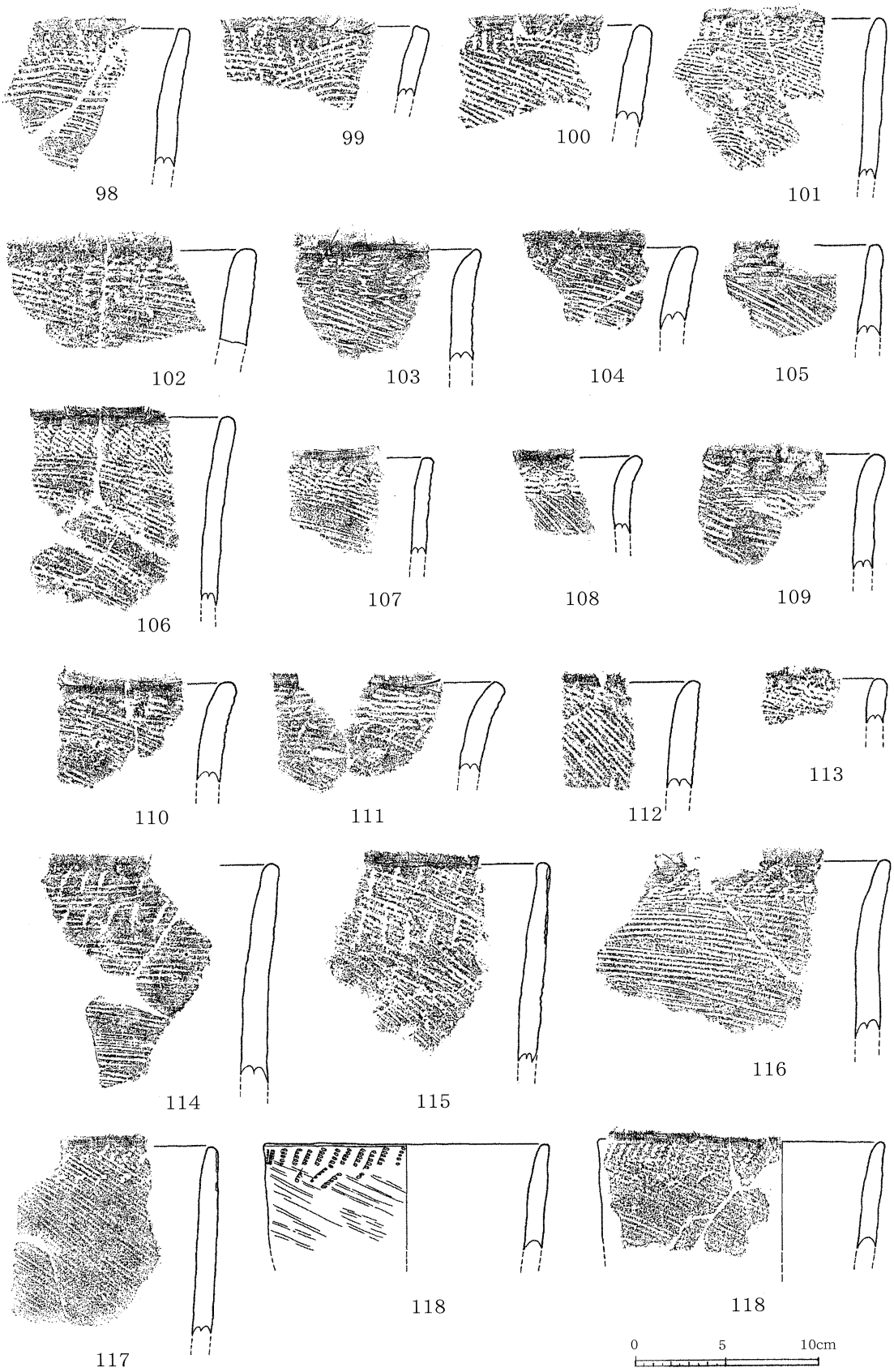
口縁部は丸みを帯び、やや内傾する。口唇部付近に浅い斜位刺突を１列巡らせた後、羽状短沈線を施す。内面は、ケズリの後にミガキを行う。

ⅦB：短沈線を横位に施文する土器（第31図149・150）

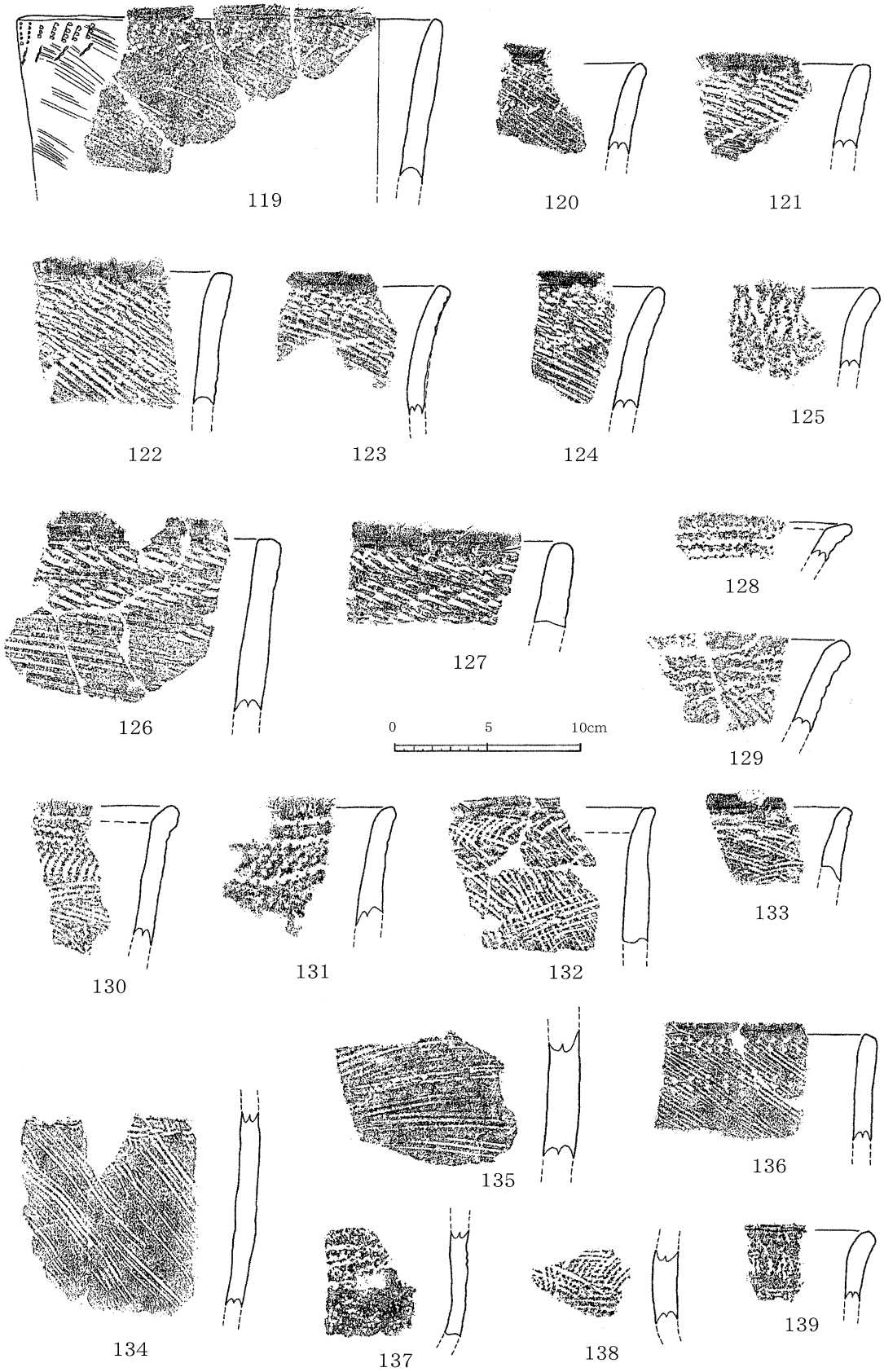
(149)の外面は、口唇部付近に浅い斜位刺突を１列巡らせた後、やや羽状気味の横位短沈線



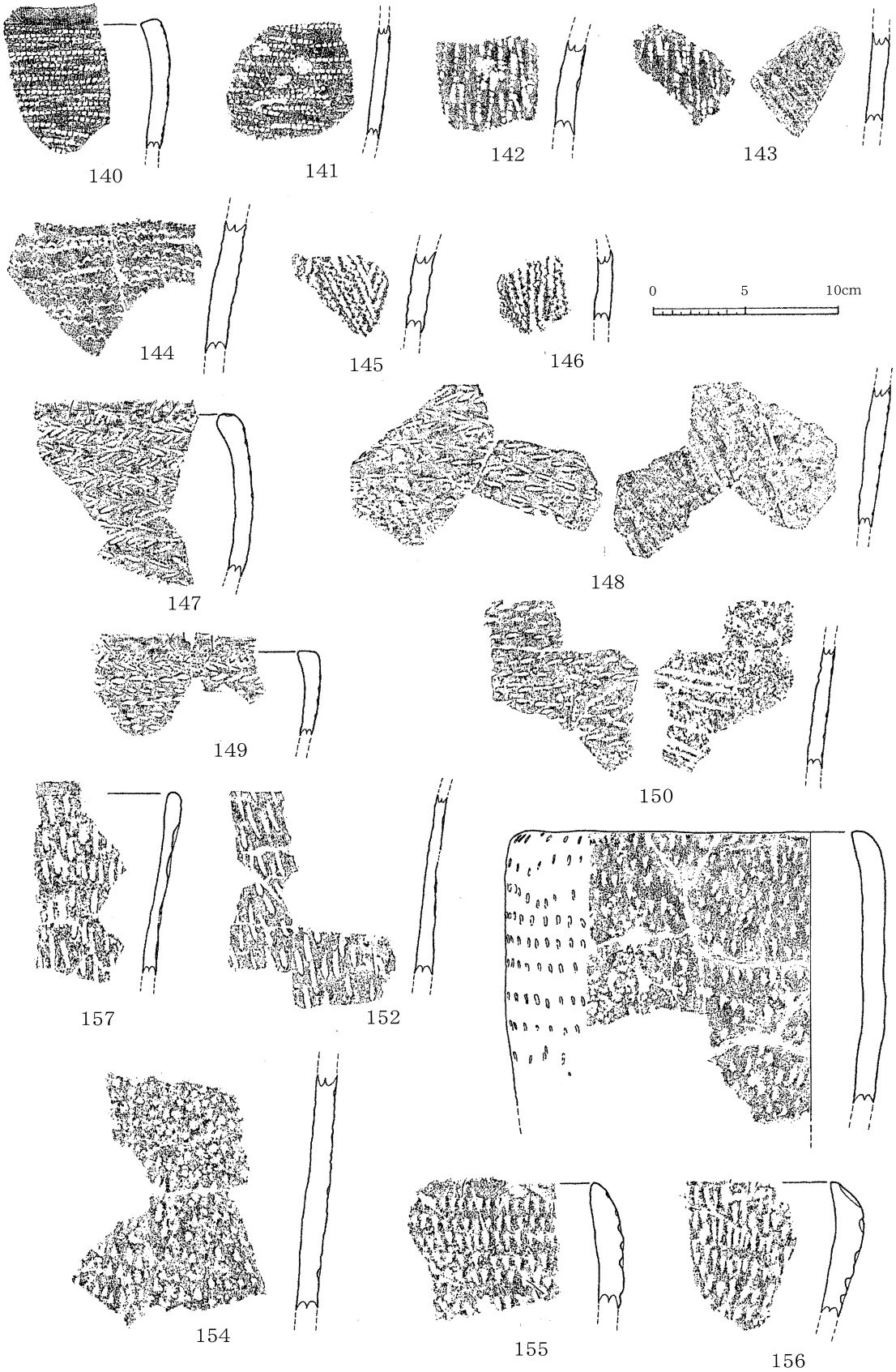
第28図　出土土器実測図(3)



第29図　出土土器実測図(4)



第30図　出土土器実測図(5)



第31図　出土土器実測図(6)

を施している。内面は、ケズリの後にミガキを行う。(150)も、やや羽状気味の横位短沈線を施している。内面は、ケズリ調整の後に横位条痕を行う。

ⅦC：短沈線を縦位に施文する土器（第31図151～156）

(151・152)は、器壁が薄く硬質である。(153～156)の器壁は厚く、軟質である。口縁部がやや内傾する。

Ⅷ：平栫式土器（第32図157・158）

(157)は、横位沈痕と連点により文様を形成している。(158)は、口唇部を斜位短沈線で埋めた後、口縁部と内面の最上部に刺突を連続的に1列巡らせている。残存状況から、胴部にも連点が確認できる。

Ⅸ：塞ノ神式土器（第32図159～165）

(159)は、斜位条痕を組み合わせて、文様を形成する。

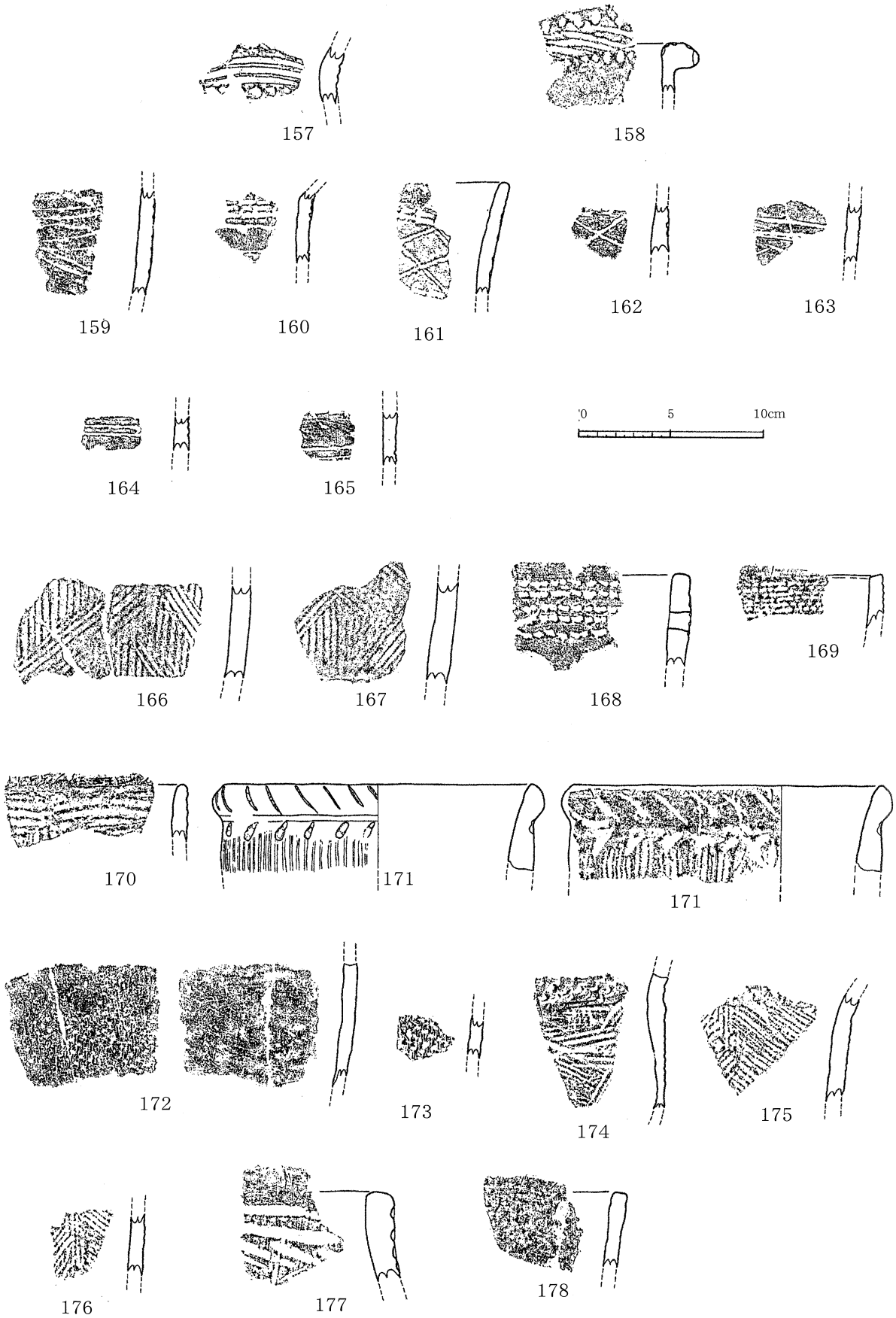
(160～165)は同一個体である。貝殻腹縁による押引と櫛状工具による横位沈線文や、鋭利な工具による格子目状沈線文を有する。

Ⅹ：その他の土器（第32図166～178）

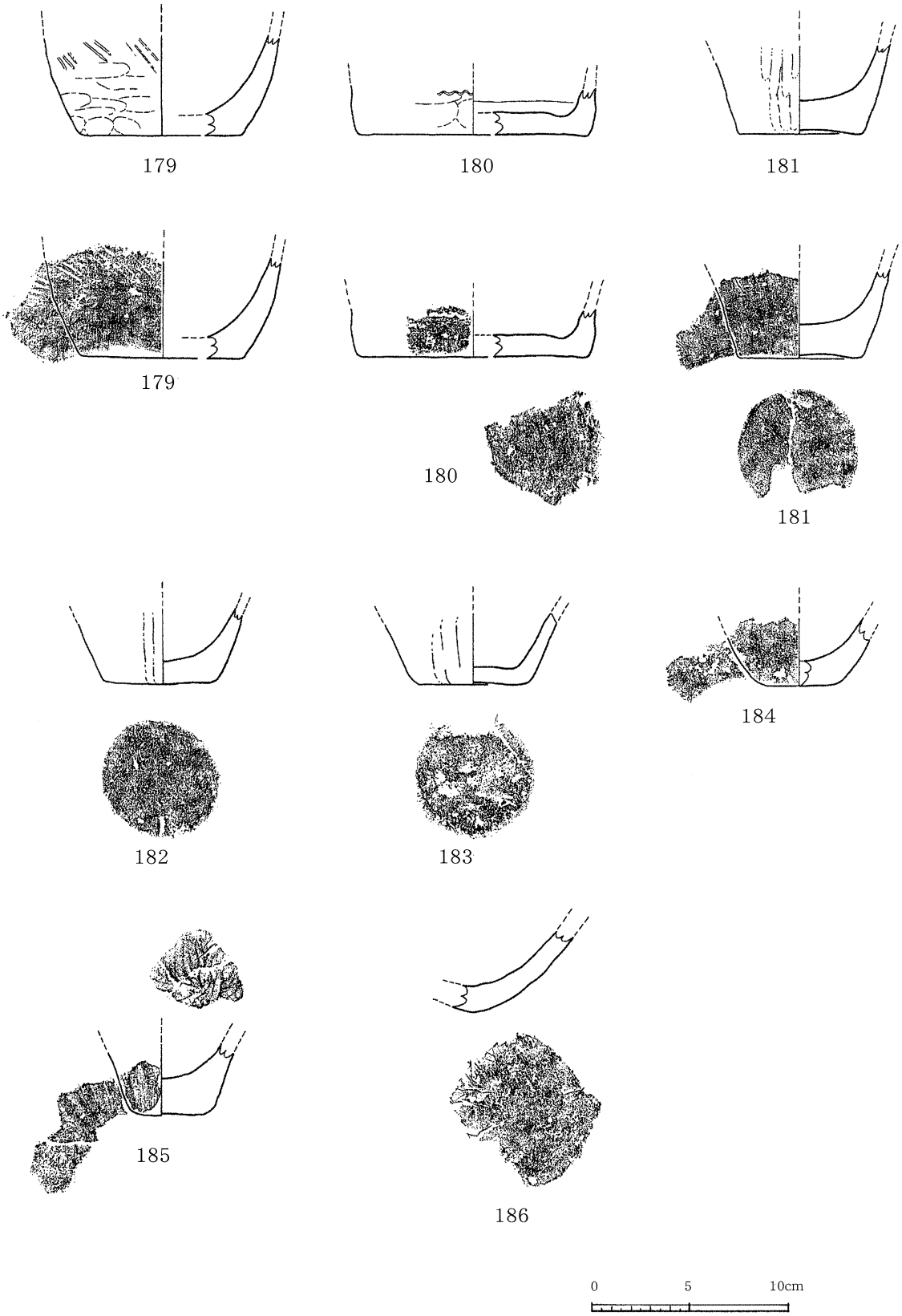
(166・167)は、条痕が不定方向に施された後、ナデが行われている。(168・169)は、石坂式新段階、あるいは下剥峯式の可能性がある。(168)は、ナデ調整の後、貝殻腹縁による横位連続刺突が5列行われている。(169)は、直立した口縁部に工具により連続刺突が行われている。(170)は、口縁部に横位沈線を施した後、その下部に縦位沈線が施されている。(171)は、肥厚した口縁部に貝殻腹縁斜位刺突が巡らされており、胴部には巻貝を押圧したような圧痕文が一列巡らされている。その下部には縦位貝殻条痕が行われている。(172・173)の外面に見られる文様は、小さな突起物を有する軸状工具の回転施文であるとされている。この文様は、残存状況が悪く明言できないが、遺構内出土の(5)や(15)にも行われている。(172)の胎土は砂粒というよりも砂利のような混和材が含まれる。(174)の外面は、沈線で区画を設定した後、区画内を貝殻腹縁刺突で埋めて文様を形成している。(175・176)の外面は、綾杉状の沈線を施している。(177)は、節を有する棒状の原体を圧痕する。(178)は、内・外面ともナデ調整である。

ⅩⅠ：底部(第33図179～186)

(179)に行われた斜位の条痕の下部は、横位のミガキ調整を行い、底面には、丁寧なミガキ調整を行っている。内面には、丁寧なナデ調整が行われる。(180)は、ミガキ調整の後、貝殻腹縁による横位刺突が施される。内面はナデ調整である。(181)は、縦位のヘラミガキが行われ、底面にはミガキのような丁寧な調整が確認できる。また、やや上げ底気味である。(182)の外面・底面はミガキ調整を行っており、内面はナデ調整である。(183)は、外面に縦位のミガキ調整を行っており、底面・内面はナデ調整である。これも、やや上げ底気味である。(185)は、外面に縦位のミガキを行い、底面は丁寧なナデ調整を行っている。内面は、中心部に向けてミガキを行っている。(186)は丸底を呈する。内・外面ともにナデ調整を行っているが、内面は粗雑に行っている。器面の調整や胎土から、Ⅰ類の底部であると考えられる。



第32図　出土土器実測図(7)



第33図　出土土器実測図(8)

Ⅱ・石器

石鏃(第40～46)図　187～436・457

250点出土した。(457)を除いて縄文時代早期のものである。石鏃は、その形態的特徴から、以下の通りに細分を行った。

Ⅰａ類：小型で、尖端部と基部の頂点が正三角形状になるもの。

Ⅰｂ類：小型で、尖端部と基部の頂点が正三角形状よりもやや長くなるもの。

Ⅱａ類：幅が狭く、長いもの。

Ⅱｂ類：Ⅱａ類よりも、やや短いもの。

Ⅲ　類：抉りが明確に入るもの。

Ⅳ　類：その他の形状を持つもの。

この細分結果、及び観察結果は、表20～25のとおりである。

主体を占める黒曜石の石材については、昨年度報告したF地区も含め、以下の通りに細分を行った。なお、この作業にあたっては、馬籠亮道氏、山田鉄哉氏、山下実氏のご指導を賜った。

黒曜石A：黒色で透明度が高く、小粒で透明な気泡を混入する。

黒曜石B：乳白色で表面がざらざらしている。稀に赤色粒子を混入する。

黒曜石C：漆黒であるが、風化面は灰色がかかる。

黒曜石D：漆黒であり、透明度は低い。混入物は白色で気泡よりも大きい。

黒曜石E：黒色であり、透明度は全くない。

黒曜石F：それ以外、若しくは判別不能。

このうち、E地区で確認された黒曜石はA,B,E,F類である。中でもA類の割合は石鏃全体の4分の3を占めており、他の石材を圧倒している。(第Ⅵ章 表４)

黒曜石以外の石材としては、チャート類の割合が高い。この石材は、その特徴から良質チャート、赤色チャート、粗悪なチャートの3つに細分を行った。

(311) の剥離面に認められる表面に細かな線状の擦痕は、フィッシャーではなく、何らかの使用痕であると思われる。また、(332・336・337) 等、脚部のみ残存するものは、欠損後、石錐として使用した可能性も考えられる。

尖頭状石器(第45・46図437～456)

20点出土した。石材は、石鏃の主体を占めた黒曜石は2点のみであり、ホルンフェルス、チャート類の割合が高い。

石錐(第46図458～461)

４点出土した。(458)は、尖端部に対する調整を両縁から行っているが、面的な剥離が多いため、断面形は平たいままである。(459)は、厚めの剥片の一辺に尖端部を作出したものである。(460)は、片面のみに調整を行ったため、断面形は二等辺三角形である。(461)は、礫面近くの半月形の剥片を用いたものである。

石槍(第47図462・463)

2点出土した。(462)は、角礫の端部を剥離した際に作出された三角錐の剥片を用いたもので

胎土(A:角閃石　B:雲母片　C:白色粒　D:長石　E:砂粒　F:赤褐色粒　G:黒曜石片　H:パミス　)　　(特多:特に多量　多:多量　中:中量　少:少量　微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
47	第34図	Ⅰ	口縁～胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ・横位条痕	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微C:中D:少E:微	胎土に繊維混入 煮こぼれ痕付着
48	第34図	Ⅰ	口縁～胴部	**外:** 不定方向のナデ **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:少D:少E:少	48～51は同一個体 胎土に繊維混入
49	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** 不定方向のナデ **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微C:少D:少	48～51は同一個体 胎土に繊維混入
50	第34図	Ⅰ	胴部	**外:** 不定方向のナデ **内:** 粗雑な横位ナデ→横位条痕	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい褐7.5YR5/4	A:少C:少D:少E:少	48～51は同一個体 胎土に繊維混入
51	第34図	Ⅰ	口縁部付近	**外:** 丁寧なナデ **内:** 粗雑なナデ・横位条痕	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微C:中D:少E:少	48～51は同一個体 胎土に繊維混入・穿孔有り
52	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位貝殻条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:中C:中D:少E:中F:微	胎土に繊維混入
53	第34図	Ⅰ	口縁～胴部	**外:** ナデ→一部貝殻条痕 **内:** 横位貝殻条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:少E:多	胎土に繊維混入・外面に煤付着
54	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:微C:少D:少E:少	胎土に繊維混入
55	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** 不定方向のナデ **内:** 不定方向のナデ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 橙7.5YR6/6	A:微C:少D:少E:少	胎土に繊維混入
56	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** ナデ **内:** 横位条痕→横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:微C:中D:少E:少	57と同一個体 胎土に繊維混入
57	第34図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位条痕→丁寧なナデ **内:** ナデ→条痕	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 橙7.5YR6/6	A:少C:中D:多E:多F:微	56と同一個体 胎土に繊維混入・C粗大
58	第34図	Ⅰ	口縁～胴部	**外:** 不定方向のナデ **内:** 横位貝殻条痕	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい赤褐5YR5/3	A:微C:多D:中E:中	胎土に繊維混入
59	第34図	Ⅰ	口縁～胴部	**外:** 不定方向の工具ナデ・ナデ **内:** 縦位貝殻条痕→横位ナデ	**外:** 灰黄褐10YR5/2 **内:** 灰褐10YR4/1	A:中C:中D:少E:微	29と同一個体
60	第34図	Ⅰ	口縁部	**外:** ナデ **内:** 粗雑なナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:微C:中D:中E:少F:微	
61	第34図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 粗雑な横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 灰黄褐10YR6/2	C:少D:少E:少	胎土に繊維混入
62	第35図	Ⅱ	口縁部	**外:** ナデ→横位楕円押型文 **内:** ナデ→横位楕円押型文	**外:** 橙5YR6/8 **内:** 橙5YR6/8	A:微C:少D:微E:少F:微	胎土に繊維混入
63	第35図	Ⅱ	口縁部付近	**外:** 横位ナデ→横位楕円押型文 **内:** 不定方向のナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:微C:少D:多E:微F:微	胎土に繊維混入
64	第35図	Ⅱ	胴部	**外:** 楕円押型文→横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 灰褐7.5YR6/2	A:微C:中D:微E:多F:微	胎土に繊維混入
65	第35図	Ⅱ	胴部	**外:** 斜位楕円押型文→ナデ **内:** 横位ナデ→縦位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微C:中D:少E:中	胎土に繊維混入
66	第35図	Ⅱ	口縁部	**外:** 斜位楕円押型文 **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい褐7.5YR5/4 **内:** にぶい褐7.5YR5/4	C:中E:中D:少F:微	胎土に繊維混入

表13　出土土器観察表(1)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
67	第35図	Ⅱ	口縁部	**外:** 横位楕円押型文→斜位楕円押型文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/4 **内:** にぶい黄橙10YR6/4	A:微C:中D:少E:少	68と同一個体 胎土に繊維混入
68	第35図	Ⅱ	口縁部	**外:** 斜位楕円押型文 **内:** ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:少C:少D:少E:少F:微	67と同一個体 穿孔有り・胎土に繊維混入
69	第35図	Ⅱ	胴部	**外:** 横位楕円押型文 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:少C:中D:微E:中	胎土に繊維混入
70	第35図	Ⅱ	胴部	**外:** 斜位楕円押型文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/3 **内:** 灰褐7.5YR6/2	A:微C:中D:微E:中	胎土に繊維混入
71	第35図	ⅢA	口縁～胴部	**外:** ナデ→貝殻腹縁押引 **内:** 丁寧なミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:少C:中D:多E:少F:微H:少	口唇部ミガキ
72	第35図	ⅢA	口縁部	**外:** 斜位条痕→工具による刺突 **内:** ミガキ	**外:** にぶい黄褐10YR5/3 **内:** 明赤褐5YR5/6	A:少C:少D:特多E:少	口唇部ミガキ
73	第35図	ⅢA	口縁部	**外:** 斜位条痕→ナデ→工具による刺突 **内:** ナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:多C:少D:多E:中F:微H:少	煮こぼれ痕付着
74	第35図	ⅢB	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻腹縁刺突→綾杉状の貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:多D:多E:多F:微G:微	口唇部に浅い刺突
75	第35図	Ⅳ	口縁～胴部	**外:** 貝殻腹縁による波状沈線→縦位貝殻条痕 **内:** 粗雑なミガキ	**外:** 褐灰10YR5/1 **内:** 灰黄褐10YR6/2	A:中C:中D:特多F:微G:微H:少	76と同一個体・C粗大・口唇部ミガキ 煮こぼれ痕、煤、内面に炭化物付着
76	第35図	Ⅳ	口縁部	**外:** 貝殻腹縁による波状沈線→横位条痕→縦位条痕 **内:** 粗雑なミガキ	**外:** 灰黄2.5Y6/2 **内:** 灰黄褐10YR6/2	A:中C:中D:特多E:少H:少	75と同一個体・口唇部ミガキ C粗大
77	第35図	Ⅳ	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕→縦位貝殻条痕 **内:** 粗雑なミガキ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** にぶい赤褐5YR5/4	A:少C:中D:多E:中F:少H:中	C粗大
78	第37図	VA	口縁～胴部	**外:** 貝殻条痕→軽いナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** 浅黄橙10YR8/3 **内:** 淡黄2.5Y8/3	A:多C:少D:特多E:中	口唇部ミガキ
79	第37図	VA	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:少D:中E:中F:微H:微	口唇部ミガキ
80	第37図	VA	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:中C:少D:特多E:多F:少H:微	口唇部ミガキ
81	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧なミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 褐灰10YR5/1	A:少C:少D:中E:中F:微H:微	内面炭化物付着 口唇部ミガキ
82	第37図	VA	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:中D:多E:少H:少	口唇部ミガキ
83	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 灰黄5Y7/2	A:微C:少D:中H:少	84と同一個体 口唇部ミガキ
84	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 灰白2.5Y8/2	A:微C:少D:中E:少	83と同一個体 口唇部ミガキ
85	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:少C:少D:特多E:少H:少	口唇部ミガキ
86	第37図	VA	口縁部	**外:** ナデ→横位貝殻条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙5YR7/4 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:中D:中E:少F:微	穿孔有り

表14　出土土器観察表(2)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
87	第37図	VA	口縁～胴部	**外:** 横位・斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 淡黄2.5Y8/3	A:中C:少D:中E:中H:中	煮こぼれ痕付着 口唇部ミガキ
88	第37図	VA	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい橙7.5YR7/3	A:少C:少D:多E:微F:少H:少	煮こぼれ痕付着 口唇部ミガキ
89	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:微C:少D:中F:少	穿孔有り（未貫通）
90	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:中C:中D:多E:中F:中H:微	
91	第37図	VA	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい褐7.5YR5/3	A:少C:多D:多E:少F:少	92と同一個体 口唇部ミガキ
92	第37図	VA	口縁～胴部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ **内:** 丁寧な斜位ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:少C:多D:多E:少F:少	91と同一個体 口唇部ミガキ
93	第37図	VA	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:微C:少D:少E:少H:少	
94	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻腹縁刺突→斜位貝殻条痕 **内:** ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄褐10YR6/2	D:多A:中C:中E:中F:中	口唇部ミガキ
95	第37図	VB	口縁部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突・斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:中D:中E:少	
96	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:微C:微D:中E:少	口唇部ミガキ
97	第37図	VB	口縁部	**外:** 不定方向の貝殻条痕→ナデ→縦位貝殻腹縁刺突 **内:** 斜位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:中D:多E:中	口唇部ミガキ
98	第37図	VB	口縁～胴部	**外:** 貝殻条痕→斜位貝殻腹縁→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 橙5YR6/8 **内:** 橙7.5YR7/6	A:微C:中D:特多E:少F:微H:微	99と同一個体 口唇部ミガキ
99	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 橙5YR6/8 **内:** 橙5YR6/8	A:微C:中D:特多E:少F:微H:微	98と同一個体 口唇部ミガキ
100	第37図	VB	口縁部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突→斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:少D:多E:少F:微H:微	口唇部ミガキ
101	第37図	VB	口縁～胴部	**外:** 不定方向の貝殻条痕→貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:多C:少D:微H:特多	口唇部ミガキ
102	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻腹縁刺突→斜位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:多D:特多E:少H:少	
103	第37図	VB	口縁部	**外:** 軽い貝殻腹縁押引→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:少D:多E:少F:微G:微H:少	口唇部ミガキ
104	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻腹縁押引→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** 灰白2.5Y8/2	A:少C:中D:中E:少H:少	口唇部ミガキ
105	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻腹縁押引→斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:少C:中D:特多E:中H:中	口唇部ミガキ
106	第37図	VB	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→軽い貝殻腹縁押引→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:中C:少D:多E:中F:微H:微	107と同一個体 口唇部ミガキ

表15　出土土器観察表(3)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
107	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→軽い貝殻腹縁押引→ナデ **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:微C:少D:多E:微H:微	106と同一個体 口唇部ミガキ・煮こぼれ痕付着
108	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→貝殻腹縁押引（ロッキング） **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** 暗灰黄2.5Y5/2 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:微C:少D:多E:少F:微	口唇部ミガキ
109	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻腹縁短沈線→不定方向の貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:少C:多D:中E:中F:微H:少	110と同一個体・煮こぼれ痕付着 口唇部ミガキ
110	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻腹縁短沈線→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:少D:特多F:微H:少	109と同一個体・口唇部ミガキ
111	第37図	VB	口縁部	**外:** 貝殻腹縁押引→条痕→ナデ消し **内:** 横位ミガキ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:中D:多E:少H:少	口唇部ミガキ 煮こぼれ痕付着
112	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻腹縁押引？→斜位貝殻条痕→ナデ **内:** ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:少C:少D:多E:少H:中	口唇部ミガキ
113	第37図	VB	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁短沈線 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:少C:少D:中E:少H:少	口唇部ミガキ
114	第37図	VC	口縁～胴部	**外:** 横位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 丁寧なミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR7/3 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:微C:少D:中E:少H:少	口唇部ミガキ
115	第37図	VC	口縁～胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→縦位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/2 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微C:中D:少E:特多F:少	口唇部ミガキ
116	第37図	VC	口縁～胴部	**外:** 横位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突→軽い斜位貝殻腹縁押引？ **内:** 横位ミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:多D:多E:多	口唇部ミガキ
117	第37図	VC	口縁～胴部	**外:** 斜位条痕→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** 灰褐色10YR6/2	A:中C:多D:特多E:少F:微	口唇部ミガキ
118	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 灰黄橙10YR5/2	A:中C:中D:特多F:微H:微	口唇部ミガキ
119	第37図	VC	口縁～胴部	**外:** 斜位条痕→斜位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:中C:中D:多E:中F:微H:微	口唇部ミガキ
120	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** 浅黄橙10YR8/3 **内:** 褐灰10YR6/1	A:中C:少D:特多E:微F:微H:少	口唇部ミガキ
121	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→軽い斜位貝殻腹縁押引？→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 摩滅著しく不明	**外:** にぶい黄橙10YR6/4 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:中D:特多E:中H:微	口唇部ミガキ
122	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁押引？→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** ミガキ	**外:** 灰黄2.5Y6/2 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:中D:多E:少F:微H:微	口唇部ミガキ
123	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁押引？→貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:少D:特多E:少	口唇部ミガキ
124	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ→軽い斜位貝殻腹縁押引？→斜位貝殻腹縁刺 **内:** ミガキ	**外:** 黄灰2.5Y6/1 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:少D:多E:少	口唇部ミガキ
125	第37図	VC	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕・貝殻腹縁刺突 **内:** 摩滅により不明	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:多C:中D:特多E:少H:少	
126	第37図	VD	口縁～胴部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ→斜位貝殻腹縁押引？ **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい橙5YR6/4	A:中C:中D:多E:中F:微	

表16　出土土器観察表(4)

胎土(A:角閃石　B:雲母片　C:白色粒　D:長石　E:砂粒　F:赤褐色粒　G:黒曜石片　H:パミス　)　　(特多:特に多量　多:多量　中:中量　少:少量　微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
127	第37図	VD	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ→斜位貝殻腹縁押引？ **内:** 横位ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:中D:特多E:少F:微	
128	第37図	VD	口縁部	**外:** 横位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:中D:多E:中H:中	
129	第37図	VD	口縁部	**外:** 横位貝殻腹縁刺突→斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:中C:少D:多E:多	
130	第37図	VD	口縁部	**外:** 横位貝殻腹縁刺突→斜位貝殻腹縁刺突→貝殻条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:中C:多D:多E:中H:少	
131	第37図	VD	口縁部	**外:** 横位貝殻腹縁刺突→縦位貝殻腹縁刺突→横位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ナデ	**外:** 黄橙10YR8/6 **内:** 黄橙10YR8/6	A:中C:中D:多E:中F:微	
132	第37図	VD	口縁～胴部	**外:** 不定方向の貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 丁寧なミガキ	**外:** 明赤褐2.5YR5/8 **内:** 明赤褐2.5YR5/8	A:少C:少D:特多	口唇部ミガキ
133	第37図	VD	口縁部	**外:** 貝殻条痕→横位腹縁刺突 **内:** 丁寧な横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:中E:少	口唇部ミガキ
134	第36図	VE	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕→横位貝殻腹縁押引→ナデ **内:** 縦位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:中D:多E:少F:微H:少	煮こぼれ痕付着
135	第36図	VE	胴部	**外:** 横位貝殻条痕 **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:少D:特多E:少F:微H:少	
136	第36図	VE	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→ナデ→羽状刺突 **内:** ミガキ	**外:** にぶい黄褐10YR5/3 **内:** にぶい黄褐10YR5/3	A:少C:中D:特多F:微H:少	口唇部ミガキ
137	第36図	VE	胴部	**外:** 不定方向のケズリ→横位貝殻腹縁刺突 **内:** ナデ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 明黄褐10YR6/6	A:少C:中D:中E:少	
138	第36図	VE	胴部	**外:** 不定方向の条痕・ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:多D:多E:少G:微	C粗大
139	第36図	VE	口縁部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突→ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** 暗灰黄2.5Y5/2 **内:** 灰5Y4/1	A:微C:中D:中F:微H:少	口唇部ミガキ
140	第38図	VI	口縁～胴部	**外:** ナデ→横位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい褐7.5YR6/3	A:中C:中D:特多E:少H:微	煮こぼれ痕付着 口唇部ミガキ
141	第38図	VI	胴部	**外:** ナデ→横位貝殻腹縁刺突 **内:** 斜位ミガキ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 灰褐5YR4/2	A:中C:中D:特多E:少H:微	
142	第38図	VI	胴部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突 **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:多C:多D:特多E:少F:少H:微	F粗大
143	第38図	VI	胴部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突 **内:** 斜位ケズリ→ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:中C:多D:特多E:少F:少	F粗大
144	第38図	VI	胴部	**外:** 横位貝殻腹縁刺突 **内:** 不定方向のナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 橙7.5YR7/6	A:多C:特多D:中E:中F:微	穿孔あり C粗大
145	第38図	VI	胴部	**外:** 斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位粗いナデ	**外:** 灰黄褐10YR6/2 **内:** にぶい褐7.5YR5/3	B:多C:特多D:微E:中	煮こぼれ痕付着
146	第38図	VI	胴部	**外:** 縦位貝殻腹縁刺突 **内:** 斜位粗いナデ	**外:** にぶい褐7.5YR5/4 **内:** にぶい褐7.5YR5/3	B:多C:特多D:微E:少F:微	

表17　出土土器観察表(5)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　　調	胎　　土	備考
147	第38図	ⅦA	口縁～胴部	**外:** 浅い斜位刺突→羽状の短沈線 **内:** 横位ケズリ→横位ミガキ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:中C:多D:特多E:中F:少H:少	口唇部ミガキ
148	第38図	ⅦA	胴部	**外:** 羽状の短沈線 **内:** 不定方向のケズリ→ミガキ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:特多E:中F:少H:少	
149	第38図	ⅦB	口縁部	**外:** 浅い斜位刺突→横位短沈線 **内:** 横位ケズリ→横位ミガキ	**外:** にぶい赤褐5YR5/3 **内:** にぶい赤褐5YR5/3	A:少C:中D:特多E:少F:少H:少	149と同一個体 口唇部ミガキ
150	第38図	ⅦB	胴部	**外:** 横位短沈線 **内:** 不定方向のケズリ→横位条痕	**外:** にぶい赤褐5YR5/4 **内:** にぶい赤褐5YR5/4	A:少C:多D:多E:少F:中H:微	150と同一個体
151	第38図	ⅦC	口縁～胴部	**外:** 縦位の短沈線 **内:** 粗雑な横位ミガキ	**外:** 明黄褐10YR6/6 **内:** 明黄褐10YR6/6	A:微B:多C:特多D:微E:中F:微	152と同一個体 口唇部ミガキ
152	第38図	ⅦC	胴部	**外:** 縦位の短沈線 **内:** 粗雑なミガキ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい黄橙10YR6/4	A:微B:多C:多D:微E:中F:少	151と同一個体
153	第38図	ⅦC	口縁～胴部	**外:** 刺突→縦位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:多C:多D:少E:少	
154	第38図	ⅦC	胴部	**外:** 刺突→縦位ナデ **内:** 縦位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:多D:少E:少	
155	第38図	ⅦC	口縁部	**外:** 刺突→縦位ナデ **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:少E:少H:微	
156	第38図	ⅦC	口縁部	**外:** 刺突→ナデ **内:** ナデ→粗雑なミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:中F:微	
157	第39図	Ⅷ	胴部	**外:** 横位沈線・連点 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:微B:特多C:多D:中E:中F:微	
158	第39図	Ⅷ	口縁部	**外:** 隆帯貼付→ナデ→深い刺突 **内:** 横位ナデ→刺突	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい橙5YR6/4	A:中B:多C:特多D:少E:少	口唇部に斜位短沈線
159	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 横位ナデ→不定方向の沈線・丁寧なナデ **内:** ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:中C:特多D:多F:微G:微	
160	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 横位ナデ→貝殻腹縁押引・横位沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:中D:多	160～165は同一個体 C粗大
161	第39図	Ⅸ	口縁部	**外:** 横位ナデ・貝殻腹縁押引・沈線 **内:** 横位条痕→横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:中D:少G:微	160～165は同一個体 A粗大
162	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 横位ナデ→貝殻腹縁押引・沈線 **内:** 横位条痕→横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:微C:少D:中G:微	160～165は同一個体
163	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 横位ナデ→沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:中D:中E:微F:微G:微	160～165は同一個体
164	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 丁寧な横位ナデ→横位沈線 **内:** 条痕→横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:中D:中	160～165は同一個体
165	第39図	Ⅸ	胴部	**外:** 横位ナデ→横位沈線・貝殻腹縁押引 **内:** 条痕→横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:少D:中E:少	160～165は同一個体
166	—	Ⅹ	胴部	**外:** 条痕→ナデ **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:中D:多E:中F:微	168と同一個体 C粗大

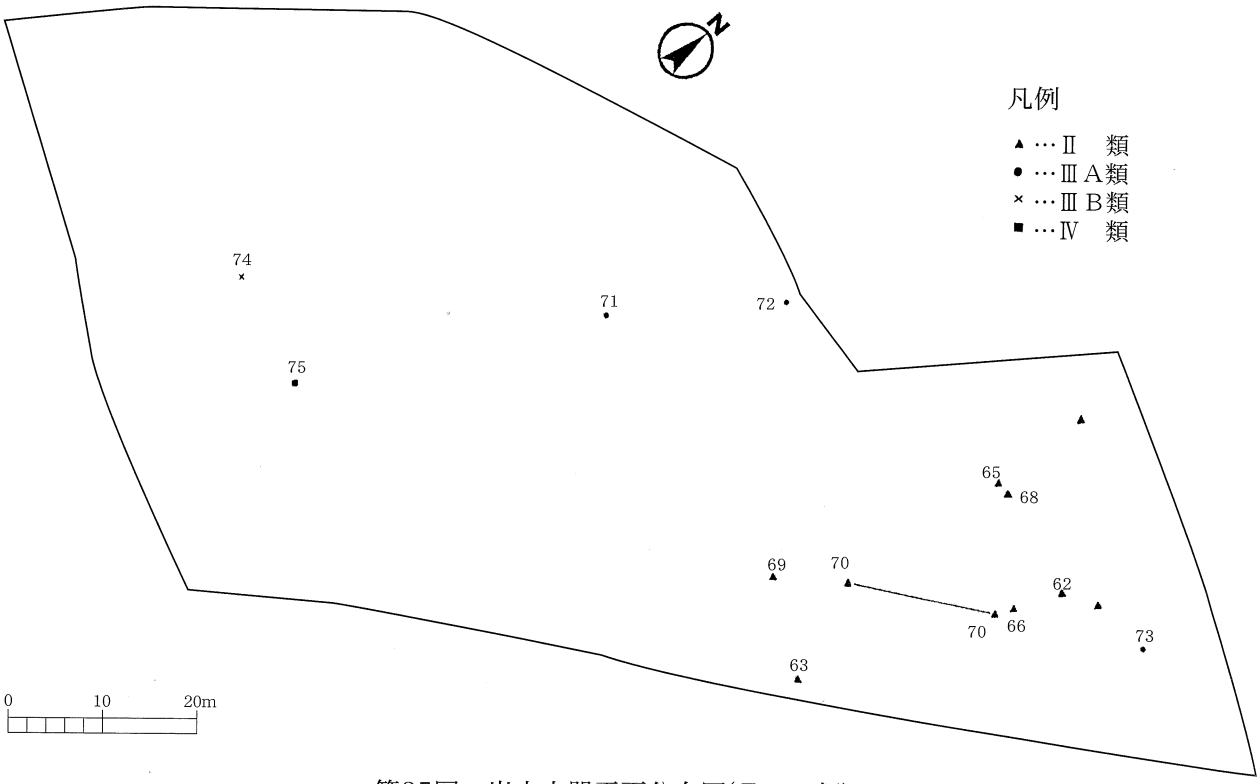
表18　出土土器観察表(6)

胎土(A:角閃石　B:雲母片　C:白色粒　D:長石　E:砂粒　F:赤褐色粒　G:黒曜石片　H:パミス　)　　(特多:特に多量　多:多量　中:中量　少:少量　微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　　調	胎　　土	備考
167	—	X	胴部	**外:** 条痕→ナデ **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい赤褐5YR5/3 **内:** 橙2.5YR6/6	A:少C:中D:多E:少F:微	167と同一個体 C粗大
168	—	X	口縁部	**外:** 横位ナデ→連続刺突 **内:** ナデ	**外:** 淡黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:微C:少D:多E:少	焼成前穿孔あり・煮こぼれ痕付着 C粗大
169	—	X	口縁部	**外:** 工具による連続刺突 **内:** ナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	B:微C:多D:少	煮こぼれ痕付着
170	—	X	口縁部	**外:** 横位条痕→縦位条痕 **内:** 工具ナデ→ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:中C:少D:多E:中F:微	
171	—	X	口縁部	**外:** 貝殻腹縁刺突・巻貝？押圧文→縦位貝殻条痕文 **内:** ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 灰黄褐10YR5/2	A:少C:中D:特多E:多	C粗大
172	—	X	胴部	**外:** 枝回転文 **内:** 粗雑なナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:中D:中E:多F:微G:微	5・178と同一個体 胎土に繊維混入
173	—	X	胴部	**外:** 枝回転文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/2 **内:** にぶい黄橙10YR6/4	C:少D:少E:少G:微	5・177と同一個体 胎土に繊維混入
174	—	X	胴部	**外:** 不定方向の沈線→貝殻腹縁刺突 **内:** ナデ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい赤褐2.5YR5/4	A:微C:特多D:多E:多G:微	170と同一個体 C粗大
175	—	X	胴部	**外:** 綾杉状の沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄褐10YR5/3 **内:** 明赤褐5YR5/6	A:中C:特多D:多E:中	169と同一個体
176	—	X	胴部	**外:** 綾杉状の沈線 **内:** ナデ	**外:** 明赤褐5YR5/6 **内:** 明赤褐5YR5/3	A:少C:多D:中E:少	内面に炭化物付着
177	—	X	口縁部	**外:** 横位圧痕文 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 明黄褐10YR7/6 **内:** 明黄褐10YR7/6	A:中C:少D:中E:少G:中	
178	—	X	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 条痕→ナデ	**外:** 灰褐5YR5/2 **内:** にぶい赤褐5YR5/4	C:中D:少E:多	
179	—	XⅠ	底部	**外:** 斜位貝殻条痕→横位ミガキ **内:** 丁寧なナデ	**外:** 暗黄橙10YR7/4 **内:** 暗黄橙10YR7/4	A:少C:中D:多E:少H:微	底面丁寧なミガキ
180	—	XⅠ	底部	**外:** ミガキ→横位貝殻腹縁刺突 **内:** ナデ	**外:** 暗黄橙10YR7/3 **内:** 暗黄橙10YR7/3	A:中C:多D:少E:少G:微H:微	C粗大
181	—	XⅠ	底部	**外:** 丁寧な縦位ミガキ **内:** 丁寧なナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	D:中A:少C:少H:微	底面丁寧なミガキ
182	—	XⅠ	底部	**外:** 丁寧な縦位ミガキ **内:** 丁寧なナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/3	A:多C:多D:多E:中F:微	底面丁寧なミガキ
183	—	XⅠ	底部	**外:** 縦位ミガキ **内:** ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/3	A:少C:少D少E:少	底面ナデ
184	—	XⅠ	底部	**外:** ミガキ **内:** ナデ	**外:** 黄2.5Y8/6 **内:** 黄2.5Y8/6	A:少C:少D:中E:少H:少	底面丁寧なミガキ
185	—	XⅠ	底部	**外:** 縦位ミガキ **内:** 縦位ミガキ	**外:** 灰白2.5Y7/1 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:少D:中E:少	
186	—	XⅠ	底部	**外:** ナデ **内:** 横位条痕→不定方向の粗雑なナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:中D:中E:中F:微	胎土に繊維混入

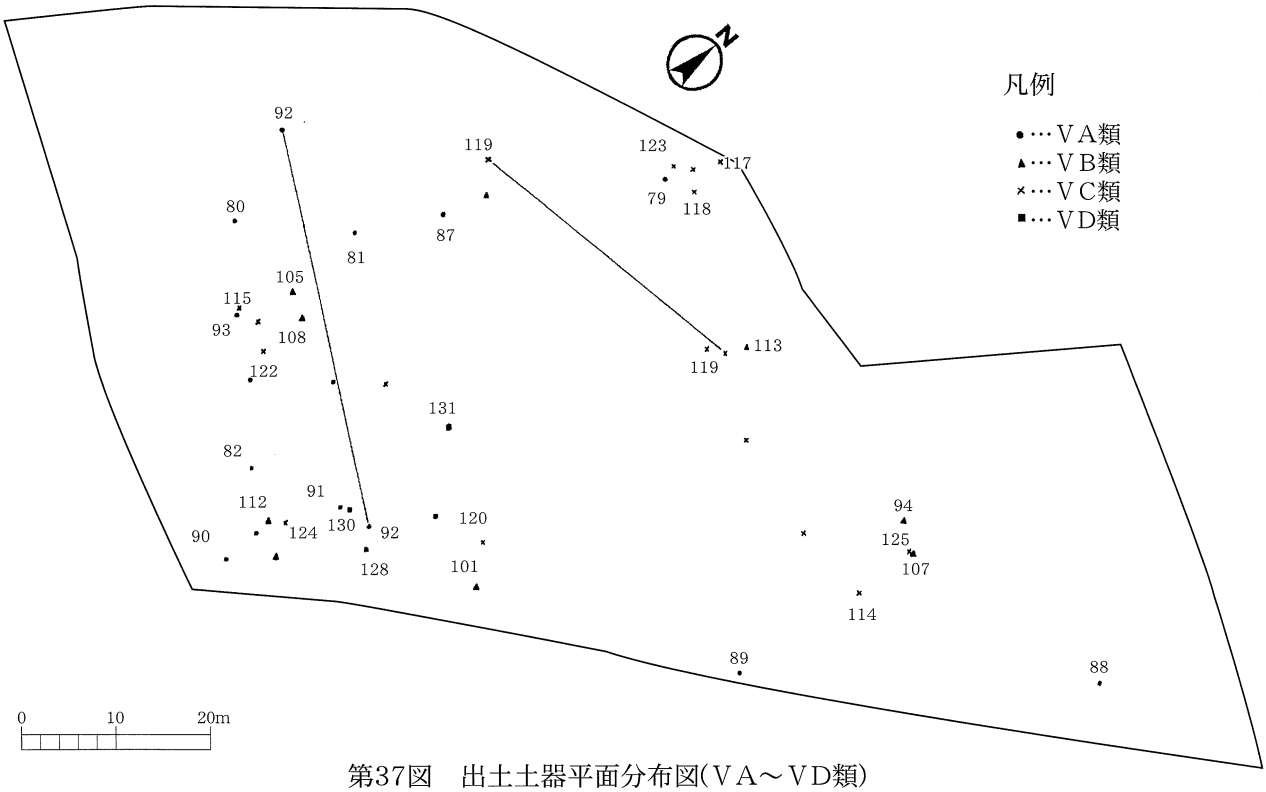
表19　出土土器観察表(7)

第34図　出土土器平面分布図(Ⅰ類)

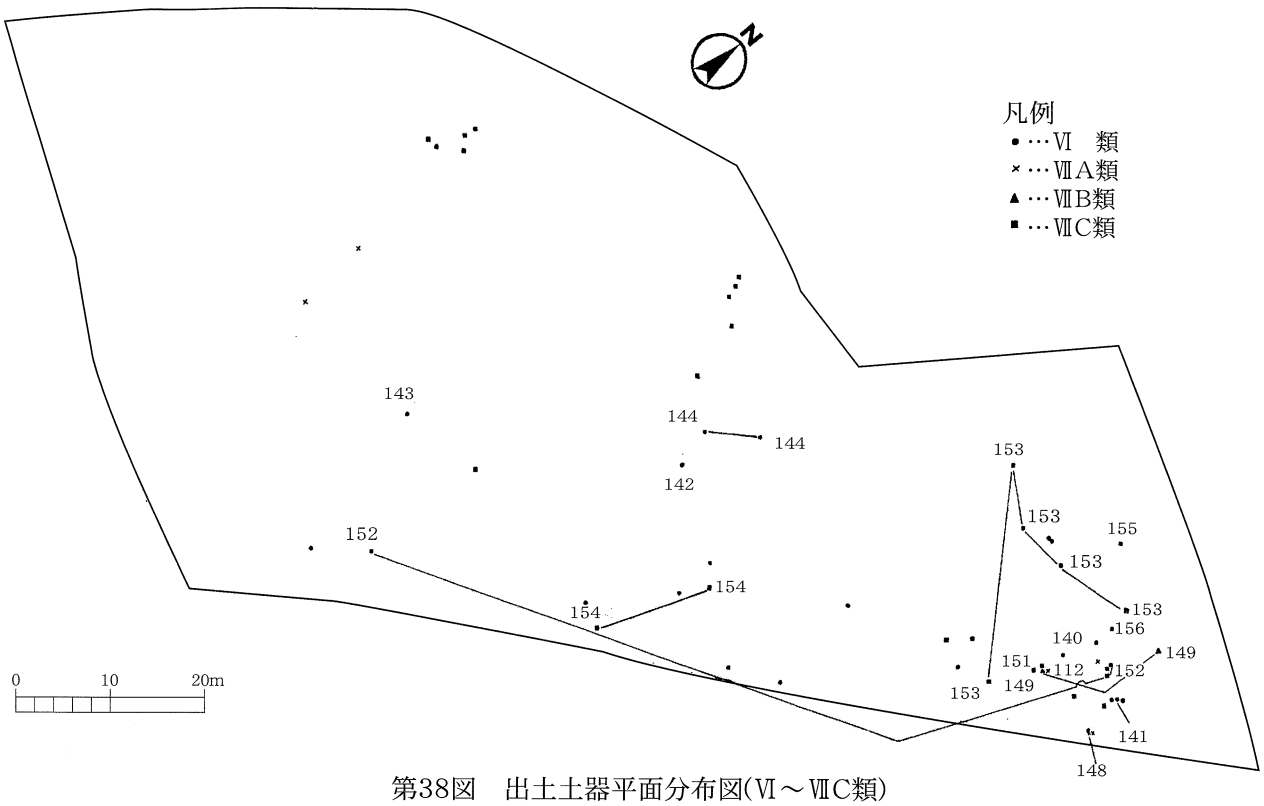


第35図　出土土器平面分布図(Ⅱ～Ⅳ類)

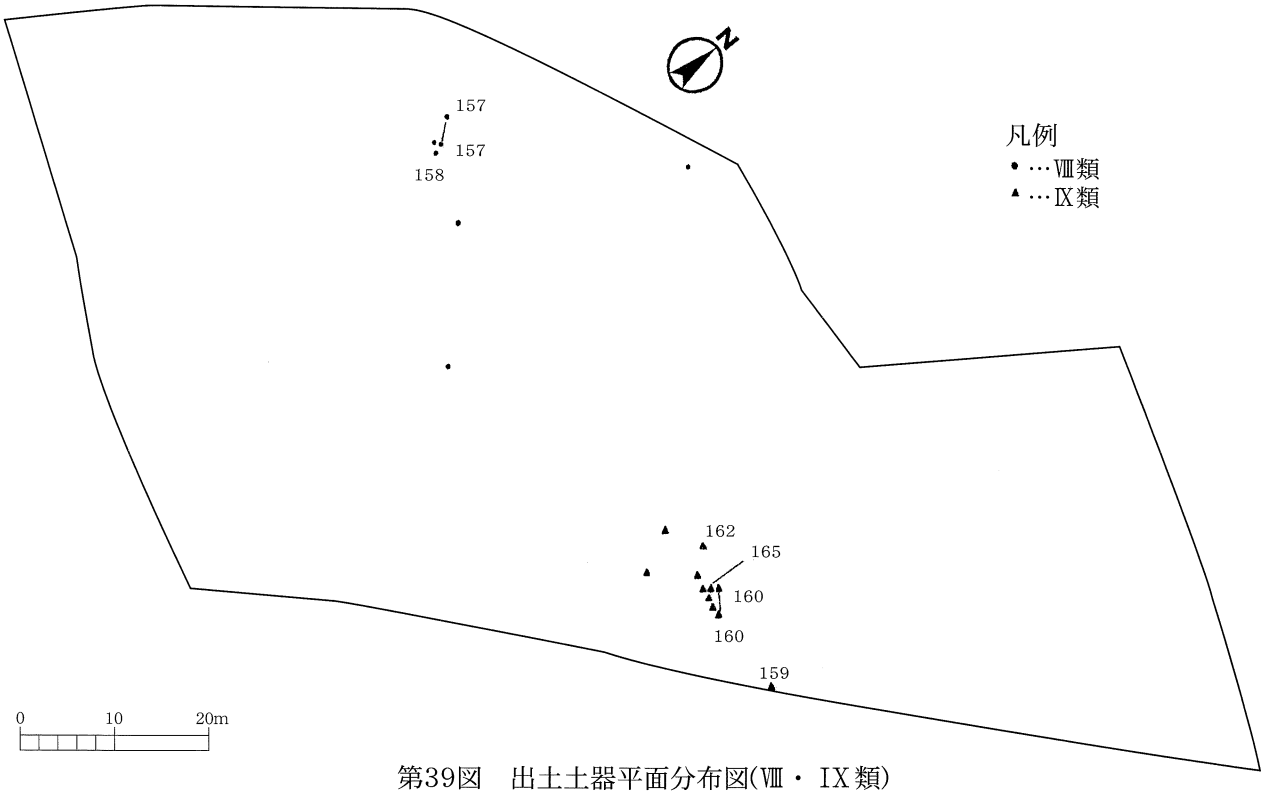
第36図　出土土器平面分布図(VE類)



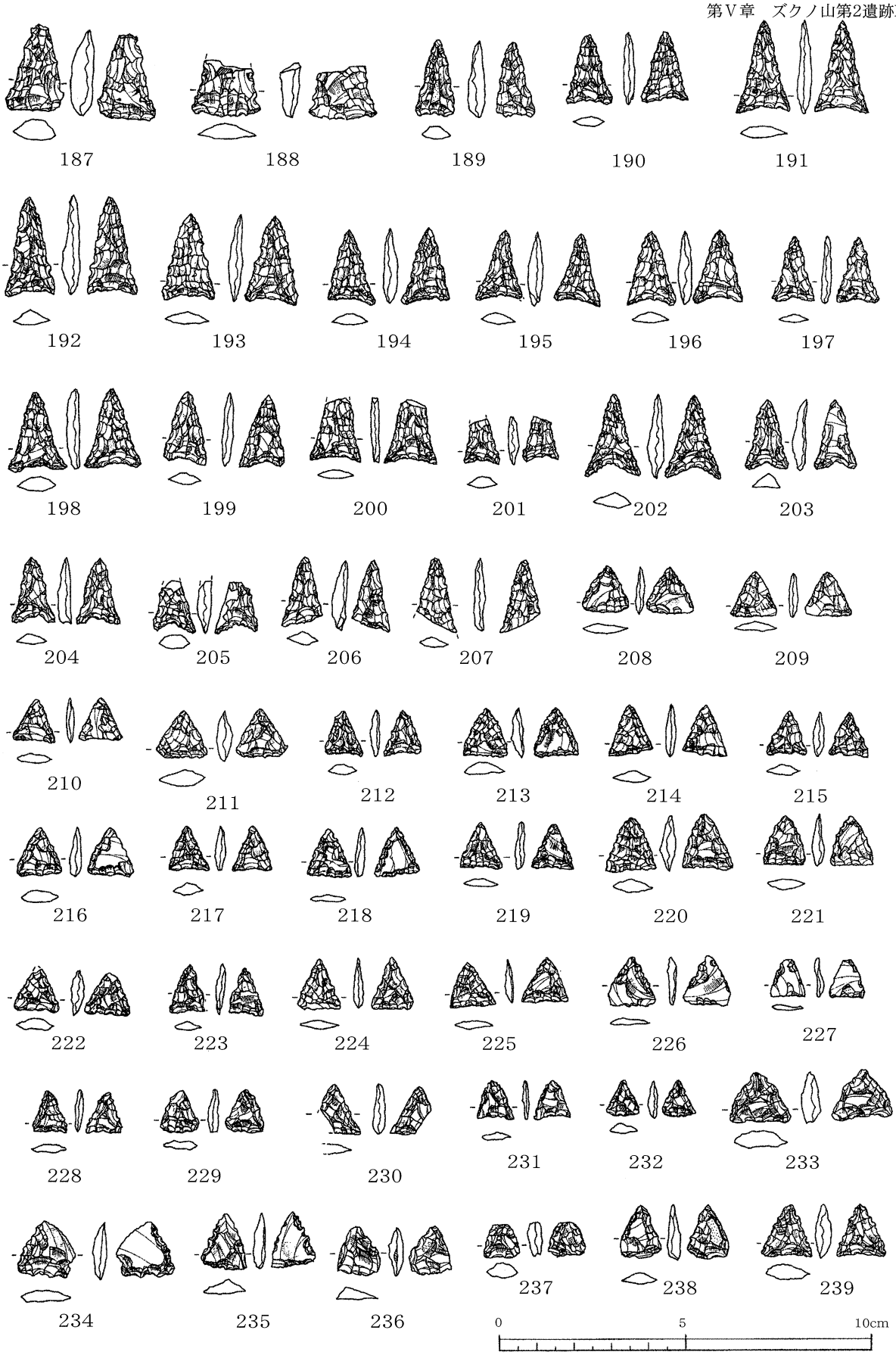
第37図　出土土器平面分布図(VA～VD類)



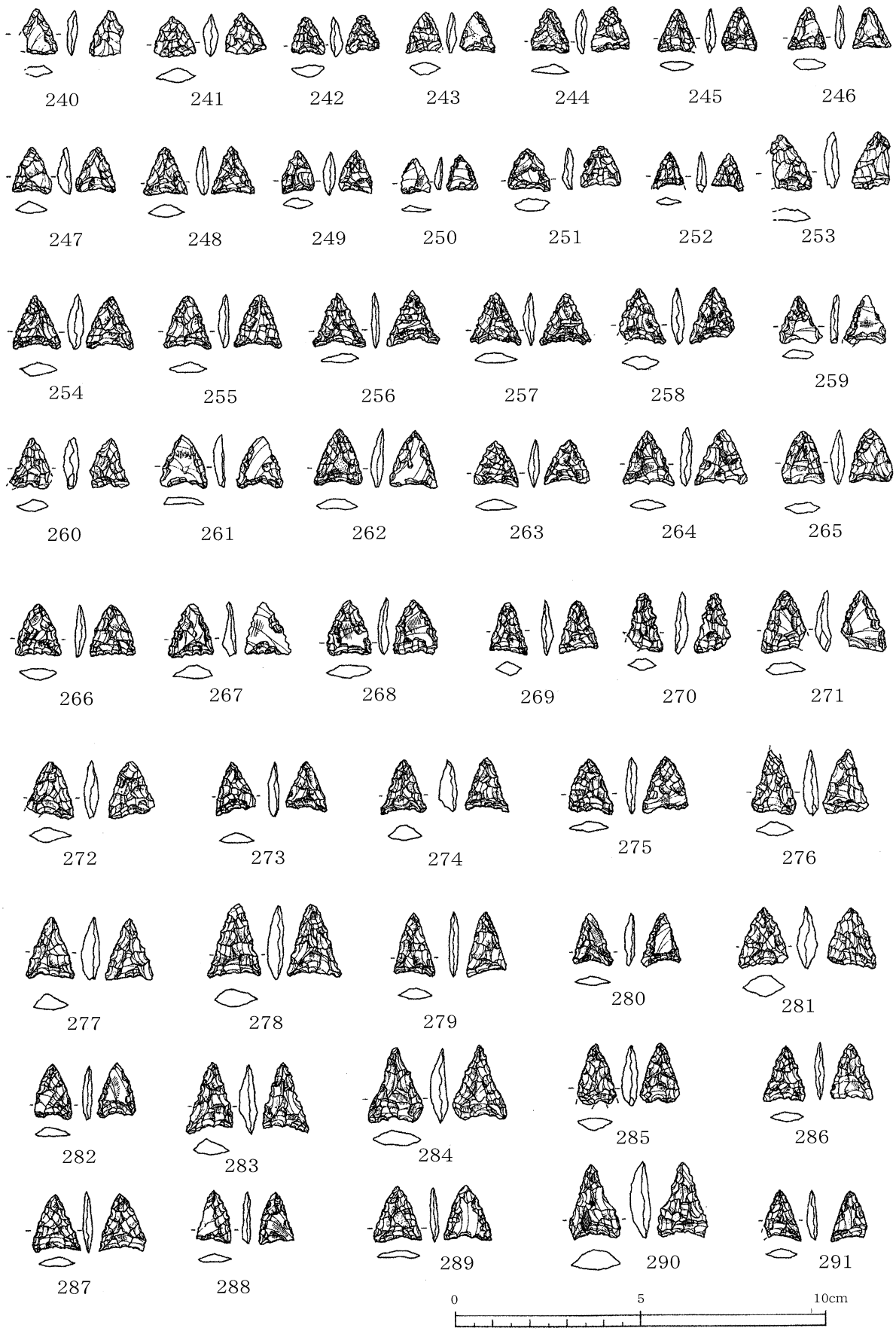
第38図　出土土器平面分布図(Ⅵ～ⅦC類)



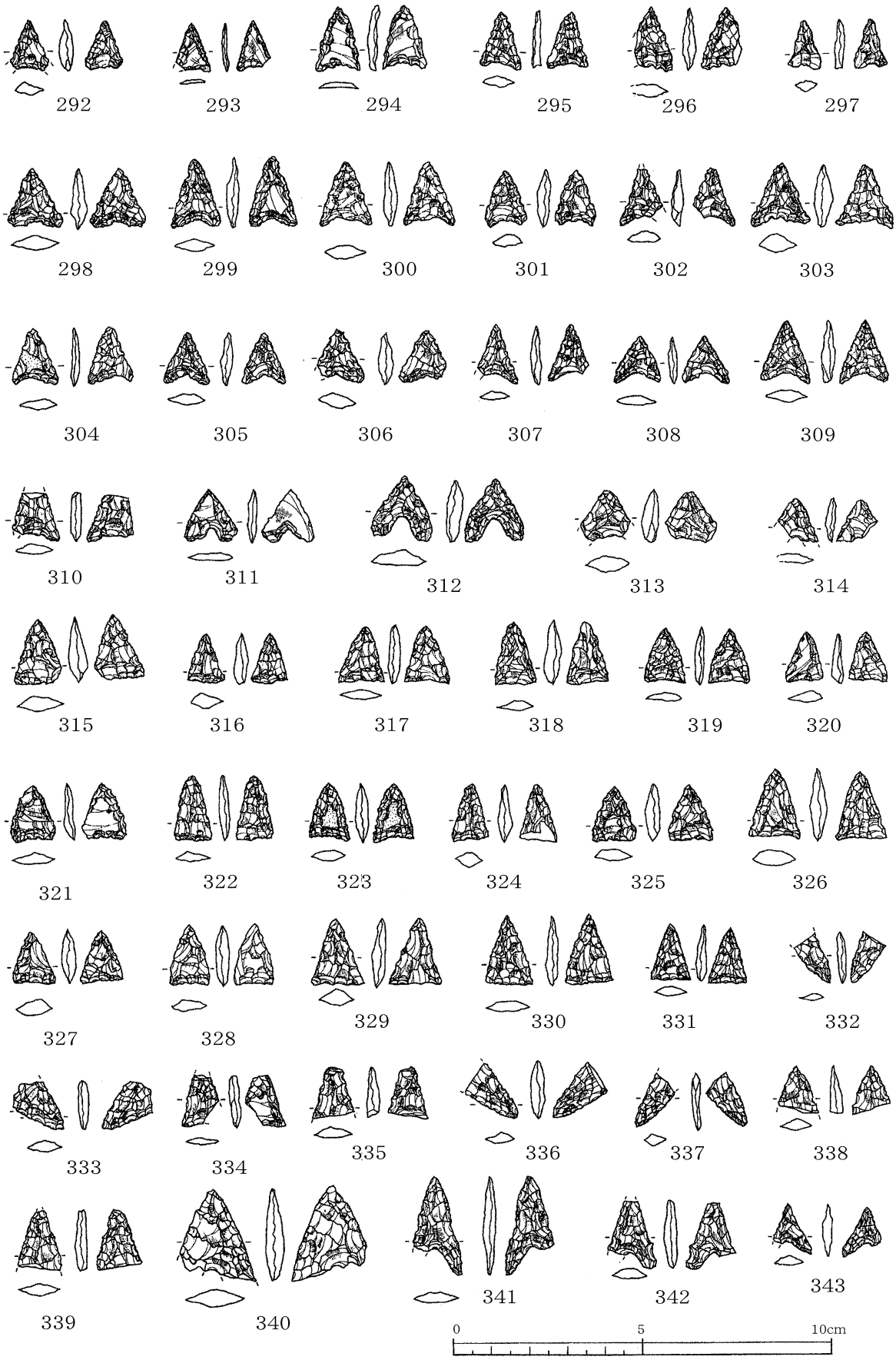
第39図　出土土器平面分布図(Ⅷ・Ⅸ類)



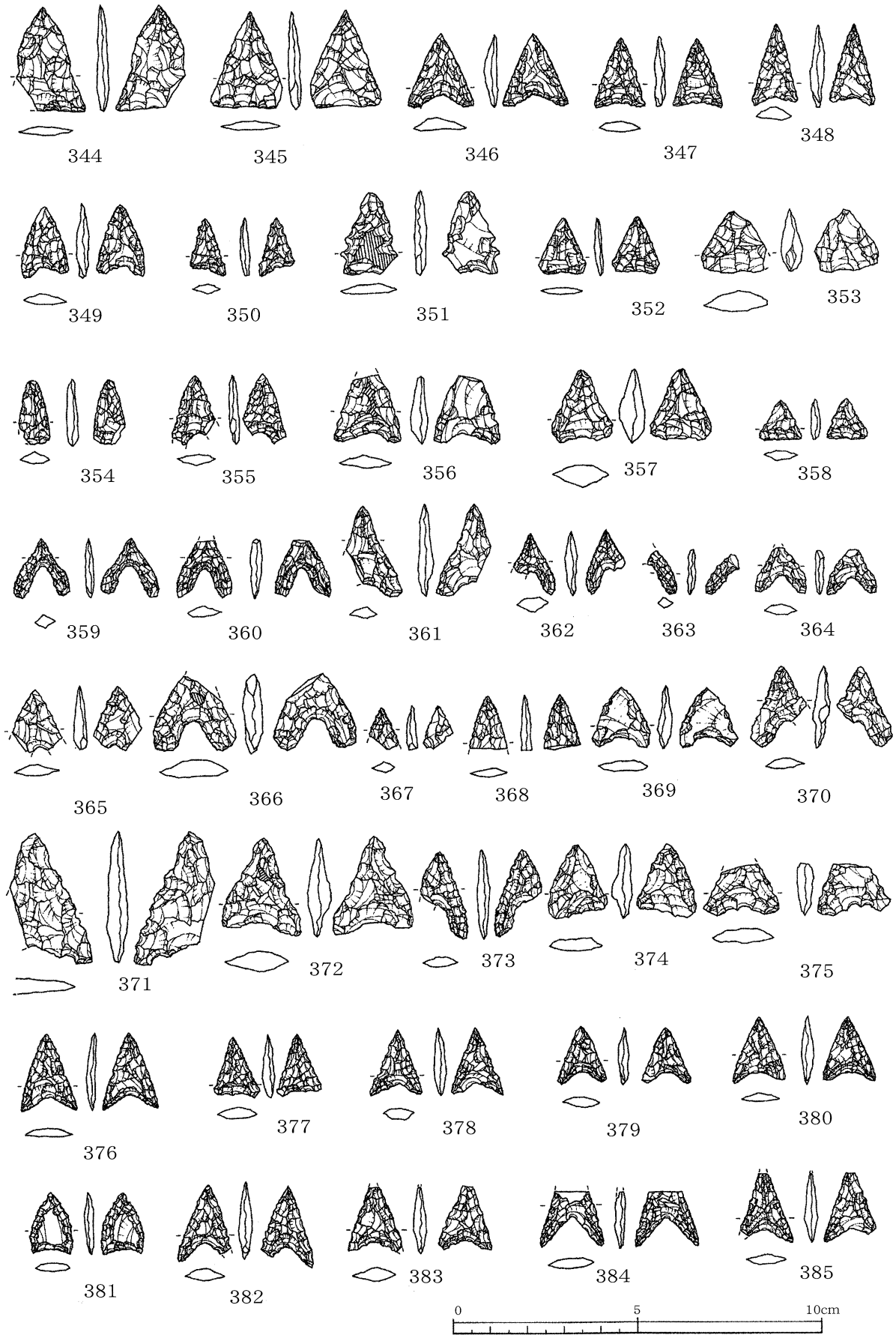
第40図　出土石器実測図(1)



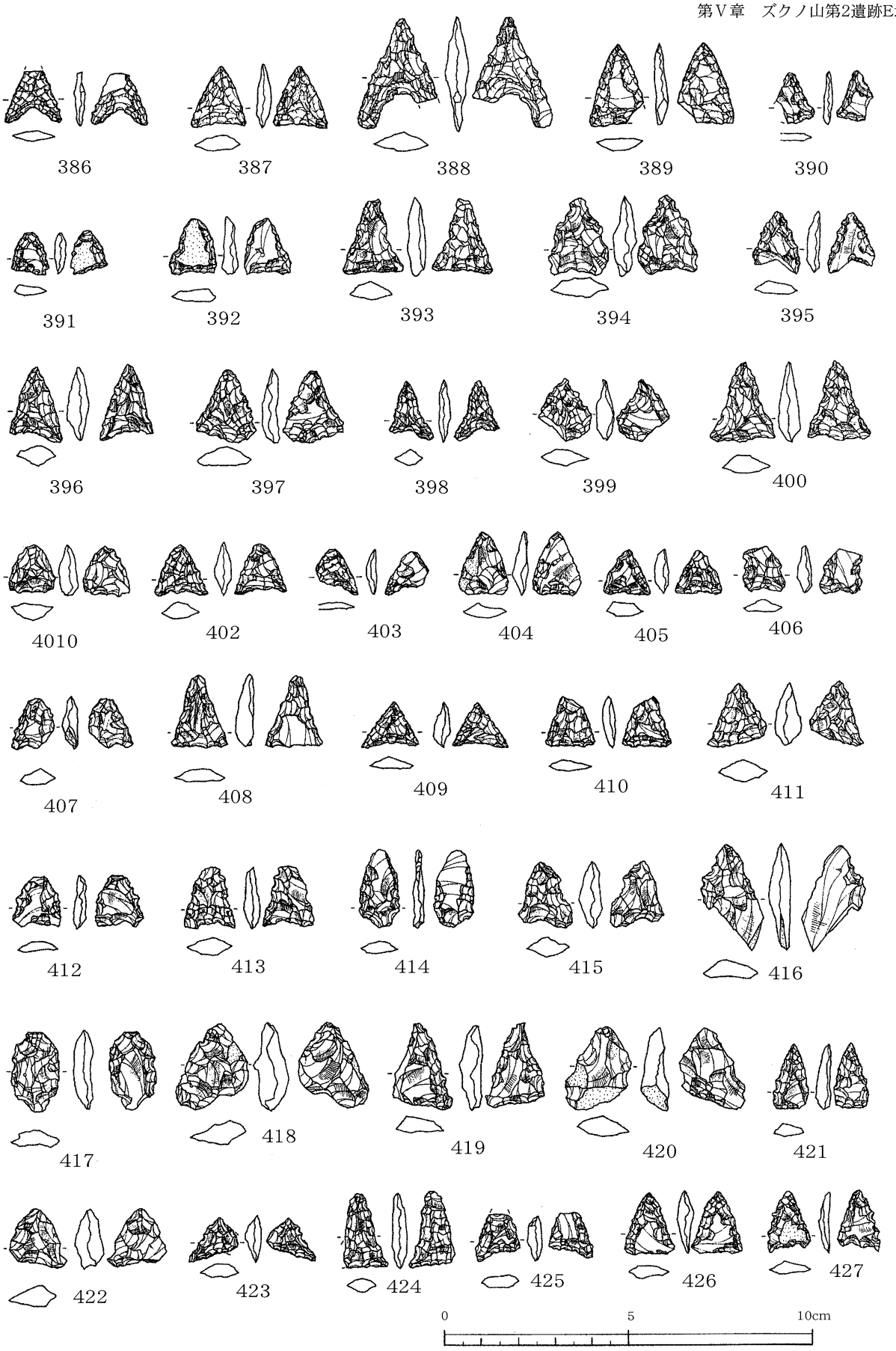
第41図　出土石器実測図(2)



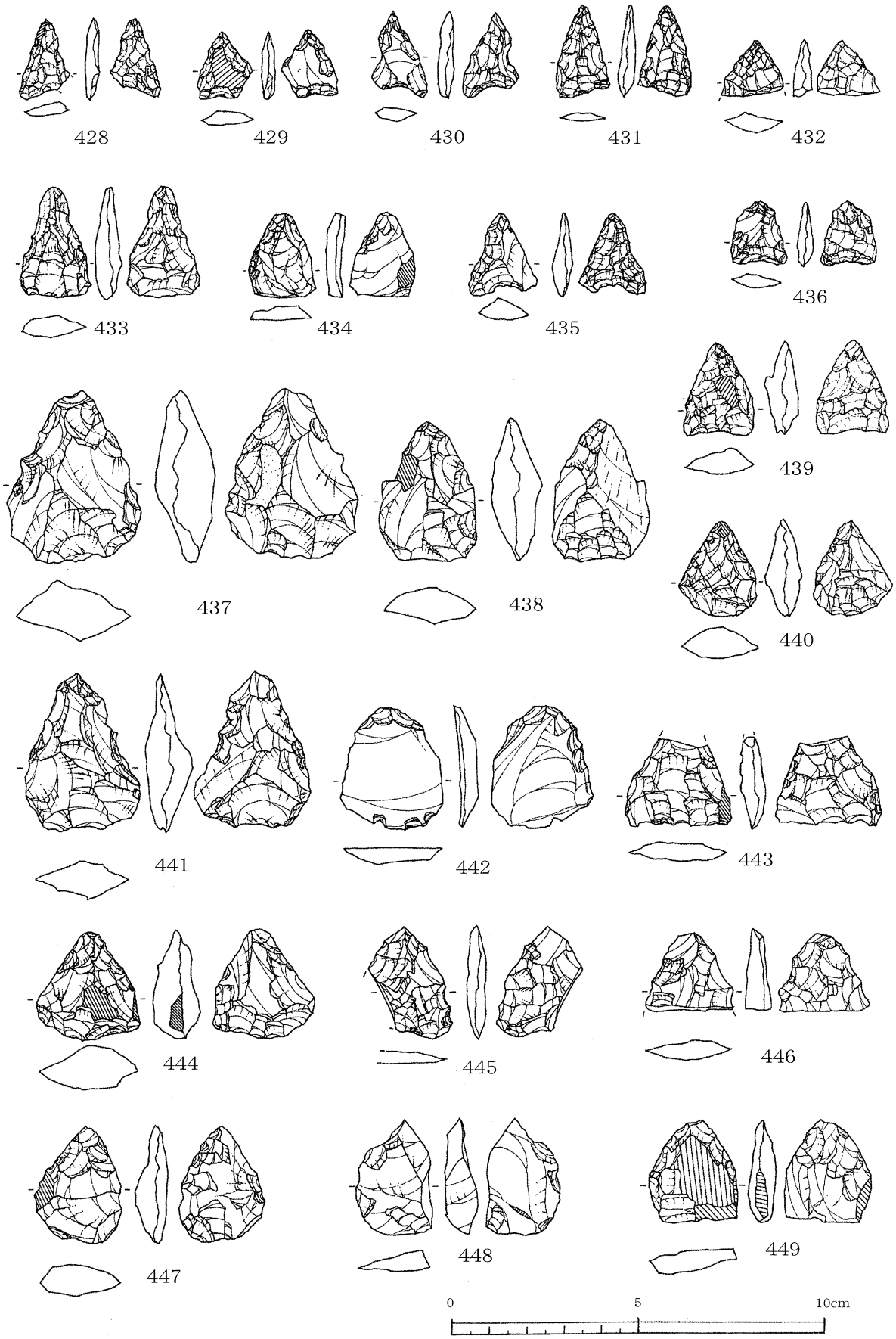
第42図　出土石器実測図(3)



第43図　出土石器実測図(4)



第44図　出土石器実測図(5)



第45図　出土石器実測図(6)

あり、縁辺に簡単な調整を行う以外、目立った加工は行われない。なお、全面に研磨痕が残されるが、これは尖端部にも行われており、石槍としての機能を向上させる目的があるとは考えにくい。(463)は、肉厚の流紋岩を用い、凸レンズ状の断面形を呈するよう、両縁から面的な調整を行ったものである。稜線上など、突出した部分が磨かれている。

大型の石鏃(第47図464)

(464)は、形態的には石鏃と考えられるものの、特に大型であるため、他の石鏃とは区別した。両縁から面的な剥離が行われているだけでなく、基部には浅い抉りも見られるなど、大きさ以外は通常の石鏃と何ら変わらない。

石斧(第47図465～484)

欠損品や再製作中途品も含め、20点が出土した。

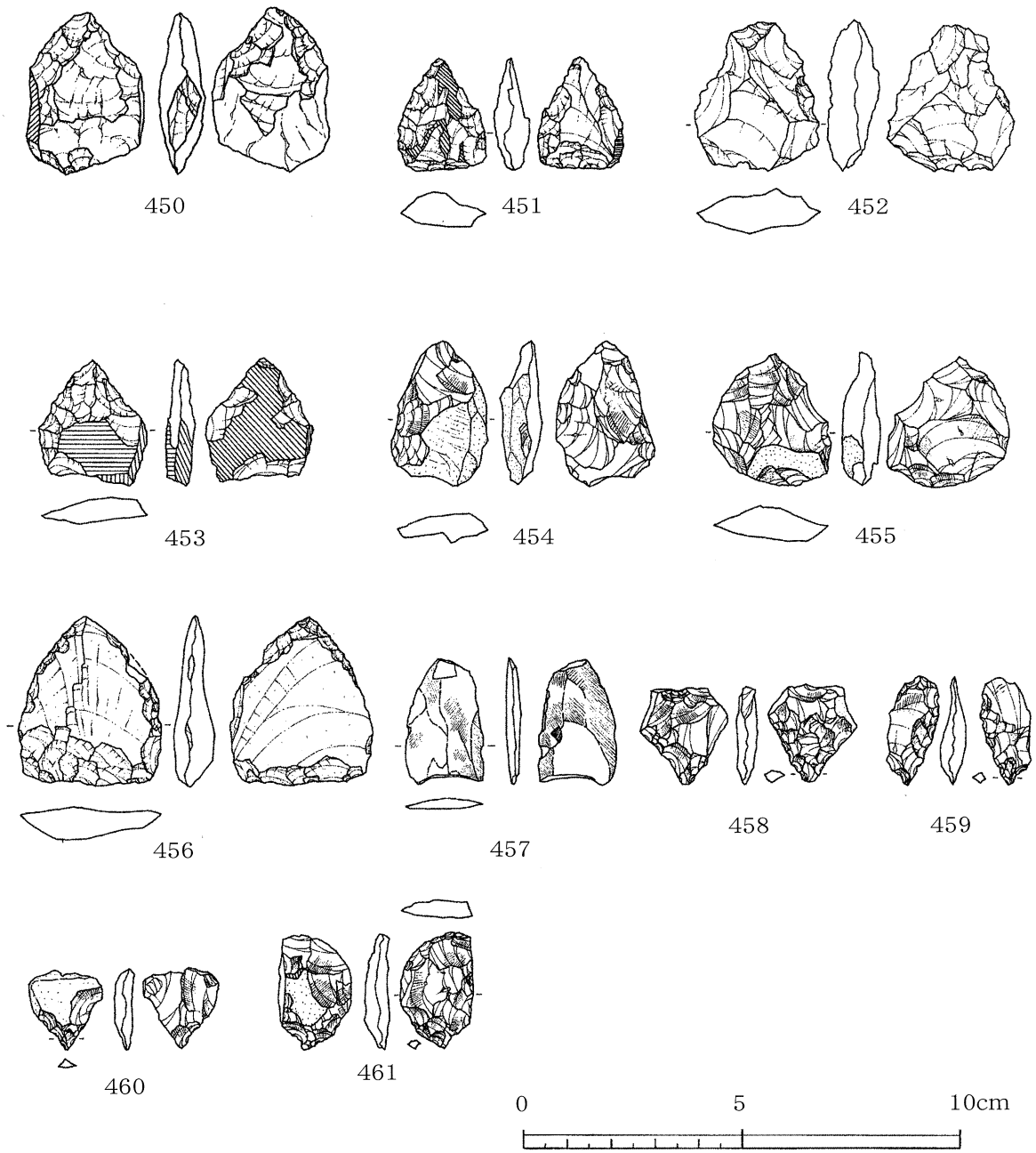
(465)は、薄手かつ棒状の礫の縁辺に成形目的の加工を行った、石斧の柄にあたる。刃部は、使用によるアクシデントにより欠損し、その後、平坦部を使用したため凹部が残されたようである。(466)は、硬質砂岩の扁平礫を刃部を中心に研磨し仕上げたものである。(467)は、肉厚の礫の縁辺に大まかな調整を行った後、研磨によって仕上げたものである。刃部には剥離痕が残されるが、これは使用により欠損した後に、刃部再生を目的として、再加工を行う工程の中途であった可能性が考えられる。(468)は、背部に礫面を持つ剥片を使用し、柄に比べて幅広の刃部を有する。(469)は、欠損した刃部の一部である。縁辺は敲打により成形しており、平坦部は、剥離の後に、研磨を行い仕上げている。(470)は、欠損した刃部である。恐らく短冊状を呈する石斧であったと考えられる。(471～473)は、刃部幅の狭い一群である。(471)は、使用により欠損した刃部の欠片である。(472)は、扁平な礫の縁辺を成形し、尖端部を研磨により仕上げたものである。(473)は、縁辺に剥離による成形を施した後、全面を磨いたものである。(474)は、粗悪なチャートを用い、剥離と研磨により仕上げたものである。刃部と柄部に欠損が見られるが、長軸の方向と刃部は直交しない。(476)は、短冊状を呈する石斧である。(475・477～481)は、石斧が欠損した際に生じた欠片と考えられる。いずれも欠損後に再加工が行われるが、スクレイパーとしての機能を有す(479)以外は、石製品としての製作工程が完了せぬまま放棄されている。(482～484)は、石斧の未製品であるが、どれも製作中に欠損し、放棄されている。(482・483)は、剥離により大まかに成形した後に磨いて仕上げようとした意図を窺い知ることができる。(484)は、研磨の後に剥離を行っているが、これは再製作等の行為の結果であろうと思われる。

礫器(第50図485～488)

５点出土した。全て砂岩製である。(485～487)は、円礫を用い、一辺に刃部調整を行ったものであるが、(487)以外は、片面からの調製しか行われない。(488)は、角礫を分割し棒状になった素材の端部に刃部を設けたものである。使用痕は確認できなかった。

敲石(第51図214)

判別が困難であるためか、明確なものは1点のみであった。尖端部の剥離痕は、使用の際に生じたと考えられる。



第46図　出土石器実測図(7)

石核(残核)(第51・54図490・491・525)

黒曜石の小礫による石核は、数え切れないほどの量が出土したが、あまりに小ぶりで判別が困難であったため、ここでは黒曜石以外の石核を取り上げたい。(490)は、粗悪なチャートを用いたもので、両面に周縁からの求心状の剥離が行われた痕跡が認められ、薄手になった時点で工程を終了している。(491)は、ｂ面を打面として、周縁に剥片剥離を行った後、今度はａ面を打面、ｂ面を作業面として剥片剥離を行ったものである。更に、ｃ面を作業面として剥離を行

表20　出土石鏃観察表（1）

No.	分類	器種	長さ（cm）	幅（cm）	抉り（cm）	石　材	欠損部位
187	Ⅱa	石鏃	—	1.50	0.00	黒曜石A	尖・片脚部
188	Ⅱa	石鏃	—	1.85	0.00	黒曜石A	尖端部
189	Ⅱa	石鏃	2.10	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
190	Ⅱa	石鏃	1.85	1.30	0.10	黒曜石A	
191	Ⅱa	石鏃	2.50	1.45	0.20	黒曜石A	
192	Ⅱa	石鏃	2.65	1.30	0.10	黒曜石A	片脚部
193	Ⅱa	石鏃	2.35	1.40	0.20	黒曜石A	
194	Ⅱa	石鏃	2.05	1.30	0.15	黒曜石A	
195	Ⅱa	石鏃	1.90	1.35	0.20	黒曜石A	
196	Ⅱa	石鏃	1.95	1.35	0.15	黒曜石A	
197	Ⅱa	石鏃	1.70	1.10	0.10	黒曜石A	
198	Ⅱa	石鏃	2.10	1.60	0.20	黒曜石A	片脚部
199	Ⅱa	石鏃	1.95	1.20	0.20	黒曜石A	片脚部
200	Ⅱa	石鏃	—	1.40	0.15	黒曜石A	尖端部
201	Ⅱa	石鏃	—	0.95	0.10	黒曜石A	尖端部
202	Ⅱa	石鏃	2.15	1.50	0.40	黒曜石A	
203	Ⅱa	石鏃	1.85	1.15	0.20	黒曜石A	
204	Ⅱa	石鏃	—	1.20	0.15	黒曜石A	
205	Ⅱa	石鏃	—	1.20	0.25	黒曜石A	尖端部
206	Ⅱa	石鏃	1.90	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
207	Ⅱa	石鏃	1.95	1.40	0.25	黒曜石A	片脚部
208	Ⅰa	石鏃	1.20	1.30	0.00	黒曜石A	
209	Ⅰa	石鏃	1.20	1.20	0.00	黒曜石A	
210	Ⅰa	石鏃	1.15	1.20	0.05	黒曜石A	
211	Ⅰa	石鏃	1.30	1.40	0.00	黒曜石A	片脚部
212	Ⅰa	石鏃	1.20	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
213	Ⅰa	石鏃	1.30	1.15	0.05	黒曜石A	
214	Ⅰa	石鏃	1.35	1.30	0.05	黒曜石A	片脚部
215	Ⅰa	石鏃	1.20	1.05	0.00	黒曜石A	
216	Ⅰa	石鏃	1.30	1.20	0.00	黒曜石A	
217	Ⅰa	石鏃	1.20	1.10	0.10	黒曜石A	
218	Ⅰa	石鏃	1.30	1.20	0.00	黒曜石F	
219	Ⅰa	石鏃	1.20	1.10	0.00	黒曜石A	
220	Ⅰa	石鏃	1.45	1.35	0.05	黒曜石A	
221	Ⅰa	石鏃	1.30	1.10	0.00	黒曜石A	
222	Ⅰa	石鏃	—	1.20	0.00	黒曜石A	尖端部
223	Ⅰa	石鏃	1.25	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
224	Ⅰa	石鏃	1.40	1.20	0.00	黒曜石A	片脚部
225	Ⅰa	石鏃	1.20	1.20	0.05	黒曜石A	
226	Ⅰa	石鏃	1.30	1.30	0.00	黒曜石A	片脚部
227	Ⅰa	石鏃	—	1.00	0.00	黒曜石A	尖端部
228	Ⅰa	石鏃	1.10	1.00	0.05	黒曜石A	
229	Ⅰa	石鏃	1.10	1.05	0.00	黒曜石A	
230	Ⅰa	石鏃	1.40	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
231	Ⅰa	石鏃	1.00	0.95	0.10	黒曜石A	
232	Ⅰa	石鏃	1.00	0.85	0.00	黒曜石A	
233	Ⅰa	石鏃	1.35	1.60	0.05	黒曜石A	
234	Ⅰa	石鏃	1.50	1.55	0.00	黒曜石A	片脚部
235	Ⅰa	石鏃	1.45	1.20	0.00	黒曜石A	片脚部
236	Ⅰa	石鏃	1.30	—	0.00	黒曜石A	両脚部
237	Ⅰa	石鏃	—	1.00	0.00	黒曜石A	尖・片脚部
238	Ⅰa	石鏃	1.40	1.10	0.00	黒曜石A	
239	Ⅰa	石鏃	1.40	1.35	0.10	黒曜石A	
240	Ⅰa	石鏃	1.20	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
241	Ⅰa	石鏃	1.20	1.30	0.05	黒曜石A	片脚部
242	Ⅰa	石鏃	1.00	0.90	0.10	黒曜石A	片脚部
243	Ⅰa	石鏃	1.10	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
244	Ⅰa	石鏃	1.20	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
245	Ⅰa	石鏃	1.15	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
246	Ⅰa	石鏃	1.15	1.00	0.05	黒曜石A	
247	Ⅰa	石鏃	1.20	1.00	0.10	黒曜石A	
248	Ⅰa	石鏃	1.30	1.15	0.10	黒曜石A	
249	Ⅰa	石鏃	1.15	1.00	0.10	黒曜石A	片脚部
250	Ⅰa	石鏃	0.95	0.85	0.00	黒曜石A	
251	Ⅰa	石鏃	1.15	1.20	0.15	黒曜石A	片脚部
252	Ⅰa	石鏃	1.00	0.90	—	黒曜石A	片脚部
253	Ⅰa	石鏃	—	—	0.20	黒曜石A	尖・片脚部
254	Ⅰa	石鏃	1.45	1.20	0.20	黒曜石A	
255	Ⅰa	石鏃	1.45	1.30	0.20	黒曜石A	
256	Ⅰa	石鏃	1.45	1.50	0.20	黒曜石A	
257	Ⅰa	石鏃	1.40	1.50	0.15	黒曜石A	
258	Ⅰa	石鏃	1.55	1.20	0.20	黒曜石A	片脚部
259	Ⅰa	石鏃	1.30	—	0.10	黒曜石A	両脚部

表21　出土石鏃観察表（2）

No.	分類	器種	長さ（cm）	幅（cm）	抉り（cm）	石　材	欠損部位
260	Ⅰa	石鏃	1.35	—	0.15	黒曜石A	両脚部
261	Ⅰa	石鏃	1.40	1.30	0.20	黒曜石A	
262	Ⅰa	石鏃	1.50	1.40	0.10	黒曜石A	
263	Ⅰa	石鏃	1.25	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
264	Ⅰa	石鏃	1.45	1.50	0.00	黒曜石A	
265	Ⅰa	石鏃	1.40	1.20	0.10	黒曜石A	
266	Ⅰa	石鏃	1.50	1.15	0.10	黒曜石A	
267	Ⅰa	石鏃	1.35	1.20	0.10	黒曜石A	
268	Ⅰa	石鏃	1.45	1.15	0.10	黒曜石A	
269	Ⅰa	石鏃	1.45	1.05	0.15	黒曜石A	
270	Ⅰb	石鏃	1.60	0.90	0.20	黒曜石A	片脚部
271	Ⅰb	石鏃	1.65	1.40	0.10	黒曜石A	片脚部
272	Ⅰa	石鏃	1.55	1.30	0.20	黒曜石A	片脚部
273	Ⅰa	石鏃	1.35	1.10	0.15	黒曜石F	
274	Ⅰa	石鏃	1.45	1.15	0.20	黒曜石A	
275	Ⅰa	石鏃	1.95	1.20	0.10	黒曜石A	
276	Ⅰb	石鏃	—	1.20	0.10	黒曜石A	尖・片脚部
277	Ⅰb	石鏃	1.65	1.30	0.15	黒曜石A	
278	Ⅰb	石鏃	—	1.45	0.10	黒曜石A	尖端部
279	Ⅰb	石鏃	1.70	1.30	0.15	黒曜石A	
280	Ⅰa	石鏃	1.40	1.05	0.15	黒曜石A	
281	Ⅰa	石鏃	1.60	1.30	0.10	黒曜石A	片脚部
282	Ⅰb	石鏃	1.50	1.00	0.15	黒曜石A	
283	Ⅰb	石鏃	1.95	1.30	0.25	黒曜石A	
284	Ⅰb	石鏃	2.00	1.95	0.15	黒曜石A	片脚部
285	Ⅰb	石鏃	1.65	—	0.10	黒曜石A	両脚部
286	Ⅰb	石鏃	1.50	1.10	0.10	黒曜石A	片脚部
287	Ⅰb	石鏃	1.55	1.30	0.15	黒曜石A	片脚部
288	Ⅰb	石鏃	1.35	0.90	0.10	黒曜石A	
289	Ⅰa	石鏃	1.45	1.30	0.15	黒曜石A	
290	Ⅰb	石鏃	2.05	1.40	0.15	黒曜石A	片脚部
291	Ⅰb	石鏃	1.35	1.00	0.15	黒曜石A	片脚部
292	Ⅰb	石鏃	1.30	—	0.10	黒曜石A	両脚部
293	Ⅰb	石鏃	1.30	0.90	0.10	黒曜石A	片脚部
294	Ⅰb	石鏃	1.65	1.15	0.20	黒曜石A	
295	Ⅰb	石鏃	1.50	1.15	0.15	黒曜石A	
296	Ⅰb	石鏃	1.65	1.10	0.20	黒曜石A	片脚部
297	Ⅰb	石鏃	1.25	0.95	0.10	黒曜石A	
298	Ⅰa	石鏃	1.55	1.50	0.20	黒曜石A	片脚部
299	Ⅰb	石鏃	1.85	1.30	0.20	黒曜石A	
300	Ⅰb	石鏃	1.65	1.40	0.15	黒曜石A	
301	Ⅰb	石鏃	1.45	—	0.15	黒曜石A	両脚部
302	Ⅰb	石鏃	1.55	1.20	0.30	黒曜石A	片脚部
303	Ⅰa	石鏃	1.70	1.50	0.25	黒曜石A	片脚部
304	Ⅰa	石鏃	1.40	1.20	0.20	黒曜石A	
305	Ⅰa	石鏃	1.35	1.20	0.30	黒曜石A	
306	Ⅰa	石鏃	1.35	1.40	0.20	黒曜石A	片脚部
307	Ⅰb	石鏃	1.50	1.40	0.25	黒曜石A	片脚部
308	Ⅰa	石鏃	1.25	1.25	0.25	黒曜石A	
309	Ⅰb	石鏃	1.65	1.30	0.30	黒曜石A	
310	Ⅰb	石鏃	—	1.40	0.20	黒曜石A	尖・片脚部
311	Ⅲ	石鏃	1.35	1.40	0.35	黒曜石A	
312	Ⅲ	石鏃	1.65	1.50	0.60	黒曜石A	
313	Ⅲ	石鏃	1.30	—	0.15	黒曜石A	両脚部
314	Ⅲ	石鏃	1.10	1.10	0.15	黒曜石A	片脚部
315	Ⅰb	石鏃	1.70	1.30	0.10	黒曜石A	片脚部
316	Ⅰb	石鏃	1.30	0.95	0.00	黒曜石A	
317	Ⅰb	石鏃	1.50	1.20	0.05	黒曜石A	
318	Ⅰb	石鏃	1.65	1.10	0.00	黒曜石A	
319	Ⅰb	石鏃	1.40	1.10	0.10	黒曜石A	
320	Ⅰb	石鏃	1.30	1.00	0.00	黒曜石A	
321	Ⅰa	石鏃	1.45	1.25	0.10	黒曜石A	
322	Ⅰb	石鏃	1.70	0.95	0.05	黒曜石A	
323	Ⅰb	石鏃	1.50	1.15	0.10	黒曜石A	
324	Ⅰb	石鏃	1.45	0.95	0.10	黒曜石A	片脚部
325	Ⅰa	石鏃	1.45	1.20	0.10	黒曜石A	片脚部
326	Ⅰb	石鏃	1.80	1.30	0.10	黒曜石A	
327	Ⅰa	石鏃	1.35	1.15	0.00	黒曜石A	
328	Ⅰb	石鏃	1.60	1.05	0.10	黒曜石A	
329	Ⅰb	石鏃	1.70	1.35	0.00	黒曜石A	
330	Ⅰb	石鏃	1.80	1.25	0.00	黒曜石A	
331	Ⅰb	石鏃	1.45	1.00	0.00	黒曜石A	
332	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ

表22　出土石鏃観察表（3）

No.	分類	器種	長さ（cm）	幅（cm）	抉り（cm）	石　材	欠損部位
333	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
334	Ⅰb	石鏃	—	—	0.10	黒曜石A	尖・片脚部
335	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
336	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
337	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	片脚部のみ
338	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
339	—	石鏃	—	—	—	黒曜石A	尖端部のみ
340	Ⅲ	石鏃	2.45	2.40	—	黒曜石B	片脚部
341	Ⅲ	石鏃	2.55	1.40	0.75	黒曜石B	片脚部
342	Ⅲ	石鏃	—	—	0.45	黒曜石B	尖・片脚部
343	Ⅲ	石鏃	1.40	1.20	0.45	黒曜石B	片脚部
344	Ⅳ	石鏃	2.90	2.10	0.10	良質チャート	片脚部
345	Ⅳ	石鏃	2.60	1.90	0.10	良質チャート	片脚部
346	Ⅲ	石鏃	2.00	1.80	0.30	良質チャート	
347	Ⅱb	石鏃	1.85	1.30	0.15	良質チャート	
348	Ⅱa	石鏃	2.20	1.20	0.20	良質チャート	
349	Ⅱb	石鏃	1.90	1.30	0.25	良質チャート	
350	Ⅱb	石鏃	1.60	1.00	0.30	良質チャート	片脚部
351	Ⅳ	石鏃	2.25	—	0.10	良質チャート	片脚部
352	Ⅰa	石鏃	1.50	—	0.10	良質チャート	両脚部
353	Ⅳ	石鏃	1.70	1.60	0.00	良質チャート	片脚部
354	Ⅱb	石鏃	1.75	0.80	0.00	良質チャート	片脚部
355	Ⅲ	石鏃	—	—	—	良質チャート	両脚部
356	Ⅳ	石鏃	—	1.90	0.30	良質チャート	尖端部
357	Ⅳ	石鏃	2.00	1.60	0.10	良質チャート	
358	Ⅰa	石鏃	1.05	1.15	0.00	良質チャート	
359	Ⅲ	石鏃	1.15	1.60	0.85	良質チャート	
360	Ⅲ	石鏃	—	1.40	0.80	良質チャート	尖・片脚部
361	Ⅲ	石鏃	2.50	2.00	0.45	良質チャート	片脚部
362	Ⅲ	石鏃	1.65	1.30	0.65	良質チャート	片脚部
363	Ⅲ	石鏃	—	—	—	良質チャート	片脚部のみ
364	Ⅲ	石鏃	1.20	1.40	0.50	良質チャート	
365	Ⅲ	石鏃	—	—	—	良質チャート	両脚部
366	Ⅲ	石鏃	—	2.20	0.85	良質チャート	尖端部
367	—	石鏃	—	—	—	良質チャート	尖端部
368	—	石鏃	—	—	—	良質チャート	尖端部
369	Ⅲ	石鏃	1.65	1.60	0.30	悪質チャート	
370	Ⅲ	石鏃	2.15	1.60	0.70	悪質チャート	片脚部
371	Ⅳ	石鏃	3.70	—	0.50	悪質チャート	片脚部
372	Ⅳ	石鏃	2.55	2.15	0.30	悪質チャート	
373	Ⅲ	石鏃	2.40	1.40	1.05	悪質チャート	片脚部
374	Ⅳ	石鏃	2.00	1.55	0.15	悪質チャート	
375	Ⅳ	石鏃	—	2.05	0.30	悪質チャート	尖端部
376	Ⅲ	石鏃	2.05	1.50	0.45	赤色チャート	
377	Ⅰb	石鏃	1.60	1.40	0.10	赤色チャート	片脚部
378	Ⅰb	石鏃	1.80	1.45	0.30	赤色チャート	
379	Ⅰb	石鏃	1.50	1.30	0.30	赤色チャート	
380	Ⅰb	石鏃	1.70	1.40	0.25	赤色チャート	
381	Ⅰb	石鏃	1.65	1.15	0.10	赤色チャート	
382	Ⅲ	石鏃	2.10	1.40	0.50	赤色チャート	片脚部
383	Ⅰb	石鏃	—	1.50	0.30	赤色チャート	尖・片脚部
384	Ⅲ	石鏃	—	1.70	0.80	赤色チャート	尖端部
385	Ⅰb	石鏃	—	1.40	0.40	赤色チャート	尖・片脚部
386	Ⅲ	石鏃	—	1.00	0.45	流紋岩	尖端部
387	Ⅰa	石鏃	1.65	1.50	0.10	ホルンフェルス	
388	Ⅲ	石鏃	3.10	2.40	0.90	ホルンフェルス	片脚部
389	Ⅳ	石鏃	2.20	1.60	0.00	ホルンフェルス	
390		未製品	1.40	1.00	—	黒曜石A	片脚部
391		未製品	1.10	1.10	—	黒曜石A	片脚部
392		未製品	1.50	1.30	—	黒曜石A	
393		未製品	2.00	1.60	—	黒曜石A	尖端部
394		未製品	2.10	1.60	—	黒曜石A	片脚部
395		未製品	1.60	1.40	—	黒曜石A	片脚部
396		未製品	2.00	1.60	—	黒曜石A	片脚部
397		未製品	2.00	1.70	—	黒曜石A	
398		未製品	1.60	1.40	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
399		未製品	1.65	1.40	—	黒曜石A	
400		未製品	2.10	1.60	—	黒曜石A	
401		未製品	1.35	1.30	—	黒曜石A	
402		未製品	1.35	1.40	—	黒曜石A	
403		未製品	1.25	1.20	—	黒曜石F	
404		未製品	1.65	1.30	—	黒曜石A	
405		未製品	1.20	1.30	—	黒曜石A	

表23　出土石鏃観察表（4）

No.	分類	器種	長さ（cm）	幅(cm)	抉り(cm)	石　材	欠損部位
406		未製品	1.20	1.10	—	黒曜石A	
407		未製品	1.35	1.40	—	黒曜石E	片脚部
408		未製品	2.00	1.50	—	黒曜石A	
409		未製品	1.20	1.50	—	黒曜石A	
410		未製品	1.40	1.30	—	黒曜石A	尖端部
411		未製品	1.70	1.70	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
412		未製品	1.40	1.25	—	黒曜石A	
413		未製品	1.65	1.35	—	黒曜石A	尖端部
414		未製品	2.10	1.10	—	黒曜石A	
415		未製品	1.80	1.50	—	黒曜石A	片脚部
416		未製品	2.90	2.20	—	黒曜石A	片脚部
417		未製品	2.20	1.25	—	黒曜石A	
418		未製品	2.35	2.30	—	黒曜石A	
419		未製品	2.35	1.80	—	黒曜石A	片脚部
420		未製品	2.30	—	—	黒曜石A	
421		未製品	1.75	0.90	—	黒曜石A	欠損再製作中途
422		未製品	1.60	1.60	—	黒曜石A	片脚部
423		未製品	1.15	1.60	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
424		未製品	2.00	1.40	—	黒曜石A	片脚部・欠損再製作中途
425		未製品	1.25	1.30	—	黒曜石A	尖・片脚部・欠損再製作中途
426		未製品	1.65	1.30	—	黒曜石A	欠損再製作中途
427		未製品	1.65	1.30	—	黒曜石A	欠損再製作中途
428		未製品	2.15	1.40	—	悪質チャート	片脚部
429		未製品	1.80	—	—	悪質チャート	片脚部
430		未製品	2.30	1.60	—	良質チャート	片脚部
431		未製品	2.45	1.50	—	良質チャート	
432		未製品	1.50	1.60	—	良質チャート	
433		未製品	3.00	1.80	—	悪質チャート	
434		未製品	2.25	1.80	—	悪質チャート	
435		未製品	2.10	1.80	—	赤色チャート	
436		未製品	1.70	1.45	—	赤色チャート	
457		石鏃(弥生)	2.80	1.75	—	結晶片岩	

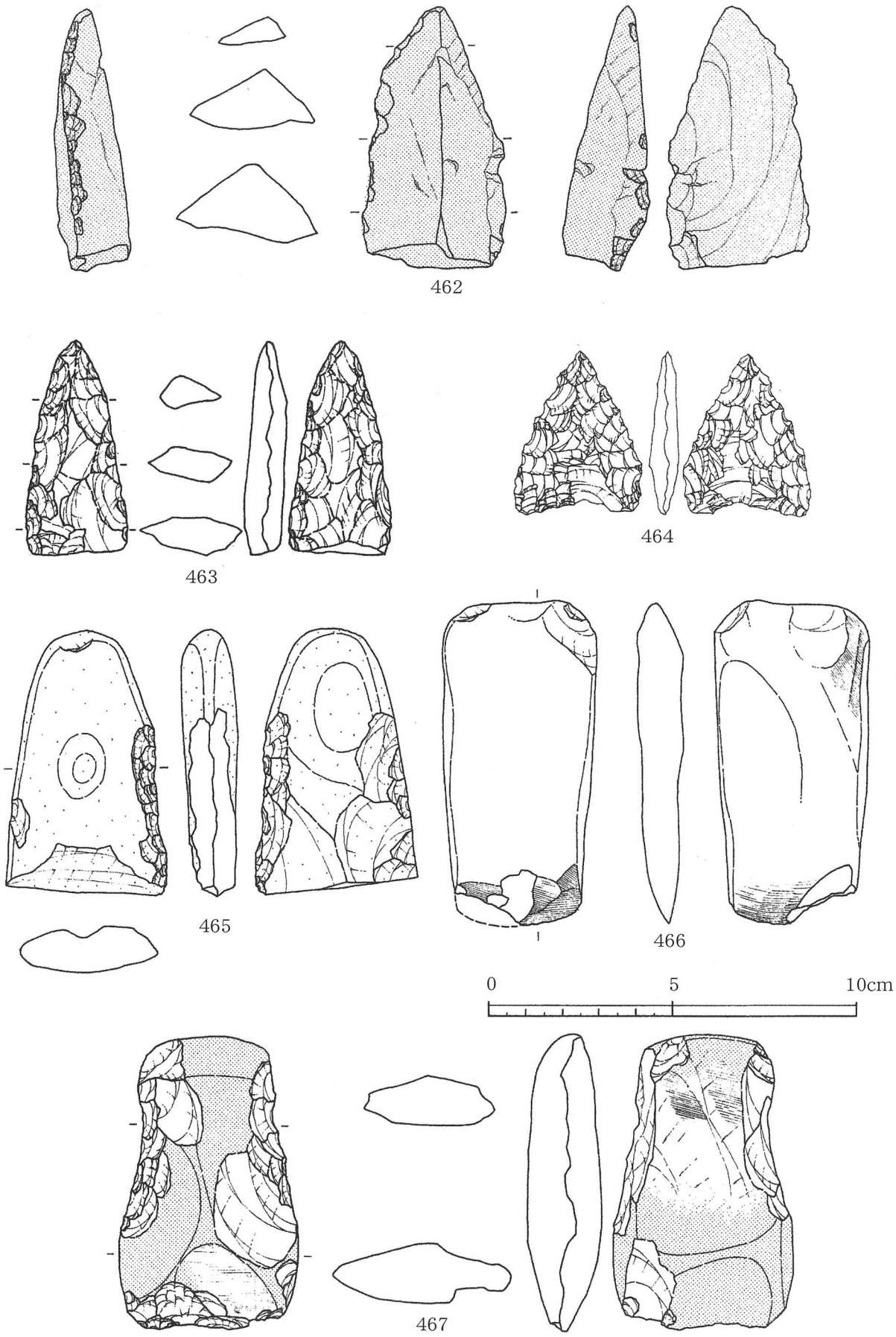
*欠損した石鏃のうち復元可能なものについては、復元した数値を記入した。また、—は計測不能なものである。

表24　出土尖頭状石器観察表

No.	器種	長さ（cm）	幅(cm)	抉り(cm)	石　材	欠損部位
437	尖頭状石器	4.50	3.50	—	ホルンフェルス	
438	尖頭状石器	3.80	2.60	—	ホルンフェルス	
439	尖頭状石器	2.60	1.90	—	ホルンフェルス	
440	尖頭状石器	2.60	2.10	—	ホルンフェルス	
441	尖頭状石器	4.35	3.00	—	ホルンフェルス	
442	尖頭状石器	3.25	2.70	—	ホルンフェルス	
443	尖頭状石器	2.35	2.60	—	ホルンフェルス	
444	尖頭状石器	2.90	2.80	—	良質チャート	
445	尖頭状石器	2.90	2.90	—	良質チャート	
446	尖頭状石器	2.10	2.40	—	良質チャート	
447	尖頭状石器	3.10	2.30	—	良質チャート	片脚部
448	尖頭状石器	3.10	1.95	—	良質チャート	
449	尖頭状石器	2.75	2.30	—	良質チャート	
450	尖頭状石器	3.90	3.65	—	悪質チャート	
451	尖頭状石器	2.60	1.95	—	悪質チャート	
452	尖頭状石器	3.40	2.80	—	悪質チャート	
453	尖頭状石器	2.70	2.40	—	悪質チャート	
454	尖頭状石器	3.25	2.20	—	黒曜石A	
455	尖頭状石器	3.00	2.50	—	黒曜石F	
456	尖頭状石器	3.80	3.25	—	砂岩	

表25　出土石錐観察表

No.	器種	長さ（cm）	幅(cm)	抉り(cm)	石　材	欠損部位
458	石錐	2.20	2.00	—	黒曜石A	
459	石錐	2.45	1.10	—	黒曜石A	
460	石錐	1.80	1.70	—	黒曜石A	
461	石錐	2.60	1.75	—	黒曜石F	



第47図　出土石器実測図(8)

おうとしたが、高さが足りなかったために放棄されたと考えられる。(525)は、赤色チャートを用い、b面を打面、a面を作業面として剥離を行った後、c面に求心状の剥離を行ったものである。

スクレイパー(第51・52図492～505)

連続的な調整が行われたものを、スクレイパーの刃部調製と判断したが、刃部の角度や刃部調製に規則性の無いものも多いため、このうちの多くは石鏃の未製品と考えられる。

二次加工剥片(第53図506・508～519)

二次加工が行われたものはごく少量に過ぎない。うち大部分をここに掲載した。この中で黒曜石製のものは、どれも小ぶりの剥片に加工を行ったものであるため、恐らく石鏃の製作を意図したと考えられる。

使用痕剥片(第53・54図507・520～524)

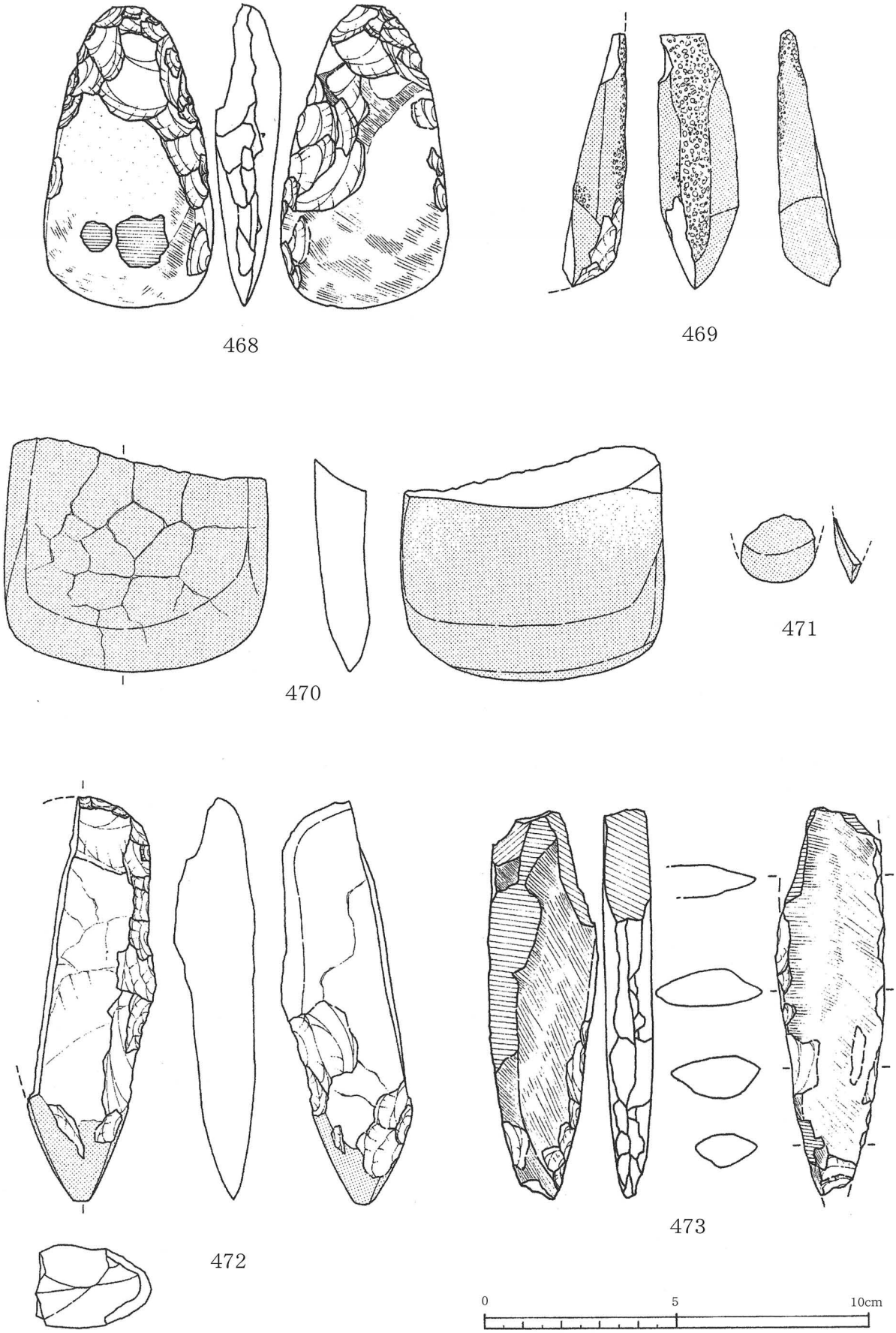
鋭利な剥片の縁辺に、刃こぼれ状の使用痕が認められたものである。本遺跡からは、6点のみ確認された。

剥片(第54図526・527)

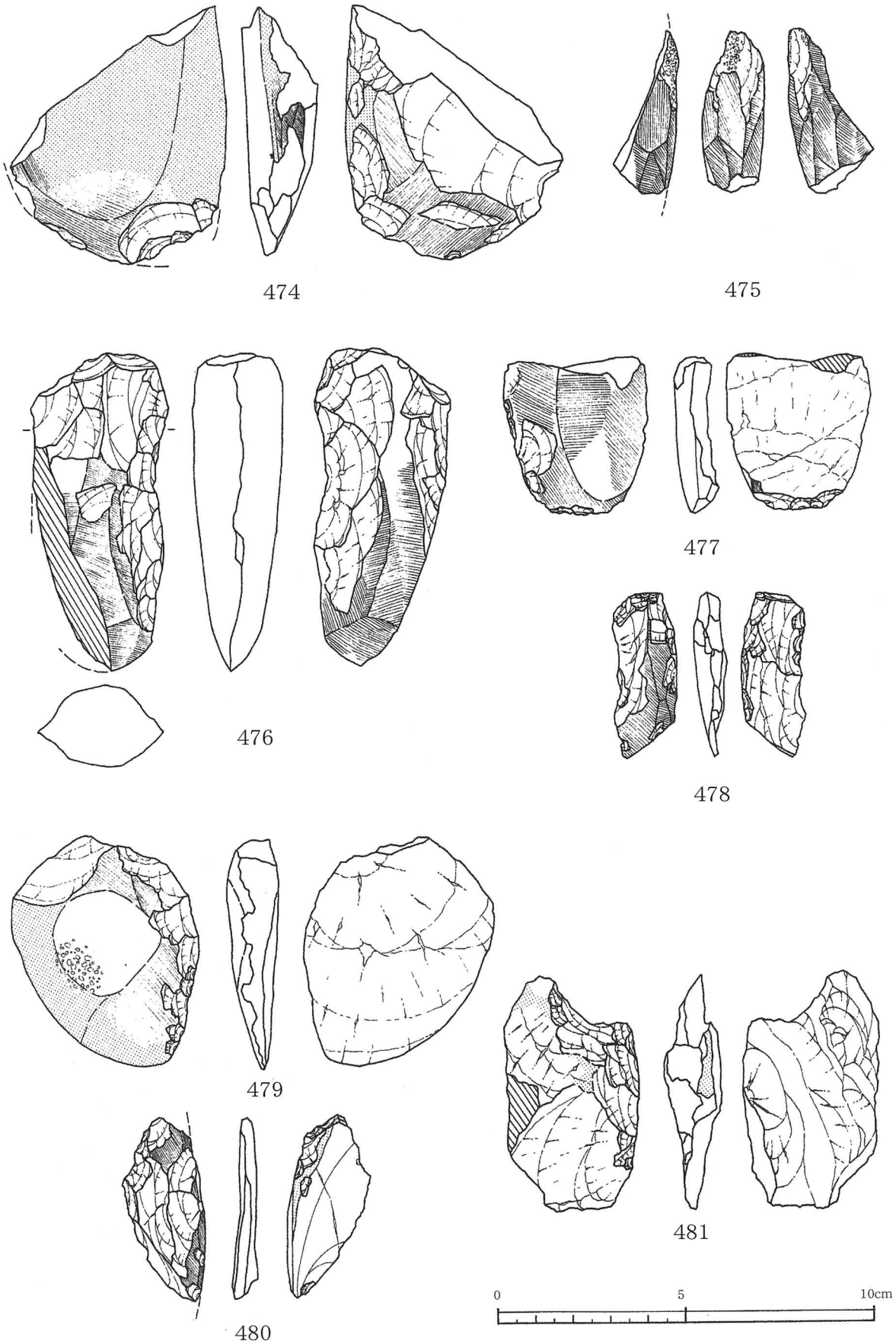
(526)は、打面転移を行う剥片から剥離された不定形な剥片である。打面の奥行きから、作業面を再生しようとしたと考えられる。(527)は、連続的な剥片剥離作業により作出された、定形的な縦長剥片である。全面丁寧に磨かれているが、その意図は不明である。右側縁に残された2枚の剥離は、研磨の後に行われたものである。

用途不明石器(第54・55・60・61図528～537・580～586)

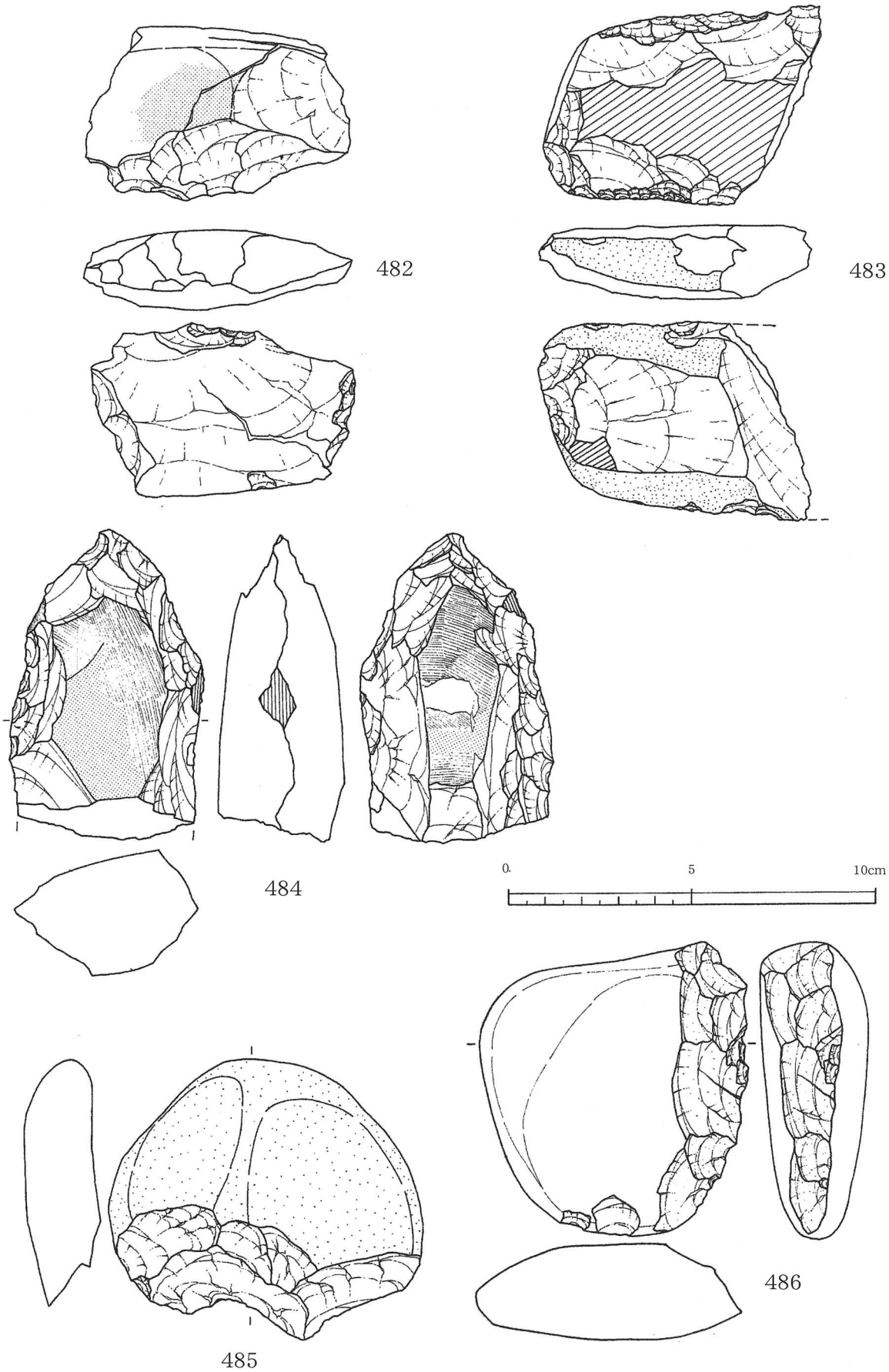
(528)は、円形になるよう砂岩の周縁に調整を加えた後、部分的に磨きを行ったものである。部位から使用によるものとは考えにくく、また何らかの成形を目的とした作業とも思えない。(529)は、スクレイパーの一端に研磨を行ったものである。厚みを減らそうとした目的も窺えるが、この研磨は端部にまで及んでおり、目的を超えた作業であると判断し、不明石器に加えた。(530～534)は、ホルンフェルスを磨いて成形したものである。(530)は、中心部よりやや下部がくびれ、末端部には、抉りにも似た刻目を設ける。これに対し、上部の縁辺には剥離痕が残されていることから、石鏃などの刺突具である可能性は低く、形態的にはトロトロ石器(註1)に近い。また、(531・532)は、その未製品であると思われる。(533)は、紡錘形に成形が行われる。(534)の正面形は石鏃のようであるが、全面に行われた研磨は、尖端部を尖らせるよりも薄手に仕上げることが優先されていることから、これに含めた。(535)は、小ぶりの礫の平坦面に研磨が行われたものである。凹みは認められず、平坦にすることを意図したものである。(536)は、三日月形の礫である。非常に薄手であり、縁辺に僅かに剥離は認められるが、ほぼ自然礫の形状を保っている。(537)は、水晶に加工を行ったものである。(580・584)は、一見すると磨石のようであるが、敲打痕はどこにもなく、全面が万遍なく磨かれていることから、別器種であると判断した。(582)は、角礫の片面が磨かれたもので、石皿の欠片とも考えられる。(583・585)は、四万十層群の円礫である。研磨痕は認められないが、自然な状態でこの層に混入することは考えにくく、集落形成時に、外部より持ち込まれたものと考えられる。(586)は、



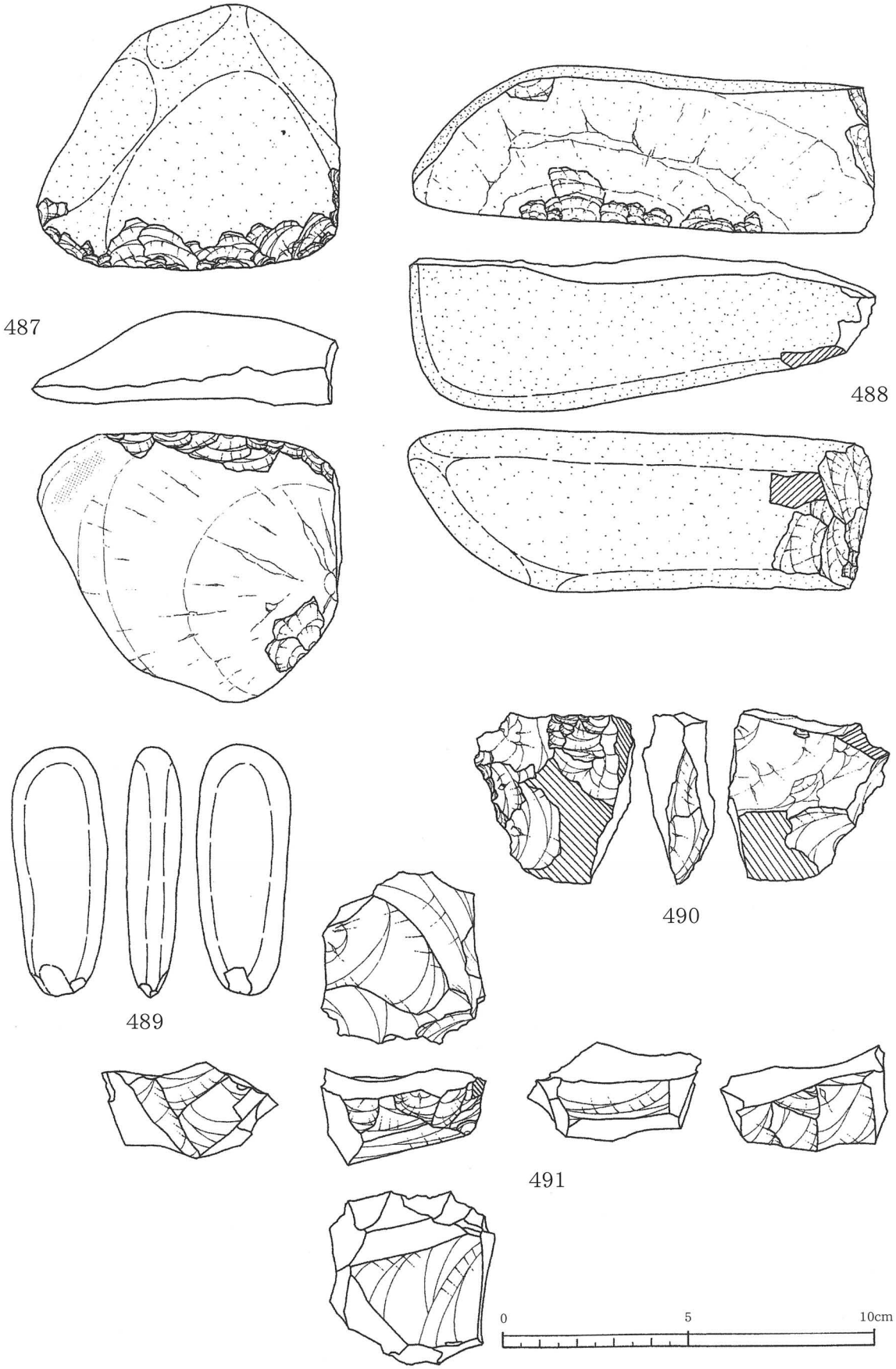
第48図　出土石器実測図(9)



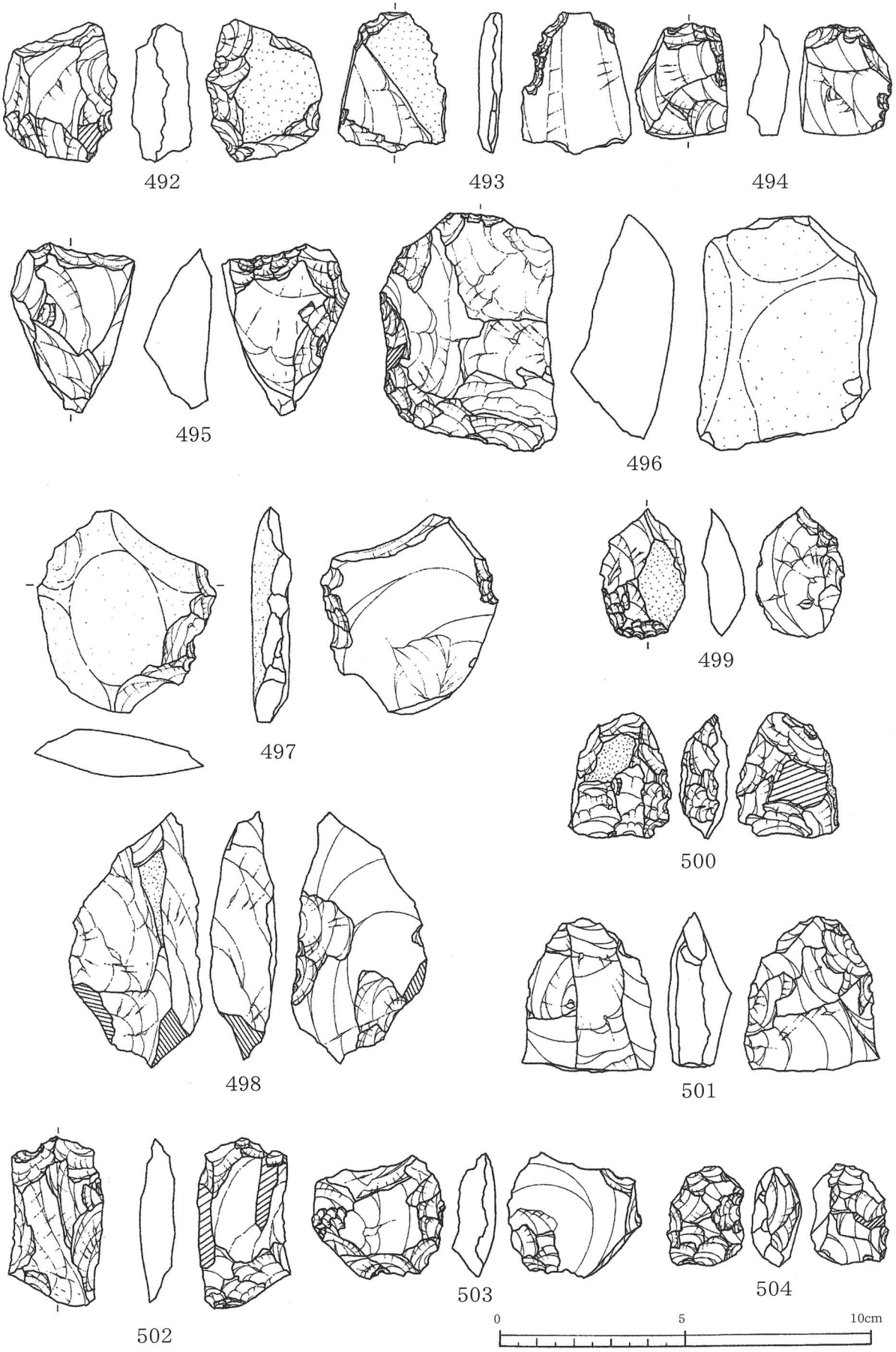
第49図　出土石器実測図(10)



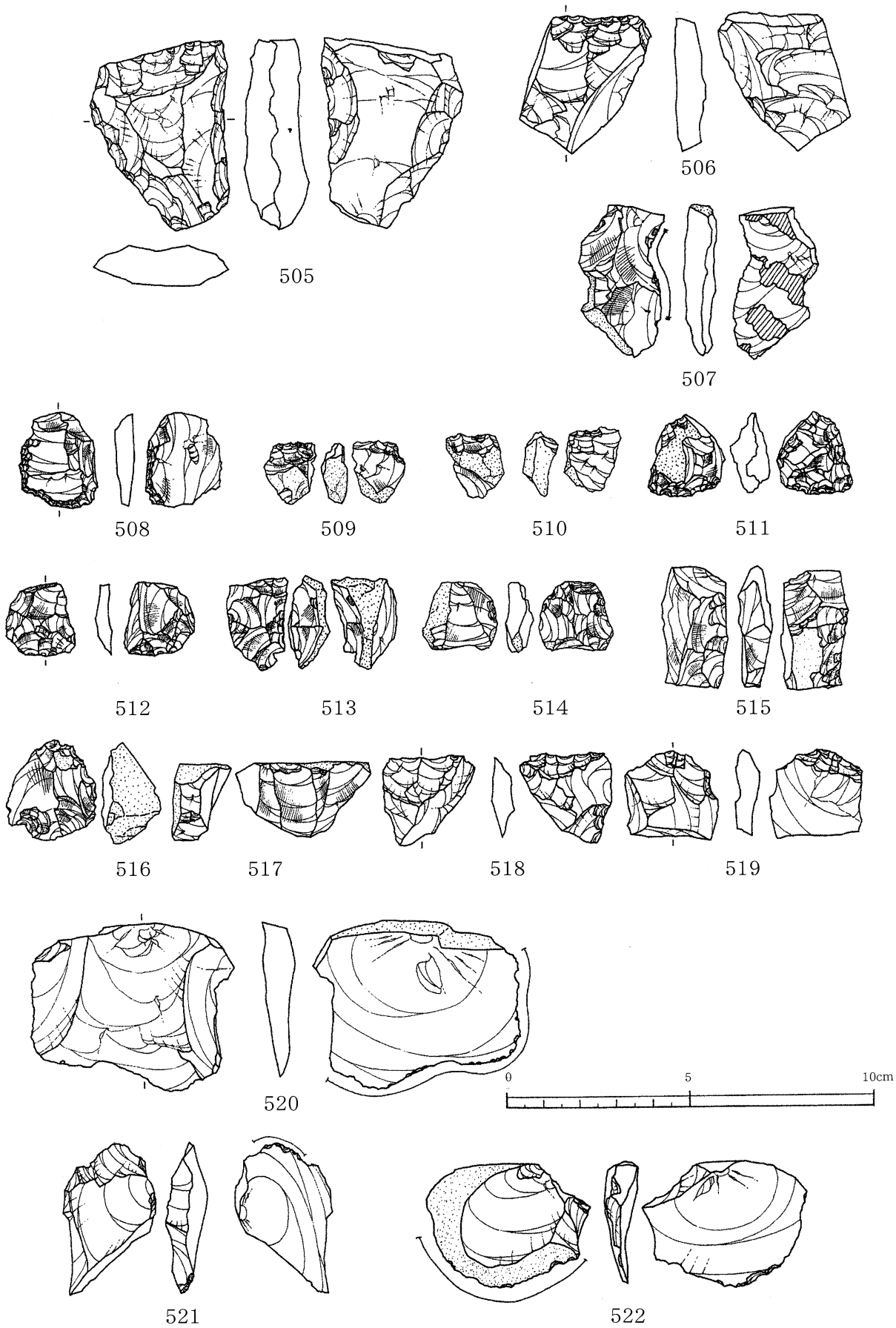
第50図　出土石器実測図(11)



第51図　出土石器実測図(12)



第52図　出土石器実測図(13)



第53図　出土石器実測図(14)